

目 次

文 学 部

日本文学科	3
中国文学科	27
外国語文化学科	35
史学科	45
哲学科	63

文 学 部

【日本文学科】

秋 澤	互 教 授		5
石 川 則 夫	教 授		6
上 田 正 行	教 授		7
遠 藤 和 夫	教 授		8
大久保 一 男	教 授		9
岡 田 哲	教 授		10
小 川 直 之	教 授		11
久 野 マリ子	教 授		12
佐 野 光 一	教 授		13
新 谷 尚 紀	教 授		14
辰 巳 正 明	教 授		15
谷 口 雅 博	助 教		16
傳 馬 義 澄	教 授		17
豊 島 秀 範	教 授		18
長 野 隆 之	准 教 授		19
橋 本 貴 朗	助 教		20
花 部 英 雄	准 教 授		21
針 本 正 行	教 授		22
松 尾 葦 江	教 授		23
諸 星 美智直	教 授		24
山 岡 敬 和	准 教 授		25
吉 田 永 弘	准 教 授		26

【職・氏名】教 授 秋 澤 亙 (AKIZAWA Wataru)
 【学 位】博士(文学)(平成20年3月 國學院大學文乙第233号)
 【生 年】昭和37(1962)年
 【本学就任】平成8(1996)年4月1日
 【略 歴】國學院大學文学部文学科卒業
 國學院大學大学院文学研究科日本文学専攻博士課程後期単位取得満期退学
 活水女子大学文学部専任講師
 【専門分野】平安朝文学

【最近5年間の主な研究業績等】 [平成18～22年度] (10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
編著	共	『王朝文化を学ぶ人のために』	世界思想社	全278p	平22. 8
論文	単	「源氏物語の音楽・舞楽と准拠―男踏歌をめぐる―」	『王朝文学と音楽』 竹林舎	全614p中 pp.506-529	平21. 12
論文	単	「源氏物語と歌謡―作中女性の受容をめぐる―」	『國學院雑誌』 第110巻第11号 國學院大學	全455p中 pp.117-127	平21. 11
論文	単	「仕立物の依頼―不在の時姫の喚起する文脈から―」	『日記文学研究』 第三集 新典社	全283p中 pp.66-89	平21. 10
論文	単	「『源氏物語』明石の君の育ちと素養」	『國學院大學大学院平安文学研究』 第一号 國學院大學平安文学研究会	全144p中 pp.31-40	平21. 9
論文	単	「明石一族の和歌」	『源氏物語の歌と人物』 翰林書房	全461p中 pp.91-109	平21. 5
論文	単	「校異から見た官職―『源氏物語』賢木巻の太政大臣と大将―」	『源氏物語の新研究―本文と表現を考える―』 新典社	pp.167-189	平20. 11
論文	単	「谷崎源氏と玉上琢彌―國學院大學蔵『潤一郎新訳源氏物語』自筆草稿から―」	『國學院雑誌』 第109巻第1号 國學院大學	pp.174-188	平20. 10
論文	単	「天皇・上皇」	『王朝文学と官職・位階』 竹林舎	pp.368-388	平20. 5
著書	単	『源氏物語の准拠と諸相』	おうふう	全449p	平19. 3

【平成17年度以前の主な研究業績等】 (5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	「日記文学史小見―『和泉式部日記』の呼称「女」を端緒として―」	『王朝女流文学の新展望』 竹林舎	全525p中 pp.186-206	平15. 5
論文	単	「相人の予言と准拠―物語と歴史が生んだ奇跡―」	『源氏物語と古代世界』 新典社	pp.116-137	平9. 10
論文	単	「松浦なる玉鬘―その舞台設定の意義をめぐる―」	『國學院雑誌』 第97巻第12号 國學院大學	pp.18-34	平8. 12
論文	単	「「夜光る玉」考」	『中古文学』 50号	pp.22-30	平4. 11
論文	単	「孤絶の構造」	『野州国文学』 49号 國學院大學栃木短期大学国文学会	pp.65-92	平4. 3

【所属学会】國學院大學國文學會、中古文学会、全国大学国語国文学会、西日本国語国文学会、日記文学会

【最近の社会的活動等】

【教育活動について】

正課教育でカラー図版を使った授業を展開している。担当科目の都合上、平安朝当時の衣装や色などの風俗を可視的に示す必要が多く、これに対しては現在普及しているモノクロ複写では対応できない。ために、カラー図版による資料を提供し、学習の理解を飛躍的に高めようというものである。また、日記文学会との連携による『和泉式部日記』の演習授業を展開しており、現在その成果報告をまとめている段階である。

【研究活動について】

平成19年3月に上梓した『源氏物語の准拠と諸相』(おうふう)で、平成20年3月に「博士(文学)」の学位を取得した。また、平成18年6月に國學院大學図書館が谷崎潤一郎二女の観世恵美子氏から寄贈を受けた『谷崎潤一郎新訳 源氏物語』の草稿に関する研究プロジェクトを進めている。

【職・氏名】教 授 石 川 則 夫 (ISHIKAWA Norio)
 【学 位】博士(文学) (平成22年7月 國學院大學文乙第254号)
 【生 年】昭和32(1957)年
 【本学就任】平成8(1996)年4月1日
 【略 歴】國學院大學文学部文学科卒業
 國學院大學大学院文学研究科日本文学専攻博士課程単位取得満期退学
 【専門分野】日本近代文学

【最近5年間の主な研究業績等】〔平成18～22年度〕（10点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文	単	「小林秀雄「真贋」論―その虚構を貫くもの―」	『都留文科大学研究紀要』 第71集 都留文科大学	pp.53-74	平22. 3
論文	単	「「ごん狐」論・その伝承の時空へ」	『國學院大學教育学研究室紀要』 第44号 國學院大学文学部教育学研究室	pp.1-12	平22. 2
著書	単	『文学言語の探究―記述行為論序説―』	笠間書院	全403p	平22. 2
論文	単	「〈文脈〉の匿名性と意味の変容―川端康成「金糸雀」を事例として―」	『日本文学』 第58巻8号 日本文学協会	pp.2-11	平21. 8
論文	単	「小林秀雄「慶州」から「骨董」まで―「骨董いぢり」の認識論へ―」	『國學院雑誌』 第110巻第5号 國學院大學	pp.14-27	平21. 5
論文	単	「小林秀雄・〈形姿〉という文体―その生起をめぐって―」	『國學院大學紀要』 第四十七巻 國學院大學	pp.21-41	平21. 2
論文	単	「書くことの交錯と飛躍―夏目漱石『こころ』論―」	『国文学解釈と鑑賞』 第百六巻三号 至文堂	pp.100-107	平20. 7

【平成17年度以前の主な研究業績等】（5点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文	単	「文学研究の記述行為論へ」	『國學院雑誌』 第104巻第8号 國學院大學	全58p中 pp.1-11	平15. 8
論文	単	「共振と共食―宮澤賢治「雪渡り」の歌声―」	『文学の力×教材の力』5 教育出版	全247p中 pp.48-62	平13. 3
論文	単	「物語の失速／小説の挫折◎「伊豆の踊子」再論」	『〈新しい作品論〉へ、〈新しい教材論へ〉2』 右文書院	pp.144-158	平11. 2
論文	単	「現在を喚起する文体―堀辰雄「不器用な天使」論―」	『國學院雑誌』 第99巻第10号 國學院大學	pp.44-57	平10. 10
論文	単	「読まれる〈私〉の生成―作品・日記・作家―」	『日本文学論究』 第55冊 國學院大學國文學會	pp.2-10	平8. 3

【所属学会】日本近代文学会、昭和文学会、川端文学研究会、言語問題総合研究会、國學院大學國文學會、横光利一文学会、日本文学協会

【最近の社会的活動等】
 明治書院国語教科書編集委員(平成10年3月～現在)

【教育活動について】
 1年生の講義科目においては、専任教員6名で共通テキストを作成し前後期ごとに教授方法と資料の検討を重ねてよりよい授業の提供に努めている。2年生の講義科目では、基本的な近代文学作品を選び、その読解方法と文学研究への問題意識を高めるように心がけている。また、必ず研究論文の読解も指導している。3、4年生対象の演習科目では、対象作品の精読とともに先行研究論文の検討批判を必ず課し、卒業論文作成への姿勢が身につくように留意している。また、全学年を対象にした自主ゼミ「近現代文学読書会」を結成し、卒論指導もかねて文学研究の基礎から展開まで毎週1回と夏期合宿を行っている。

【研究活動について】
 2005～7年まで昭和文学会編集委員、2007～9年まで日本近代文学会編集委員を務め、それぞれの機関誌(学術雑誌)への論文査読委員を担当した。また、2010年2月に、國學院大學出版助成を得てこれまでの研究業績に基づく論文集『文学言語の探究』(笠間書院)を刊行し、これをもって学位(博士(文学))を授与された。

【職・氏名】教 授 上 田 正 行 (UEDA Masayuki)
 【学 位】文学修士
 【生 年】昭和18(1943)年
 【本学就任】平成21(2009)年4月1日
 【略 歴】東京教育大学大学院文学研究科日本文学専攻博士課程単位取得満期退学
 島根大学教育学部助教授
 金沢大学文学部教授
 【専門分野】日本近代文学

【最近5年間の主な研究業績等】 [平成18～22年度] (10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	『『草枕』—典拠を無化するテキスト』	『國語と國文學』87巻5号 東京大学国語国文学会	pp.1-15	平22. 5
論文	単	『鏡花と日清戦争／覚書』	『鏡花研究』12号 石川近代文学館	pp.153-180	平22. 3
論文	単	『一葉—「厭ふ恋」のペシミズム』	『國學院大學紀要』第48巻 國學院大學	pp.16-27	平22. 2
論文	単	『『我尊会文集』に見る若き日の藤岡東圃』	『國學院雑誌』第111巻第2号 國學院大學	pp.53-66	平22. 2
学会発表等	単	『台湾愛国婦人』という雑誌	『言語と文芸』125号 おうふう	pp.5-36	平21. 3
翻訳・翻刻書	単	『我尊会文集 第一』(続)	『金沢大学歴史言語文化学論集 言語・文学篇』第1号 金沢大学	pp.1-33	平21. 3
論文	単	『金沢と近代文学—三文豪を中心に』	『解釈と鑑賞』73巻11号 至文堂	pp.6-15	平20. 11
著書	単	『中心から周縁へ—作品、作家への視覚』	梧桐書院	全380p	平20. 8
論文	共	『中桐雅夫』	『展望 現代の詩歌』第1巻 明治書院	pp.147-171	平19. 1
著書	単	『鷗外・漱石・鏡花—実証の糸』	翰林書房	全557p	平18. 6

【平成17年度以前の主な研究業績等】 (5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
翻訳・翻刻書	単	『千歳之鉢』(鏡花)の校異	『市史かなざわ』8号 金沢市	pp.67-82	平14. 3
編著	共	『金沢市史・資料編 15(学芸)』	金沢市	pp.156-190, 256-287	平13. 3
翻訳・翻刻書	単	『愛国婦人』文芸関係主要記事(1)	『金沢大学国語国文』24号 金沢大学	pp.65-76	平11. 2
翻訳・翻刻書	単	『狩野亨吉日記』(金沢時代)の翻刻(1)	『市史かなざわ』4号 金沢市	pp.109-120	平10. 3
著書	単	『石川近代文学全集 第16巻 近代詩』	石川近代文学館	全641p	平3. 10

【所属学会】森鷗外記念会、日本近代文学会、国文学言語と文芸の会、島大國文の会、金沢大学国語国文学会

【最近の社会的活動等】

大学評価・学位授与機構大学評価委員会専門委員(平成14年～平成16年)、
 石川近代文学館専門委員(昭和60年～現在)、金沢市史専門委員(学芸部会)(平成6年～平成18年)

【教育活動について】

学部の演習は芥川作品を扱ったせい、か学生の発表も活発で理想的な形で進んでいる。学部の講義は鏡花作品のためか特に後期からの受講生が少ないので苦慮している。受講者数減の原因を掴めていない。

【研究活動について】

平成22年になってからの活字論文は7本で、他に事典執筆もあり、かなり充実した1年であった。尤も、論文作成は前年度中のことであり、今年度もこれに続きたいと願っている。

【職・氏名】教 授 遠 藤 和 夫 (ENDO Kazuo)
 【学 位】博士(文学)(平成14年3月 國學院大學 文乙第170号)
 【生 年】昭和15(1940)年
 【本学就任】平成8(1996)年4月1日
 【略 歴】國學院大學文学部文学科卒業
 國學院大學大学院文学研究科日本文学専攻博士課程単位取得満期退学
 和洋女子大学文家政学部国文学科教授
 【専門分野】国語史(国語史学)
 【受賞歴等】金田一京助博士記念賞(昭和54. 5)、吉川泰雄先生記念賞(平成15. 2)

【最近5年間の主な研究業績等】〔平成18～22年度〕(10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文	単	「大内家伝来本『源氏物語』書写者の人々」	『源氏物語本文の再検討と新提言』3 國學院大學文学部日本文学科	pp.105-112	平22. 3
論文	単	「湖月抄の版本と活字本との狭間」	『源氏物語本文の再検討と新提言』2 國學院大學文学部日本文学科	pp.13-24	平21. 3
論文	単	『『湖月抄』の注釈における当代語—桐壺・『細流抄』を中心として—』	『國學院雑誌』 第109巻第10号 國學院大學	pp.134-149	平20. 10
評論・ 書評等	単	書評:「釘貫亨著『近世仮名遣い論の研究』五十音図と古代日本語音声の発見」	『國學院雑誌』 第109巻第4号 國學院大學	pp.41-44	平20. 4
調査・研究 報告等	単	「国語学における言霊」	「國學院大學・短期大学文学系 五学会連合フォーラム報告書 『『國學院の学問』をひらく』」	pp.60-68	平20. 3
調査・研究 報告等	単	「吉川史料館本源氏物語の一特徴」	「平成19年度科学研究費補助金 基盤研究(A)研究成果報告書」	pp.123-130	平20. 3
論文	単	「親行本『下官集』考」	『國學院雑誌』 第108巻第11号 國學院大學	pp.247-256	平19. 11
論文	単	「平瀬本『源氏物語』の再評価」	『國學院雑誌』 第107巻第9号 國學院大學	pp.1-14	平18. 9

【平成17年度以前の主な研究業績等】(5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
著書	単	『定家仮名遣の研究』	笠間書院	全400p	平14. 1
論文	単	「助動詞の体系—文語・推量の助動詞を例として—」	『和洋国文研究』 23号 和洋女子大学国文学会	pp.101-109	昭63. 3
論文	単	「助動詞「らむ」の口語性」	『田辺正男博士古稀記念国語学 論集』 桜楓社	pp.391-406	昭54. 8
論文	単	『『定家かなづかい』の再評価』	『国文学ノート』 14号 成城短期大学部	pp.57-106	昭51. 3
論文	単	「小林歌城所持本『稿本和字正濫鈔』考」	成城大学文芸学部創立20周年 記念論文集	pp.91-130	昭49. 6

【所属学会】日本語学会、訓点語学会、國學院大學国語研究会、木簡学会

【最近の社会的活動等】

印西市中央公民館『源氏物語』講義、白井市駅前センター『源氏物語』講義(平成元年～現在)、
 印西市市史編纂委員(平成4～13年)、印西市文化財審議委員(平成6年～現在)、
 法務省人権擁護委員(平成9年～現在)、印西市道路等ネーミング委員(平成12年～現在)

【教育活動について】

松尾捨治郎『国語学史講義』を複製し、それを基礎として講義を展開した。歴史的かなづかいや旧字体の訓み、古い文献に出現する語彙等に関する語彙等を持った学生が多かったと思う。また演習では湖月抄版本をシラバスで配布して各自のプリントアウトにゆだねたので、低費用で確実な教材配布ができた。

【研究活動について】

豊島教授代表の『源氏物語の本文資料に関する共同研究』で、研究発表を二度行い、他に百二十句本平家物語に関する研究発表および講演をおこなった。

【職・氏名】教 授 大 久 保 一 男 (OKUBO Kazuo)
 【学 位】博士(文学)(平成7年1月 國學院大學 文乙第117号)
 【生 年】昭和20(1945)年
 【本学就任】昭和58(1983)年4月1日
 【略 歴】國學院大學文学部文学科卒業
 國學院大學大学院文学研究科日本文学専攻博士課程単位取得満期退学
 山梨県立女子短期大学助教授
 【専門分野】国語学
 【受賞歴等】今泉博士記念賞(平成7. 3)

【最近5年間の主な研究業績等】 [平成18～22年度] (10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
編著	単	『校注 源氏物語 澤標』	武蔵野書院	全65p	平22. 2
評論・ 書評等	単	「私のお気に入り」	『國學院雑誌』 第110巻第12号 國學院大學	全49p中 pp.28-29	平21. 12
論文	単	「文化審議会答申「敬語の指針」について」	『『國學院の学問』をひらく』 國學院大學・短期大学 文学系 五学会連合フォーラム	全91p中 pp.23-27	平20. 3

【平成17年度以前の主な研究業績等】 (5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文	単	「源氏物語若菜上『よゝ』の解」	『国語研究』 第69号 國學院大學国語研究会	全70p中 pp.33-34	平18. 3
論文	単	「覚一本平家物語の『まかる』」	『國學院雑誌』 第104巻第7号 國學院大學	pp.1-12	平15. 7
論文	単	「続日本紀宣命の『ます・います』」	『國學院雑誌』 第103巻第3号 國學院大學	pp.1-10	平14. 3
論文	単	「源氏物語の敬語法に関する一つの事例」	『国語研究』 第64号 國學院大學国語研究会	pp.15-17	平13. 3
論文	単	「敬語表現『わたり給ふ』小考」	『國學院雑誌』 第102巻第1号 國學院大學	pp.1-7	平13. 1

【所属学会】 日本語学会

【最近の社会的活動等】

【教育活動について】

学部教育においては、古典読解のための基本的な語学的事項を習得させることに努めている。担当する「講読」「演習」の、授業中の反応、発表内容、学生からの質問、中間・期末の試験などから習得の度合いを測り、授業計画の作成にあたる。授業は分かり易さに留意し、解説の展開の組み立て、板書に工夫を凝らす。従来、「講読」の授業においては、授業進行の効率面から、授業中の古語辞典使用を採用して来なかったが、22年度後期にそれを試みて、有効性を感じている。向後も、学生の習熟度に即して工夫を重ねていきたい。また、古典文の現代語訳を通して、より豊かな現代語表現の習得にも期待を込める。大学院の教育においては、研究者としての成長に助力することに努める所存である。

【研究活動について】

研究テーマの古代の敬語に関する論文作成と源氏物語の注釈作業とに努めたい。古代の敬語研究については、当面、「謙譲語」と「格式語」とについての考察を進める。暫く中断している「まかる」についてまとめる。源氏物語の注釈については、大学院生との共同作業・演習として行うことを予定している。源氏物語解釈の語学上の諸点について、共同で調査・考察して解答を求める。公表を前提として行いたい。

【職・氏名】教 授 岡 田 哲 (OKADA Satoshi)
 【学 位】文学修士
 【生 年】昭和26(1951)年
 【本学就任】昭和61(1986)年4月1日
 【略 歴】國學院大學文学部文学科卒業
 國學院大學大学院文学研究科日本文学専攻博士課程後期単位取得満期退学
 【専門分野】日本文学、日本近世文学

【最近5年間の主な研究業績等】 [平成18～22年度] (10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
著書	単	『お江戸の名所検定』	技術評論社	全206p	平22. 9
その他	単	『句集あそびがみ』	沖積社	全314p	平22. 9
翻訳・翻刻書	共	『幕末期・開化期文学資料集・仮名垣魯文2』	國學院大学文学部日本文学科1015研究室	全270p	平22. 3
その他	単	『句集阿蘭陀俳諧』	沖積社	全198p	平21. 8
翻訳・翻刻書	単	『『大岡忠相比事』-翻刻と解題-』	『國學院大學近世文学学会会報』第15号 國學院大學近世文学学会	全110p中pp.11-41	平21. 3
教科書・参考書	共	『ビジネス文書文例集』	かんき出版	全288p	平20. 6
論文	単	『『日本永代蔵』の造形－連想の連鎖－』	『國學院雑誌』 第108巻第1号 國學院大學	pp.1-13	平19. 1

【平成17年度以前の主な研究業績等】 (5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	『『大岡政談』余滴』	『江戸文学』 29 ぺりかん社	全192p中pp.94-97	平15. 11
論文	単	『『国に移して風呂釜の大臣』攷』	『國學院大學紀要』 第38巻 國學院大學	pp.165-187	平12. 3
論文	単	『『日本永代蔵』の〈語り〉の方法』	『國學院雑誌』 第100巻第1号 國學院大學	pp.1-14	平11. 1
著書	単	『馬場文耕集』	国書刊行会	全334p	昭62. 10
著書	共	『江戸時代落書類聚』	東京堂出版	全1439p	昭60. 4

【所属学会】日本近世文学会、日本文学協会

【最近の社会的活動等】

國學院大學横浜社会人大学講座講師(平成11年)、第47回全国高等学校国語教育総合研究会講師(平成18年8月)
 大学基準協会専門分科会委員(平成18・19年度)

【教育活動について】

継続して配慮していることは、双方向の授業形態、及び視覚的教材の工夫などである。発問・応答、ノートを取りやすい板書及びその時間の確保など、注意を払っている。特に近年学生間の理解度の格差が大きく、教室のみならずオフィス・アワーの時間を多く取るなどして対応している。また18年度より導入教育用としての必修科目教科書を、学科担当教員とともに作成した。毎年検討会を持ち、年度ごとに教材を工夫した改訂版を出している。研究室においては、希望学生の参加を得て、週一回のペースで近世文学に関わる作品の輪読・演習発表などを行っている。また合わせて表現創作能力の錬磨のために、定期的に俳句創作の批評会も実施している。研究室の研究成果は、毎年雑誌の形でまとめ、発行している。今までもCD版を作成するなど発信の工夫を行ってきたが、近時的には、それら成果をインターネットで閲覧できるように準備を進めている。

【研究活動について】

主として近世期の散文を専門としているが、近年は本学の伝統である日本文化論(民俗学)の成果を取り入れた作品分析方法など、新たな読解の可能性を模索している。また実録体小説を中心とした未紹介作品の基礎的調査と翻刻に力を注いでいる。あわせて21年度に本学の「特色ある教育研究」の指定を受けて、若手研究者とともに、近世・近代分野合同での未紹介作品の基礎的調査と翻刻に従事し、現在も月1回のペースで研究会を行い、成果の蓄積に努めている。

【職・氏名】教 授 小 川 直 之 (OGAWA Naoyuki)
 【学 位】博士(民俗学)(平成7年11月 國學院大學 文乙第124号)
 【生 年】昭和28(1953)年
 【本学就任】平成6(1994)年4月1日
 【略 歴】國學院大學文学部文学科卒業
 平塚市博物館主任学芸員
 國學院大學専任講師・助教授
 【専門分野】民俗学
 【受賞歴等】第1回日本民俗学会研究奨励賞(昭和56年)

【最近5年間の主な研究業績等】[平成18～22年度] (10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	「神樹考—その信仰内容の検討—」	『東アジア比較文化研究』第9号 東アジア比較国際会議日本支部	全110p中 pp.42 -61	平22. 10
論文	単	「柳田国男の「新国学談」と民俗学」	『伝承文化研究』第9号 國學院大學伝承文化学会	全192p中 pp.11 -28	平22. 7
論文	単	「日本的端午節供」	『2010中国端午習俗国際学術検討会 (嘉興)論文集』 中国端午習俗国際学術検討会筹委会 弁公室	全266p中 pp.15 -20	平22. 6
論文	単	「『後狩詞記』『遠野物語』と坪井民俗学」	『季刊東北学』第23号 東北芸術工科大学東北文化研究セン ター	全272p中 pp.22 -35	平22. 5
論文	単	「折口民俗学の可能性—今、なぜ折口信夫 なのか—」	『山陰民俗研究』15号 山陰民俗学会	全114p中 pp.1 -16	平22. 3
論文	単	「『むすび』の精神史／折口信夫の「むすび」 論」	『折形デザイン研究所の新・包結図説』 折形デザイン研究所	全144p中 pp.36 -62	平21. 11
論文	単	「折口信夫「三郷巷談」の意趣」	『口承文芸研究』第32号 日本口承文芸学会	全192p中 pp.10-28	平21. 3
論文	単	「画像資料研究の課題—「劣化画像の再生 活用と資料化に関する研究」の成果を踏ま えて—」	『國學院大學日本文化研究所紀要』 第100輯 國學院大學日本文化研究所	全434p中 pp.141-167	平20. 3
論文	単	「民俗芸術写真と民俗研究」	『折口博士記念古代研究所紀要』 第10輯 國學院大學折口博士記念古代研究所	全141p中 pp.1-70	平19. 3
論文	単	「「花より団子」の心意」	『伝承文化研究』第6号 國學院大學伝承文化学会	全176p中 pp.1-14	平19. 3

【平成17年度以前の主な研究業績等】(5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
編著	共	『折口信夫・釋迢空—その人と学問—』	おうふう	全402p中 pp.39-77, pp.361-402	平17. 4
編著	共	『多摩民具事典』	(財)たましん地域文化財団	全400p	平9. 10
著書	単	『歴史民俗論ノート』	岩田書院	全122p	平8. 2
著書	単	『摘田稲作の民俗学的研究』	岩田書院	全600p	平7. 7
著書	単	『地域民俗論の展開』	岩田書院	全416p	平5. 6

【所属学会】日本民俗学会、日本民具学会、日本文化人類学会、棚田学会、東アジア比較文化国際会議

【最近の社会的活動等】

文部科学省文化審議会専門委員(文化財分科会)(平成16年～現在)、神奈川県文化財保護審議委員(平成14年～現在)、
 棚田学会理事(平成11年～現在)、日本民具学会理事(平成22年～現在)、八王子市史編集委員会委員(平成21年～現在)

【教育活動について】

大学院と学部教育活動がある。前者では院生個々の研究進展と幅広い知識の修得が目標で、授業科目・論文指導演習での指導に加え、院生が行う学会発表(口頭、論文)に対しては、それぞれ数回にわたる論文添削と個別指導を行い、研究の深化をはかっている。また、演習授業での院生発表は提出された研究レポートを毎年『折口学における術語形成と理論』という研究誌にして出版し、院生の研究成果公開に努めるとともに、研究誌作成にあたっては版下編集から刊行のプロセスを修得できるように輪番で実務を担当させている。後者の学部教育ではシラバスに明記した到達目標の達成を第一とし、演習科目では資料収集の方法とその分析、これを根拠とした仮説提示の過程が修得できるような指導を繰り返している。

【研究活動について】

学内の折口博士記念古代研究所ならびに伝統文化リサーチセンター資料館での研究プロジェクトでの研究活動、専門分野に関する事典や叢書・選集、個人著作集の編集と原稿執筆、月刊誌で連載を行っている歳事伝承に関する記事原稿の執筆、学内のオープンカレッジで担当する講座に関する講義資料作成、自己の研究課題に関する現地調査と資料収集の5つが研究活動の柱となっている。自己の研究活動に関する現地調査は、中国・台湾など東アジア圏での活動も行い、これには参加を希望する学部生・院生を引率するなどの研究指導をともなっている。

【職・氏名】教 授 久 野 マ リ 子 (KUNO Mariko)
 【学 位】博士(文学)(平成18年3月 國學院大學 文乙第218号)
 【生 年】昭和24(1949)年
 【本学就任】昭和59(1984)年4月1日
 【略 歴】高知女子大学文学部国文学科卒業
 東京都立大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得満期退学
 國學院大學日本文化研究所教授
 【専門分野】日本語学、方言学、音声学
 【受賞歴等】沖縄文化協会金城朝永賞(平成6.11)、吉川博士記念賞(平成19. 6)

【最近5年間の主な研究業績等】〔平成18～22年度〕（10点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年 月
論文	共	「非首都圏における大学生の言語生活 ―高知大学の場合」	『首都圏方言の研究』1 國學院大学大学院久野研究室	全8p	平22. 3
編著	単	『首都圏方言からみた新しい射程と広がりへの試み』	『首都圏方言の研究』1 國學院大学大学院久野研究室	全95p	平22. 3
調査・研究報告等	単	「平成19年度日本語教育実習報告 ―南台科技大学におけるサマーキャンプ―」	私家版	全121p	平20. 6
論文	単	「八丈方言若年層における共通語アクセントの習得の実態(特集 日本語アクセントの獲得・習得研究)」	『音声研究』11－3 日本音声学会	pp.7-22	平19. 11
編著	共	『日本のことばシリーズ15 新潟県のことば』	明治書院	全255p	平19. 3
編著	共	『日本のことばシリーズ41 佐賀県のことば』	明治書院	全172p	平19. 3
編著	共	『日本のことばシリーズ13 東京都のことば』	明治書院	全260p	平19. 3
論文	単	「日系ブラジル人の日本語 ―日系1世の日本語事情―」	『國學院雑誌』第108巻第11号 國學院大學	pp.50-66	平18. 11
論文	単	「首都圏方言の提案 ―東京ではどう話しているか―」	ANAIS DO XVII ENCONTRO NACIONAL DE PROFESSORES UNIVERSITARIOS DE LINGUA,LITERATURA E CULTURA JAPONESA CENTRO DE ESTUOS JAPONESES DA UNIVERSIDADE SAO PAULO	全430p中 pp.27-38	平18. 8
【平成17年度以前の主な研究業績等】（5点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年 月
著書	単	『日本方言基礎語彙の研究』	おうふう	全412p	平17. 6
論文	単	「琉球方言における視点移動に関わる表現について」	『世界に拓く沖縄研究』 第4回「沖縄研究国際シンポジウム」実行委員会編集発行	pp.225-237	平15. 10
編著	共	『東京語のゆくえ』	東京堂	全381p	平8. 3
編著	共	『現代日本語方言大辞典』	明治書院	1～6巻; 全5547p, 7～9巻; 全1487p	平4. 2
著書	共	『琉球竹富島の方言』	國學院大學日本文化研究所	全141p	平2. 3

【所属学会】日本音声学会、日本語学会、日本言語学会、日本方言研究会、國學院大学国語研究会、社会言語科学会、日本音韻研究会、古事記学会
 【最近の社会的活動等】
 日本学術振興会科学研究費補助金 審査委員(平成17～18年)・審査第二部会文学小委員会委員(平成21～22年)
 国立国語研究所外部評価委員(平成21年～現在)

【教育活動について】
 國學院大學方言研究会を主宰。方言調査、調査研究のまとめのために合宿(二泊三日)を実施した。方言研究会は本学初の文学部学生立案支援プログラムに採択された。卒業論文の学生を毎年20数名指導している。必ず、卒業論文の中間発表会、まとめの発表会を行い、広く卒業論文の成果を学内に知らせている。卒業論文指導の学生は大学院進学、教職など各方面で活躍している。大学院のゼミ研究をもとに『首都圏方言の研究』を刊行し、大学院生の指導を行い優れた論文を掲載した。大学院生は企業、社会教育委員会などの就職している。また、留学生の研究指導も積極的に行い、日本語教育研究会での発表を指導した。高校の出前授業にも積極的に参加して大学の研究内容を一般に知らせるようにしている。

【研究活動について】
 国語研究会(国語学研究室主催であるが、会員は学外の研究者も多く、国語学研究の分野では全国的に活躍している)で研究発表を行った。日本音声学会全国大会会場校を引き受けた。全国大会では座長を務めた。日本音声学会音声学普及委員会の代表を務めている。文部科学省科学研究費補助金の分担者として「首都圏方言の基礎的研究」を進めている。首都圏型大学の國學院大學の地の利を生かして、教養のある日本人の話し言葉の研究を進めている。今年度は、学部共同研究費を得た。

【職・氏名】教 授 佐 野 光 一 (SANO Koichi)
 【学 位】美術学修士
 【生 年】昭和25(1950)年
 【本学就任】昭和56(1981)年4月1日
 【略 歴】東京教育大学教育学部芸術学科書専攻卒業
 東京教育大学大学院美術学専攻修士課程修了
 【専門分野】書法、篆刻、金石学

【最近5年間の主な研究業績等】 [平成18～22年度] (10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文	単	「漢隸の成立一点の確立により近代書體が成る。」	『若木書法』 九 國學院大學若木書法會	全117p中 pp.1-20	平22. 3
論文	単	「楚竹書『周易』の文字形體」	『若木書法』 八 國學院大學若木書法會	全106p中 pp.1-30	平21. 3
論文	単	「帛書『五十二病方』の文字形體」	『若木書法』 七 國學院大學文学部若木書法會	全106p中 pp.1-18	平20. 3
論文	単	「『長沙東牌樓簡牘の草法』 今草の成熟一波勢 から渦旋へ」	國學院雜誌 第108巻 第10号 (通巻1206号) 國學院大學	全61p中 pp.1-17	平19. 10
著書	単	『集字手本 石鼓文を書く一古代の文字を習う』	天来書院	全111p	平19. 10
論文	単	「天鳳三年西域戰役簡の草法」	『若木書法』 六 國學院大學若木書法會	全93p中 pp.1-41	平19. 3
編著	単	『続 老子を書く一郭店楚墓竹簡』	天来書院	全120p	平19. 1
編著	単	『改訂・草書の覚えかた』	天来書院	全143p	平18. 4

【平成17年度以前の主な研究業績等】 (5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
著書	単	『収蔵賞鑑印』	東京堂出版	全188p	平4. 2
著書	単	『篆刻入門ーその基礎知識』	東京堂出版	全207p	平2. 5
著書	単	『草書の覚え方』	雄山閣出版	全234p	昭62. 4
論文	単	「鑑蔵家と書画家の用印」	『篆刻』 臨時増刊5～22 東京堂出版	五:pp.1-19, 六:1-22, 七:1-19, 八:1-19, 九:1-12, 十:1-14, 十一:1-15, 十二:1-16, 十三:1-8	昭61. 9
編著	単	『木簡字典』	雄山閣出版	全878p	昭60. 8

【所属学会】

【最近の社会的活動等】

文部科学省初等中等局教科用図書検定調査審議会委員(平成8～15年)、
 情報処理学会文字コード標準体系検討専門委員会委員(平成10～11年)、
 文部省生涯学習局生涯学習社会通信教育教材審査委員(平成6年～16年)

【教育活動について】

二十二年度から「文字学購読」と「演習」を担当することになり、新しい教材を作製した。「粘葉朗詠」を中心に仮名・草書を読み書くという作業の入門書を作った。美しい表現にはなぜ変體仮名が必要か具体的に説明し、また少しずつ、覚える方法をとった。一方、草書は「草書の覚え方」を副読本として、草書を覚えるコツを講義し、前期5章、後記5章を目標に習っていった。後期は小篆を覚えるため、説文部首を素読し、甲骨文と漢隸との対照表を作り、近代書体にどう変わったか、概述した。また全員、説文部首を丁寧に臨模させた。更に「篆法探源」を素読し、隸変の激しい字を知るよう細かな指導をした。

【研究活動について】

この数年間は、戦国文字、秦漢簡牘文字を中心に研究し、本朝近世金石文にも注意している。その成果は『若木書法』六～九に発表してきた。楚簡『周易』の分析により、後の小篆との差異が明確になり、その美しい独自性はもとより、始皇帝の文字統一の重大な意味が理解できた。帛書『五十二病方』は秦隸と見なすべきで、その様式が多様なことも確認できた。そして書体変遷の中で、最も重要な隸変が、何時、どの様に成立したかにつき、これまで誰もよい視座がなかったが、武帝期の簡牘の隸書を、馬王堆帛書『老子乙本』系と典型的漢隸と比較することにより、点の確立と接続位置の変化がその完成を決めたと論じ、画期的な新しい観点を発明した。そしておそくとも武帝晩期には漢隸が成立したとの一説を打出した。

【職・氏名】教 授 新 谷 尚 紀 (SHINTANI Takanori)
 【学 位】博士(社会学)(平成10年2月 慶應義塾大学第3159号)
 【生 年】昭和23(1948)年
 【本学就任】平成22(2010)年4月1日
 【略 歴】早稲田大学大学院文学研究科史学(日本史)専攻博士課程 単位取得退学
 山村女子短期大学国際文化科助教授
 国立歴史民俗博物館民俗研究部教授
 【専門分野】日本民俗学

【最近5年間の主な研究業績等】[平成18～22年度] (10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
著書	単	『伊勢神宮と出雲大社-「日本」と「天皇」の誕生-』	講談社	全276p	平21. 3
論文	単	「大和王権と鎮魂祭－民俗学の王権論：折口鎮魂論と文献史学との接点を求めて－」	『国立歴史民俗博物館研究報告』 第152集	pp.19-48	平21. 3
著書	単	『お葬式 死と慰霊の日本史』	吉川弘文館	全260p	平21. 1
論文	単	「戦時体験の記録と語り－日赤看護婦のリアルタイムの「陣中日記帳」と、晩年の「記憶と語り」より：一九三七年度の上海戦線と病院船勤務－」	『国立歴史民俗博物館研究報告』 第147集	pp.521-559	平20. 12
著書	共	『ブルターニュのパルドン祭り－日本民俗学のフランス調査－』	悠書館	全295p	平20. 4
編著	単	『生老死と儀礼に関する通史的研究』	『国立歴史民俗博物館研究報告』 第141集	全590p	平20. 3
論文	単	「AGEING JAPAN AND THE TRANSMISSION OF TRADITIONAL SKILLS AND KNOW-HOW」	The Demographic Challenge:A Handbook about Japan Brill Academic Publishers	pp.561-569	平20. 3
論文	単	「石塔と墓籍簿－実際の死者と記録される死者：両墓制・単墓制の概念を超えて－」	『国立歴史民俗博物館研究報告』 第141集	pp.393-492	平20. 3
著書	単	『日本人の春夏秋冬 季節の行事と祝いごと』	小学館	全199p	平19. 12
編著	共	『排除する社会 受容する社会 現代ケガレ論』	吉川弘文館	全252p	平19. 5

【平成17年度以前の主な研究業績等】 (5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
著書	単	『柳田民俗学の継承と発展－その視点と方法－』	吉川弘文館	全523p	平17. 2
著書	単	『神々の原像－祭祀の小宇宙－』	吉川弘文館	全221p	平12. 4
著書	単	『両墓制と他界観』	吉川弘文館	全313p	平3. 6
著書	単	『ケガレからカミへ』	木耳社	全244p	昭62. 10
著書	単	『生と死の民俗史』	木耳社	全266p	昭61. 7

【所属学会】日本民俗学会

【最近の社会的活動等】

【教育活動について】

担当科目の「民俗学史」に関しては、着任してまずは正確な教科書が必要と考えて、1年間かけてその執筆を行い2011年4月に刊行する予定である。『民俗学とは何か－柳田・折口・渋谷に学ぶもう一つの歴史学』(吉川弘文館2011)がそれである。
 「伝承文学演習」に関しては、学生の発表だけでなく、それを論文にまとめて編集し合冊するという指導を行っている。学生の中から選ばれた編集委員への指導とその委員による学生個人へのコメントによって執筆と編集が進められており、それが刊行にいたる過程で各学生の研究論文作成の習熟度の向上が期待される。

【研究活動について】

「高度経済成長と民俗学」というテーマのもとに、伝統的な民俗学が1950年代からこの約60年の経過の中で、どのような変遷をみせているのか、日本各地のフィールドワークを行いながら追跡調査を継続している。前の職場の国立歴史民俗博物館の共同研究にも継続して参加しており、そこではとくに「死・葬送・墓制」の現在の変遷状況の観察と分析を行っている。また、フランスの地方都市や農村を対象とする日本民俗学の方法による調査研究も継続している。

【職・氏名】教 授 辰 巳 正 明 (TATSUMI Masaaki)
 【学 位】博士(文学)(平成7年7月 成城大学 文博乙4号)
 【生 年】昭和20(1945)年
 【本学就任】平成12(2000)年4月1日
 【略 歴】二松学舎大学文学部国文学科卒業
 成城大学大学院文学研究科国文学専攻博士課程単位取得満期退学
 大東文化大学文学部日本文学科教授
 【専門分野】上代文学、東アジア比較文化論
 【受賞歴等】上代文学会賞(上代文学会、昭和60年)

【最近5年間の主な研究業績等】 [平成18～22年度] (10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文	単	「山上憶良と敦煌詩—九相観詩との関係から—」	『国語と国文学』87巻7号 東京大学国語国文学会	全80p中 pp.1-14	平22. 7
論文	単	「歌謡の時代」	『國學院雑誌』第110巻第11号 國學院大學	全455p中 pp.1-12	平21. 11
論文	単	「カムヤマトイハレヒコの誕生」	『古代文芸論叢』 おうふう	全870p中 pp.38-50	平21. 11
論文	単	「古代日本漢詩的発軀」	『東亜視域と遣隋唐使』 光明日報社(中国)	全242p中 pp.54-61	平21. 6
論文	単	「山上憶良と九想観詩」	『國學院雑誌』第110巻第4号 國學院大學	全45p中 pp.1-12	平21. 4
著書	単	『歌垣—恋歌の奇祭をたずねて』	新典社	全159p	平21. 1
論文	単	「乞食の修辞学」	『修辞論』 おうふう	全446p中 pp.59-73	平20. 12
論文	単	「風流鬼論—磐姫皇后と原撰部相聞歌の形成」	『京都語文』15号 仏教大学	全226p中 pp.92-116	平20. 11
編著	共	『郷歌—注解と研究』	新典社	全270p	平20. 11
著書	単	『折口信夫 東アジア文化と日本学の成立』	笠間書院	全532p	平19. 5

【平成17年度以前の主な研究業績等】 (5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
著書	単	『短歌学入門 万葉集から始まる〈短歌革新〉の歴史』	笠間書院	全237p	平17. 10
著書	単	『詩霊論—人はなぜ詩に感動するのか』	笠間書院	全420p	平16. 3
著書	単	『万葉集に会いたい。』	笠間書院	全175p	平13. 10
著書	単	『詩の起原—東アジア文化圏の恋愛詩』	笠間書院	全547p	平12. 5
著書	単	『万葉集と比較詩学』	おうふう	全583p	平9. 4

【所属学会】上代文学会、日本文学協会、古代文学会、美夫君志会、全国大学国語国文学会、東アジア比較文化国際会議

【最近の社会的活動等】

【教育活動について】

大学FDの実施。複数教員による日本文学概説テキストの作成と、授業の改善。卒業論文研究会を設置して、細かな卒業論文の書き方と内容の指導体制の確立。

【研究活動について】

奈良県立万葉古代学研究所の主宰研究員として、研究会およびシンポジウムでの発表。東アジア比較文化国際会議日本大会の事務局としての活動。中国甘肅省・同貴州省の現地調査による研究活動。

【職・氏名】助 教 谷 口 雅 博 (TANIGUCHI Masahiro)
 【学 位】博士(文学)(平成21年7月 國學院大學文乙第244号)
 【生 年】昭和35(1960)年
 【本学就任】平成22(2010)年4月1日
 【略 歴】國學院大學文学部第二部文学科 卒業
 國學院大學大学院文学研究科博士課程後期 単位取得満期退学
 國學院大學文学部兼任講師
 【専門分野】日本上代文学(古事記・日本書紀・万葉集・風土記)

【最近5年間の主な研究業績等】 [平成18～22年度] (10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	『『日本書紀』の応神天皇像』	季刊『悠久』121号 鶴岡八幡宮	全176p中 pp.42-54	平22. 8
論文	単	『『常陸国風土記』国名起源説話考』	『國學院雑誌』第111巻第7号 國學院大學	全75p中 pp.1-13	平22. 7
論文	単	『民間神話と伝説・昔話』	『躍動する日本神話』 森話社	全275p中 pp.204-219	平22. 5
論文	単	『神武東征』	『歴史読本』 55巻4号 新人物往来社	pp.158-163	平22. 4
論文	単	『『常陸国風土記』香島郡「事向」の文脈』	青木周平先生追悼 『古代文芸論叢』 青木周平先生追悼論文集刊行会	全870p中 pp.413-425	平21. 11
論文	単	『『出雲国風土記』楯縫郡・神名樋山条一神の発話内容を考える一』	『日本文学』58巻11号 日本文学協会	全94p中 pp.70-74	平21. 11
論文	単	『『出雲国風土記』地名起源記事の文体一(秋鹿郡)を中心に一』	『風土記の表現一記録から文学へ一』 笠間書院	全543p中 pp.131-148	平21. 7
論文	単	『『常陸国風土記』多珂郡「サチ争い」説話の意義』	菅野雅雄博士喜寿記念 『記紀・風土記論究』 おうふう	全687p中 pp.462-477	平21. 3
論文	単	『古事記の表現と文脈』(博士論文)	おうふう	全401p	平20. 11
著書	共	『風土記探訪事典』	東京堂出版	全308p	平18. 9

【平成17年度以前の主な研究業績等】 (5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	『神武天皇と崇神天皇』	『國文學・解釈と教材の研究』 51巻1号 學燈社	全204p中 pp.50-57	平18. 1
論文	単	『『播磨国風土記』の天日槍命と葦原志許乎命』	『大和』 110号	全88p中 pp.12-19	平18. 1
論文	単	『『常陸国風土記』の時代認識』	『國語と國文學』 81巻11号 東京大学国語国文学会・至文堂	全132p中 pp.60-71	平16. 11
論文	単	『『古事記』における「倭建命」と「倭」』	『古代文学』 39号 古代文学会	全108p中 pp.67-78	平12. 3
論文	単	『『常陸国風土記』記載「風俗諺」の成立』	『日本文学論究』 46冊 国学院大学国語国文学会	全108p中 pp.1-13	昭62. 3

【所属学会】古事記学会、美夫君志会、古代文学会、萬葉学会、アジア民族文化学会、國學院大學國文學會、上代文学会、日本文学協会

【最近の社会的活動等】

放送大学講師「古事記を紐解く」千葉学習センター(平成22年)

【教育活動について】

平成22年度は日本文学導入科目授業と演習授業を担当した。導入科目では、テキストを中心としつつ、プリントを配布して内容の充実に務めた。また学生には基礎確認及び研究の第一段階となりうるよう、出来るだけ「書く」「考える」作業を課した。演習科目では、発表を充実させるよう、学生の希望に応じて出来る限り授業時間外の指導も行った。また、論文の書き方を習得するよう指導をした。導入科目・演習科目いずれの場合も、学生の希望や反応を確認しながら授業を進めるよう務めた。

【研究活動について】

平成22年度は、学内では学部共同研究「古代日本文化の形成一『古事記』を中心に一」に研究代表として取り組み、日本と韓国の神話の比較研究を行い、研究発表会・韓国臨地調査・シンポジウム等を行った。また6月には学内学会である國學院大學國文學會春季大会での発表、院友学術振興会での発表を行った。学会活動では、古代文学会の運営委員として連続シンポジウム「型のダイナミズム」の企画・運営に携わり、自らも6月にパネリストとして参加・発表した。

【職・氏名】教 授 傳 馬 義 澄 (DENMA Yoshizumi)
 【学 位】文学修士
 【生 年】昭和15(1940)年
 【本学就任】昭和56(1981)年4月1日
 【略 歴】國學院大學文学部文学科卒業
 國學院大學大学院文学研究科修士課程修了
 國學院大學大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学
 【専門分野】近代・現代文学

【最近5年間の主な研究業績等】〔平成18～22年度〕（10点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
その他	共	監修:『日本文学教程』	華東理工大学出版社	全387p	平22. 2
論文	単	「立原正秋と後藤明生—韓国生まれの現代作家—」	『地球』 第147号 地球社	全218p中 pp.70-74	平20. 12
学会発表等	単	「中原中也と草野心平—共鳴する詩人—」	第13回中原中也の会 大会		平20. 9
その他	単	講演:「井上靖の文学と滋賀」	國學院大學滋賀県院友会 院友会滋賀県支部		平20. 8
その他	単	講演:「韓国生まれの現代日本作家」	「日韓現代詩交流35年—アジア詩の集い—」 於ソウル文学の家		平20. 5
論文	単	「井上靖の文学世界と中国」	『地球』 第145号 地球社	pp.120-125	平19. 12
その他	単	講演:「井上靖の歴史小説をめぐって」	「埼玉文芸家集団 秋のつどい」(於 埼玉近代文学館)		平19. 11
その他	単	講演:「中国と井上靖の文学世界」	「第10回アジア詩人会議」(日中共同 企画)		平19. 8
その他	共	座談会:「日本文学の可能性を探る—隣接諸科 学との協同と国際化への道—」	『國學院雑誌』 第108巻第1号 國學院大學		平19. 1
論文	単	「故郷論のエスキスのために」	『國學院雑誌』 第107巻第4号 國學院大學	pp.1-10	平18. 4

【平成17年度以前の主な研究業績等】（5点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文	単	「三木露風の詩論—『露風詩話』『詩歌の道』『象 徴主義・信条』など—」	『国文学 解釈と鑑賞』 68巻11号 至文堂	pp.131-136	平15. 11
論文	単	「『日本文学』に関する走り書覚書」	『國學院雑誌』 第103巻第11号 國學院大學	全366p中 pp.104-112	平14. 11
著書	単	『思索と抒情—近代詩文論—』	審美社	全366p	平12. 7
論文	単	「日本における戦後文学の展開」	『韓日問題研究所紀要』 第5輯	pp.53-66	平9. 2
著書	共	『現代の文章—何を書くか、どう書くか—』	暖流社	pp.144-155	平7. 2

【所属学会】日本近代文学会、昭和文学会、中原中也の会、芸術至上主義文芸学会、室生犀星学会、無頼文学会

【最近の社会的活動等】

明治書院教科書編集委員(平成3年～現在)、国立市「文学講座」担当(平成3年～現在)、
 新宿区北新宿「文学講座」担当(平成6年～現在)

【教育活動について】

文学作品の読みと批評とについて、広い関心のもとに検討していくことを主張し、その実践に努めている。

【研究活動について】

文学研究を孤絶したものとしてではなく、広く美術、音楽、演劇のみならず人間の文化全般に相わたるものと関連づけて進めていこうとしている。

【職・氏名】教 授 豊 島 秀 範 (TOYOSHIMA Hidenori)
 【学 位】博士(文学)(平成8年3月 國學院大學 文乙第130号)
 【生 年】昭和22(1947)年
 【本学就任】平成15(2003)年4月1日
 【略 歴】國學院大學文学部文学科卒業
 國學院大學大学院文学研究科日本文学専攻博士課程単位取得満期退学
 國學院大學文学部教授
 【専門分野】平安朝文学・中世王朝文学、(民俗学・儀礼文化学)

【最近5年間の主な研究業績等】〔平成18～22年度〕（10点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
著書	共	『狭衣物語全註釈』Ⅴ 卷三(上)	おうふう (狭衣物語研究会編 代表:豊島秀範)	全443p	平22.11
論文	単	「物語と歌謡―狭衣物語に即して―」	『國學院雑誌』第110巻第11号 國學院大學	pp.107-116	平21.11
著書	共	『狭衣物語全註釈』Ⅳ 卷二(下)	おうふう (狭衣物語研究会編 代表:豊島秀範)	全461p	平21.10
論文	単	「『夜の寢覚』の「なになり、袖の氷とけずは」の解釈をめぐって」	『平安後期物語の新研究―寢覚と浜松を考える―』 新典社	pp.172-184	平21.10
論文	単	「久我家嫁入本『源氏物語』の特徴―画像の比較を通して―」	『平安文学研究』第1号 國學院大學大学院 平安文学研究会	pp.137-143	平21.9
著書	共	『狭衣物語全註釈』Ⅲ 卷二(上)	おうふう	全363p	平20. 10
論文	単	「『源氏物語』と鎌倉時代物語―物語の収斂と変容―」	『講座 源氏物語研究』(初版第二刷)第4巻 おうふう	全317p中 pp.228-251	平20. 9
論文	単	「國學院大學と源氏物語研究―明治・大正期を中心に―」	『國學院雑誌』(特集「源氏物語研究」) 第109巻第10号 國學院大學	全209p中 pp.189-202	平20. 10
論文	共	『青森県史』(民俗編 資料 下北) (担当「人生儀礼」「菅江真澄の紀行」)	青森県 県史編纂室	pp.215-258, 554-652	平19.3
論文	単	「物語研究と国学―玉の小櫛の注釈姿勢―」	『國學院雑誌』第107巻第11号 國學院大學	全395p中 pp.50-60	平18. 11

【平成17年度以前の主な研究業績等】（5点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	「『夜の寢覚』の末尾欠巻部分の展開」	『講座 平安文学論究』第18輯 風間書房	pp.177-205	平16.5
論文	単	「『松陰中納言物語』の特質―須磨・明石の巻との比較を中心に―」	『講座 平安文学論究』第16輯 風間書房	pp.249-267	平14.5
その他	共	『青森県史』(民俗編 資料 南部) (担当「人生儀礼」「菅江真澄の紀行」)	青森県 県史編纂室	pp.241-288, 677-723	平13.3
著書	共	『基礎から解釈へ 新しい古典文法』(改訂版) (「助詞」を担当執筆)	桐原書店	pp.69-98	平11.12
著書	単	『物語史研究』	おうふう	全663p	平6.5

【所属学会】 中古文学会、全国大学国語国文学会、中世文学会、日本民俗学会、儀礼文化学会、物語研究会、國學院大學國文學會

【最近の社会的活動等】

青森県立郷土館民俗調査委員(昭和56～平成8年)、青森県史(民俗偏)調査・執筆専門委員(平成8年～現在)、弘前市・五所川原地区高等学校国語研究会講師「古典作品の指導と学習」(平成5～6年)、海外に移出した仮名写本の緊急調査(国立国語研究所)に調査員として参加(平成22年～現在に至る)

【教育活動について】

平成17年度及び18年度の「國學院大學特別推進研究助成金」を得て、文化庁所蔵の源氏物語「平瀬本」54巻の写真撮影を行い、17年度には桐壺～藤裏葉巻、18年度には若菜上～夢の浮橋巻の全文翻刻を、大学院生等により完成し『報告書』にまとめた。また、平成18年度は「國學院大學特色ある教育研究助成金」を得て、大学院の演習授業で扱っている『狭衣物語』の異本四本を、受講生が翻刻し、本文の比較が容易にできるデータを作成した。
 平成21年度には「國學院大學特色ある教育研究助成金」を得て、大学院の演習授業での『狭衣物語「蓮空本」(巻四)の本文と注釈』を『報告書』にまとめた。また、必修科目「日本文学概説」のテキストを教員が協力して作成し、授業で活用している。さらに、「日本文学概説」の授業で、本学図書館所蔵の久我家嫁入本『源氏物語』の54枚の画像場面を、受講生に確認させて説明文を作成させ、それをまとめてデータ化する授業を、コンピュータ教室を活用して進めてきた。

【研究活動について】

平成19～22年度の4年間、科学研究費「基盤研究(A)」による「源氏物語の研究支援体制の組織化と本文関係資料の再検討及び新提言のための共同研究」の研究代表として、連携研究者6名、大学院生その他の研究支援者2名、研究協力者10名とともに、『源氏物語』の「平瀬家本」「七毫源氏」「吉川家本」などの翻刻および本文研究を積極的に進め、イタリア・イギリス・アメリカなどにおいても共同研究を進めてきている。

【職・氏名】准 教 授 長 野 隆 之 (NAGANO Takayuki)
 【学 位】博士(文学)(平成16年3月 國學院大學 文甲第53号)
 【生 年】昭和42(1967)年
 【本学就任】平成17(2005)年4月1日
 【略 歴】國學院大學文学部文学科卒業
 國學院大學大学院文学研究科日本文学専攻博士課程後期修了
 國學院大學文学部専任講師
 【専門分野】日本民俗学、民俗芸能
 【受賞歴等】第26回志田延義賞(平成19年)

【最近5年間の主な研究業績等】 [平成18～22年度] (10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	「歌から見た渋谷」	『名古屋民俗』第58号 名古屋民俗研究会	pp.25-32	平23. 3
論文	単	「酒造り歌」	『悠久』第123号 鶴岡八幡宮悠久事務局	pp.89-94	平22. 12
論文	単	「沖縄県竹富島の種子取祭における「神」の身体表現」	『伝承文化研究』第9号 國學院大學伝承文化学会	pp.29-38	平22. 7
教科書・参考書	共	『人類学ワークブッカーフィールドへの誘いー』	新泉社	全267p中 pp.231-261	平22. 7
編著	共	『渋谷をくらすー渋谷民俗誌のこころみ』	雄山閣	pp.25-40, 136-150, 165-176	平22. 2
調査・研究報告等	単	「渋谷の地名認識の変容」	『都市民俗研究』第14号 都市民俗学研究会	pp.145-150	平20. 3
論文	単	「可視化される仏教説話ー岩手県の剣舞を中心としてー」	『國學院大學・短期大学文学系 五学会連合フォーラム報告書』 國學院大學国文学會	pp.69-78	平20. 3
論文	単	「民謡の誕生と展開」	『シリーズことばの世界 第4巻 うたう』 三弥井書店	pp.43-53	平19. 10
著書	単	『語られる民謡ー歌の「場」の民俗学ー』	瑞木書房	全374p	平19. 3
論文	単	「田植踊りの構成ー朝・昼・日暮の田植踊歌ー」	『日本歌謡研究』第46号 日本歌謡学会	pp.43-50	平18. 12

【平成17年度以前の主な研究業績等】 (5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	「民俗歌謡の分布ー「向かい山で光るもの」を事例としてー」	『國學院雑誌』第106巻第12号 國學院大學	pp.1-13	平17. 12
論文	単	「マツリにおこなわれる芸能の類型ー「渋谷・鹿児島おはら祭」を中心としてー」	『都市民俗研究』第11号 都市民俗学研究会	pp.1-10	平17. 3
論文	単	「田植え歌の受容と伝承」	『講座日本の伝承文学9 口頭伝承(トナエ・ウタ・コトワザ)の世界』 三弥井書店	pp.261-278	平15. 7
論文	単	「メディアと歌謡ー情報の伝達媒体としての「民謡」ー」	『日本歌謡研究大系 上』 和泉書院	pp.147-159	平15. 5
著書	共	『歌のちからー岩手県旧江刺郡の民俗歌謡資料と研究ー』	瑞木書房	全343p中 pp.25-133, 211-218, 238-252, 257-269, 307-322	平15. 3

【所属学会】日本民俗学会、日本歌謡学会、日本口承文芸学会、日本文化人類学会、日本生活学会、民俗芸能学会、
 國學院大學伝承文化学会、國學院大學国文学会

【最近の社会的活動等】

【教育活動について】

学生にとって、大学に入るまではほとんど触れることがなかったであろう学問分野である民俗学を理解してもらうために、毎回の授業に合わせて配付資料を作成している。合わせて、映像・画像・音声資料を用いることによって、できるかぎり民俗を実感してもらうようにしている。また、フィールド調査を念頭に置いた教科書『人類学ワークブッカーフィールドへの誘いー』の出版に参加した。授業の他には、顧問をつとめる伝承文学研究会において、週に1回の例会、年に2回のフィールド調査(民俗・祭礼・芸能)で調査・研究の指導を行っている。

【研究活動について】

大別するならば、渋谷学研究・民俗芸能研究・琉球文化研究を行っている。渋谷学研究においては、月に1回の「渋谷研究会」に参加し、主に渋谷世相史の研究を進めている。また、2010年には「渋谷民俗誌」の刊行にかかわった。民俗芸能研究においては、身体論、ならびに芸能の由来伝承等の説話研究を行うことと並行して、竹富島で祭礼と芸能を主とした長期間の調査も行っており、琉球文化研究に展開させていく予定である。

【職・氏名】助 教 橋 本 貴 朗 (HASHIMOTO Takaaki)
 【学 位】博士(芸術学)(平成21年3月 筑波大学博甲第5136号)
 【生 年】昭和50(1975)年
 【本学就任】平成22(2010)年4月1日
 【略 歴】大東文化大学文学部日本文学科 卒業
 筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科芸術学専攻 修了
 国際仏教学大学院大学学術フロンティア研究員
 【専門分野】日本書道史、書学、書法美学

【最近5年間の主な研究業績等】 [平成18～22年度] (10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
その他	単	「清水浜臣、都伎山に登る―「安倍小水鷹願経」の伝来をめぐって―」	『國學院雑誌』第111巻第9号 國學院大學	pp.36-37	平22. 9
学会発表等	単	「徳運寺蔵『金光明最勝王経』巻第九の文字―異体字を中心として―」	国際仏教学大学院大学平成22年度第1回公開研究会 於 国際仏教学大学院大学		平22. 5
調査・研究報告等	共	『成復旺主編・中国人民大学出版社『中国美学範疇辞典』訳注』第6冊(2009年度大東文化大学人文科学研究科研究報告書)	大東文化大学人文科学研究科	全240p	平22. 3
翻訳・翻刻書	共	「文と道―成復旺主編・中国人民大学出版社『中国美学範疇辞典』訳注稿(7)―」	『人文科学』第15号 大東文化大学人文科学研究科	pp.261-278	平22. 3
著書	共	『決定版 日本書道史』	芸術新聞社	全208p	平21. 5
論文	単	「「慈光寺経」研究」	筑波大学学位論文	全510p	平21. 3
論文	単	「「慈光寺経」の伝来について」	『書芸術研究』第1号 筑波大学大学院人間総合科学研究科書研究室	pp.17-28	平20. 3
論文	単	「「慈光寺経」の料紙装飾について」	『芸術学研究』第12号 筑波大学大学院人間総合科学研究科	pp.127-137	平20. 3
論文	単	「「慈光寺経」の書風について」	『書学書道史研究』第17号 書学書道史学会	pp.43-55	平19. 9
論文	単	「江戸時代における「慈光寺経」の補写と修復」	『芸術学研究』第11号 筑波大学大学院人間総合科学研究科	pp.37-46	平19. 3

【平成17年度以前の主な研究業績等】 (5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
調査・研究報告等	共	「栗原蘆水氏蔵古筆切調査一覧」	『大東書道研究』第13号 大東文化大学書道研究所	pp.134-169	平18. 3
調査・研究報告等	共	『成復旺主編・中国人民大学出版社『中国美学範疇辞典』訳注』第3冊(2004年度大東文化大学人文科学研究科研究報告書)	大東文化大学人文科学研究科	全306p	平17. 3
翻訳・翻刻書	共	「成復旺主編・中国人民大学出版社『中国美学範疇辞典』訳注稿(4)」	『人文科学』第10号 大東文化大学人文科学研究科	pp.130-154	平17. 3
その他	共	調査協力:『大東文化大学書道研究所蔵 宇野雪村文庫拓本目録』	大東文化大学書道研究所	全95p	平16. 2
学会発表等	単	「「高野切古今和歌集」巻第五の2葉の断簡について」	書学書道史学会第14回大会 於 藤女子大学		平15. 10

【所属学会】書学書道史学会

【最近の社会的活動等】

第4回筑波大学DC展(於 茨城県つくば美術館)ギャラリートーク「書ってこんなに面白い！」解説(平成20年)

【教育活動について】

実技科目において、多習・精習をあわせて筆写力の向上・習熟を図るとともに、講義科目においては、学問としての書道に対する理解を深めるために、近年の動向を踏まえてコンピューターを用いた調査・研究方法の紹介・実習も行っている。いずれの科目においても、本学所蔵の古筆・碑法帖等の原件資料、および複製を積極的に用い、また美術館・博物館での展覧会、関連する新規刊行物等を随時紹介して、広く興味・関心、修学意欲の喚起に努めている。本年度着任し、新たに担当する科目もあり、試行錯誤する点も多い。学生による授業評価アンケートの結果も踏まえて、教育内容・方法の一層の改善と充実に取り組んでいきたい。

【研究活動について】

継続して、写経の考究に取り組んでいる。近年は特に異体字の観点から、敦煌写経も視野に入れて經典の書写系統について、検討・考察を行ってきた。広く学芸史に関わる問題として、個々の遺品の伝来の解明にも努めている。また、『源氏物語』『徒然草』他、日本の古典文学作品の中に見られる書に関する記述を取り上げて、中国書論の受容等、書学書道史の立場からの再検討を進めている。平成13年以来従事してきた、中国の美学文献の訳注が本年度をもって完結する(『成復旺主編・中国人民大学出版社『中国美学範疇辞典』訳注』第7冊、平成23年3月発行予定)。引き続き、同書の索引等の作成を計画中である。

【職・氏名】准 教 授 花 部 英 雄 (HANABE Hideo)

【学 位】博士(文学)(平成16年1月 國學院大學 文乙192号)

【生 年】昭和25(1950)年

【本学就任】平成16(2004)年4月1日

【略 歴】國學院大學文学部文学科卒業

実践女子学園中学高校教諭

國學院大學文学部専任講師

【専門分野】口承文芸

【最近5年間の主な研究業績等】〔平成18～22年度〕（10点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	「祭文—男女和合呪術を中心に—」	『遊楽と信仰の文化学』 森話社	全452p中 pp.388-401	平22. 10
論文	単	「桃太郎、世界へ行く」	『昔話伝説研究』第29号 昔話伝説研究会	全90p中 pp.1-13	平21. 12
論文	単	「呪歌と歌謡、説話—ハブ・蛇除けの呪文を中心に—」	『國學院雑誌』110巻11号 國學院大學	全455p中 pp.219-230	平21. 11
編著	単	「昔話の研究史—「桃太郎」を中心に—」	『語りの講座 昔話への誘い』 三弥井書店	全265p中 pp.211-232	平21. 8
論文	単	「伝説の生成と被害記憶」	『國學院雑誌』第110巻第5号 國學院大學	pp.1-13	平21. 5
編著	共	「昔話とは何か」	『シリーズことばの世界 かたる』 三弥井書店	全238p中 pp.9-19	平21. 1
論文	単	「蜈蚣退治の伝承学—園城寺龍宮の鐘を出発に—」	『『古事談』を読み解く』 笠間書院	全526p中 pp.387-407	平20. 7
論文	単	「逆立ちする呪歌」	説話・伝承学会編『説話・伝承の脱領域』 岩田書店	pp.355-372	平20. 3
論文	単	「小池直太郎編『小谷口碑集』」	『昔話伝説研究』27号 昔話伝説研究会	全110p中 pp.4-14	平19. 5
論文	単	「呪術と呪歌の論理」	『和歌をひらく 第四巻「和歌とウタの出会い」』	全252p中 pp.1-22	平18. 4
【平成17年度以前の主な研究業績等】（5点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	「「田畑村西行庵」の顛末—伝説のフォークロリズム事始め—」	『伝承文学研究の方法』 岩田書院	全491p中 pp.151-166	平17. 3
著書	単	『昔話と呪歌』	三弥井書店	全318p	平17. 3
著書	単	『漂泊する神と人』	三弥井書店	全306p	平16. 1
著書	単	『呪歌と説話—歌・呪い・憑き物の世界—』	三弥井書店	全301p	平10. 4
著書	単	『西行伝承の世界』	岩田書店	全272p	平8. 6

【所属学会】日本口承文芸学会、日本昔話学会、日本民俗学会、説話・伝承学会、説話文学会

【最近の社会的活動等】

講演「北安曇野の民話」(大町文化センター)、講演「八戸の伝説と「村の話」」(八戸市立博物館)、
講演「日本の昔話と新潟県」(長岡市高齢者センター)、講座「『遠野物語』を識る、読む、創る」(野田市中央公民館)

【教育活動について】

○「伝承文学概説」「伝承文学史」の授業で、評価の透明度を高めるために、前期にも試験を行い、採点して点数をつけて返却した。学生の反応はよし。

○教材にも対応できる『中国民話の旅』(三弥井書店)をごく最近出版した。中国貴州省のトン族の民間故事(日本でいう「昔話」)を採集し、日本語訳したものである。中国の研究者を交えた十人余りで、三年間毎夏一週間ほど滞在して調査し、直接聞いたものをまとめたものである。書物の翻訳ではなく、直接土地の古老から聞いた話で、中国庶民の口承文芸を生のままに伝えている。授業で読みながら、日本の昔話と比較しながら理解を深めていければと思っている。

【研究活動について】

○日本の昔話を比較の視点から研究を深めていくことを目標に掲げる。これまで「桃太郎」を取り上げたが、続いて「蛇婿入り」「蛙息子」を手がけていきたい。昔話は世界的な現象であり、日本文化の枠組みだけでは十分捉えきれないと考えているからである。アジアとの比較から世界全体へ視野を広げて追究することで、全体像から日本の特殊性、独自性を論じていければと考えている。

○もう一つ、俗信の中の「呪術」について理解を深めていきたい。そのために文献や民俗、一般雑誌等から呪いの資料を収集し、分類し体系化していきたい。

【職・氏名】教 授 針 本 正 行 (HARIMOTO Masayuki)
 【学 位】博士(文学)(平成13年11月 國學院大學 文乙第165号)
 【生 年】昭和26(1951)年
 【本学就任】平成8(1996)年4月1日
 【略 歴】國學院大學文学部文学科卒業
 國學院大學大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学
 江戸川女子短期大学助教授
 【専門分野】平安時代文学の研究

【最近5年間の主な研究業績等】 [平成18～22年度] (10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	「國學院大學所蔵の絵入り物語」	『中古文学』第86号 中古文学会	全100p中 pp.15-24	平22. 12
論文	単	「國學院大學所蔵『船のみとく』と神功皇后譚」	『物語絵の世界』 國學院大學文学部針本正行研究室	pp.87-110	平22. 3
翻訳・ 翻刻書	共	「チェスター・ビーティライブラリ所蔵『竹取物語絵巻』書誌・解題・翻刻」	平成21年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書 國學院大學文学部針本正行研究室	pp.51-74	平22. 3
論文	単	「八の宮と勾宮の和歌」	『源氏物語の歌と人物』 翰林書房	全461p中 pp.196-216	平21. 5
論文	単	「國學院大學の古典籍」	『私立大学図書館協会会報』132号 私立大学図書館協会	全21p	平21. 3
翻訳・ 翻刻書	共	「國學院大學図書館所蔵『竹取物語絵巻』(小型絵)書誌・解題・翻刻」	平成20年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書 日本文学科針本正行	全236p中 pp.81	平21. 3
論文	単	『源氏物語』『物の気』顕現と「心の鬼」	『國學院雑誌』第109巻10号 國學院大學	全14p	平20. 10
編著	共	『源氏物語入門』	角川学芸出版	全268p中 pp.11-57	平20. 7
翻訳・ 翻刻書	共	「國學院大學図書館所蔵『竹取物語絵巻』(ハイド旧蔵)書誌・解題・翻刻」	平成19年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書 國學院大學文学部針本正行研究室	全157p中 pp.15-34	平20. 3
論文	単	「末摘花の和歌一歌言葉「唐衣」を中心として」	『國學院の古典』第4輯 國學院大學院友学術振興会	全119p中 pp.50-65	平19. 11

【平成17年度以前の主な研究業績等】 (5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	「大殿の姫君論」	『人物で読む源氏物語 葵の上・空蟬』 勉誠出版	pp.251-265	平17. 6
論文	単	「「身を知る雨」表現史論」	『伊勢物語の表現史』 笠間書院	全367p中 pp.216-232	平16. 10
編著	共	源氏物語事典	大和書房	全456p	平14. 5
著書	単	『平安女流文学の表現』	おうふう	全395p	平13. 5
著書	単	『平安女流文学の研究』	桜楓社	全454p	平4. 11

【所属学会】 中古文学会、和歌文学会、全国大学国語国文学会、和漢比較文学会

【最近の社会的活動等】

【教育活動について】

学部の専門教育では『源氏物語』の演習を担当し、グループ発表の形式を取り、個々の学生の能力を、自己完結するのではなく、共同で研究・調査・資料作成をすることを通して、より発揮できるようにした。演習内容も、現代の活字本によらず、宮内庁書陵部所蔵青表紙源氏物語を用いて、古典文学を享受できるようにし、調査研究書の対象も鎌倉時代から江戸時代までの古注釈書の成果をふまえさせ、古典学習の基礎力の習得に配慮した。さらに、随時架蔵の『源氏物語』に関する古筆切、屏風絵、奈良絵本なども紹介し、直に古典に触れることで過去の遺物ではない、生きた古典文学への実感を深めるようにした。大学院においては、若手研究者の育成を目指し、平成18年度～22年度の間に、源氏物語に関する課程博士論文2名、蜻蛉日記に関する課程博士論文1名の主査を担当し、指導した。さらには、正課の授業だけではなく、課外活動の場での学生教育も重視し、「源氏物語研究会」「百人一首の会」「競技カルタの会」などの顧問をつとめ、日々の源氏物語輪読、競技カルタの実践、古典文学のゆかり地や歌枕などをめぐる研修旅行を行い、学生の多面的な能力開発を支援している。

【研究活動について】

『源氏物語』を中心とする平安時代文学の表現方法や國學院大學所蔵の古典籍の調査などを中心に研究をすすめた。とくに、『源氏物語』『心の鬼』と顕現との関係、末摘花・八の宮などの歌言葉と人物造型との問題について検証した。また、國學院大學所蔵『竹取物語絵巻』(武田祐吉博士旧蔵本・ハイド旧蔵本・小型本)・奈良絵本絵巻『舟のみとく』などの翻刻紹介などをした。さらに、平成19年度から21年度の三年間に、「物語絵巻の本文とその享受に関する総合的研究—國學院大學所蔵本を中心として—」(基盤研究B)の代表者として、物語絵巻の本文と挿絵との相互関係、絵巻の本文享受などの問題解明につとめた。

【職・氏名】教 授 松 尾 葦 江 (MATSUO Ashie)

【学 位】博士(文学)(平成9年1月 東京大学 第13131号)

【生 年】昭和18(1943)年

【本学就任】平成14(2002)年4月1日

【略 歴】お茶の水女子大学文教育学部文学科国語国文学専攻卒業

東京大学大学院人文科学研究科博士課程国語国文学専門課程単位取得満期退学

宇都宮大学教授(教育学部・大学院教育学研究科)

【専門分野】中世日本文学

【最近5年間の主な研究業績等】〔平成18～22年度〕(10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
著書	共	『校訂中院本 平家物語』(上・下)	三弥井書店	上:全400p	平22. 12, 平23. 3
論文	単	「平家物語断簡「長門切」続々考」	平成21年度國學院大学文学部 共同研究報告	全124p中 pp.110-112	平22. 3
論文	単	「ゆれる物語—『平家物語』の成立と展開 「敦盛 最期」を中心に—」	『郷土の雄・熊谷次郎直実』 熊谷市立図書館	全356p中 pp.227-246	平22. 3
論文	単	「平家物語と死—物語の救済」	『国文学 解釈と鑑賞』 第74巻第8号 至文堂	全204p中 pp.44-51	平21. 8
編著	共	延慶本平家物語の世界	汲古書院	全262p	平21. 5
論文	単	「古筆切平家物語考証」序説	『文字文化財研究所年報』2 愛知県立大学文字文化財研究所	全6p中 pp.1-3	平21. 3
論文	単	「流動する物語を読むということ」	『国語と国文学』85:11 東京大学国語国文学会・至文堂	全160p中 pp.1-11	平20. 11
編著	共	校訂延慶本平家物語(12)	汲古書院	全152p	平20. 7
著書	単	軍記物語原論	笠間書院	全376p	平20. 8
著書	単	『源平盛衰記(五)』	三弥井書店	全302p	平19. 12
【平成17年度以前の主な研究業績等】(5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
著書	単	『平家物語論究』	明治書院	全400p	昭60. 3
著書	単	『源平盛衰記(二)』	『中世の文学』 三弥井書店	全288p	平5. 5
著書	単	『軍記物語論究』	若草書房	全536p	平8. 6
著書	単	『校訂延慶本平家物語(五)』	汲古書院	全190p	平16. 3
著書	共	『海王宮—壇之浦と平家物語』	三弥井書店	全460p	平17. 10

【所属学会】お茶の水女子大学国語国文学会、中世文学会、説話文学会、東京大学国語国文学会、和歌文学会、
仏教文学会、和漢比較文学会、國學院大學國文學會

【最近の社会的活動等】国文学研究資料館共同研究委員(平成7～13年)

【教育活動について】

学部での授業は、自力で古文を読めるようになることを目標としている。自宅学習の習慣がない学生が大半を占めるようになった最近の傾向に鑑み、授業中に辞書を引かせること、発表準備を入念にさせること、発表時にはプレゼンテーションを指導することなど具体的な指導に努めている。卒論指導は定期的に個人面談を行い、対話を通して自己開発の支援をする。大学院では、本学所蔵の古典籍解題を作成させ、ワークを通して学習させる。また科研費による共同研究など、最前線の研究の現場に立ち合わせ、学外の研究会にも積極的に参加させている。演習では本文校訂から注釈・解説まで、古典研究の基礎を習得させる。H22年度前期にはアメリカ合衆国ボードイン大学准教授V・セリンジャー氏が国際協力基金による留学を希望したので特別研究員として受け入れ、論文作成に助言した。

【研究活動について】

H22年度4月から、科研費(基盤研究B)【「文化現象としての源平盛衰記」研究一文芸・絵画・言語・歴史を総合して一】(課題番号22320051 H22～25)が採択され、研究代表者として企画・統括を行っており、その詳細は、HP(<http://www2.kokugakuin.ac.jp/komedlit/>)「中世文学逍遙」に掲載している。また千明守國學院栃木短大教授が研究代表者である科研費(基盤研究C)「平家物語の初期形態に関する多角的研究—屋代本を拠点として—」(課題番号 20520199)は最終年度を迎え、6月にシンポジウムを行い、目下は各自、論文を執筆中である。個人の研究としては源平闘諍録の解題を執筆、読み本系平家物語の本文研究や作品論を進めている。

【職・氏名】教 授 諸 星 美 智 直 (MOROHOSHI Michinao)
 【学 位】博士(文学)(平成16年3月 國學院大學 文乙第207号)
 【生 年】昭和35(1960)年
 【本学就任】平成2(1990)年4月1日
 【略 歴】國學院大學文学部文学科卒業
 國學院大學大学院文学研究科日本文学専攻博士課程単位取得満期退学
 徳島文理大学短期大学部専任講師
 【専門分野】日本語教育学・日本語教育史・近代日本語・ビジネス文書学
 【受賞歴等】吉川博士記念賞(平成19年)

【最近5年間の主な研究業績等】〔平成18～22年度〕（10点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文	単	「松本亀次郎編著の日本語教科書類における当為表現の扱い」	『言語文化研究』9号 静岡県立大学短期大学部静岡 言語文化学会	pp.51-67	平22. 3
論文	単	「台湾南部の大学における日本語学習者のキャンパス言葉について」	『国語研究』73号 國學院大學国語研究会	pp.1-20	平22. 3
編著	共	『新編荷田春満全集』第11巻「語彙・アクセント資料」	おうふう	全462p	平21. 6
論文	単	「John・Macgowan“A manual of the Amoy colloquial”と三矢重松・辻清蔵訳述『台湾会話篇』」	『国語研究』72号 國學院大學国語研究会	pp.65-82	平21. 3
その他	共	監修:『そのまま使えるビジネス文書文例集』	かんき出版	全287p	平20. 6
論文	単	「函館中央図書館蔵「蠣崎文書」に見る松前藩士の音韻状況」	『日本語の研究』4巻1号 日本語学会	pp.159-173	平20. 1
論文	単	「宏文学院教授菊池金正と会話型日本語教科書『漢訳学校会話篇』」	『國學院雑誌』第108巻第11号 國學院大學	pp.355-370	平19. 11
論文	単	「明治期における日本語学習辞典としての難波常雄編『日本読書作文辞典』」	『国語語彙史の研究』二十六 和泉書院	pp.221-235	平19. 3
論文	単	「日本語教育史における宏文学院と国学院大学」	『國學院雑誌』第107巻第11号 國學院大學	pp.219-233	平18. 11
論文	単	「宏文学院教授難波常雄と文典型日本語教科書『漢和对照日語文法述要』」	『國學院雑誌』第107巻第4号 國學院大學	pp.1-13	平18. 4
【平成17年度以前の主な研究業績等】（5点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文	単	「アメリカ日本語教育史における半井豊三の事績」	『国語研究』第69号 國學院大學国語研究会	pp.1-17	平18. 3
著書	単	『近世武家言葉の研究』	清文堂	全518p	平16. 5
論文	単	「近世蝦夷地における和人社会の言語状況」	『国語と国文学』79巻11号 東京大学国語国文学会・至文堂	pp.180-189	平14. 11
論文	単	「国学院大学国語学史稿」	『国語研究』第64号 國學院大學国語研究会	pp.125-140	平13. 3
解説・ 解題等	単	金井保三著『日本俗語文典 全』解説(日本語文法研究書大成)	勉誠出版	pp.3-26	平12. 5

【所属学会】日本語教育学会、日本語教育史研究会、國學院大學日本語教育研究会、ビジネス日本語研究会、日本語学会、近代語研究会、國學院大學国語研究会、社会言語科学会、国史学会、日本言語政策学会

【最近の社会的活動等】

【教育活動について】

日本の少子高齢化とグローバル化により日本語教育学の重要性を悟って以来、また、団塊世代の中高教員の定年補充後の教職需要の激減に備え、本学における日本語教育学の充実に尽力している。学部の副専攻「日本語教育(日本語教員養成課程)」及び、2009年開設の大学院文学研究科高度国語・日本語教育コースに拠り、日本語教員及び日本語教育学の研究者の養成に尽力している。2006年創設の国学院大学日本語教育研究会は2010年11月に第9回を開催し、院生・院友その他の日本語教育学の研究成果発表と情報交換の場として機能している。2010年3月には機関誌『国学院大学日本語教育研究』を創刊した。授業においては、現実に対応した実学を重視し、留学生科目「日本語(聴解)」及び「基礎日本語」において、毎週ラジオニュース、日本経済新聞の社説・コラム等の最新の時事問題を教材として作成することにより、受講生に経済新聞を読む習慣をつけさせ、最新の時事用語を習得させている。2006年以後の台湾・南台科技大学における日本語教育実習の引率は、2009年、2010年に担当したが、これは学生の就職活動に効力を発揮している。将来性豊かな日本語教育学により「常に時代の要請を把握して的確に対応する人材」の養成を以て学風とする。

【研究活動について】

従来は①主著『近世武家言葉の研究』(2004)に代表される近代日本語研究を専門としたが、時代の変化に対応して、②日本語教育学のうち、日本語教育史、ことに19世紀末から20世紀初頭にかけての宏文学院・振武学校・東斌学堂などにおいて活躍した三矢重松・松下大三郎・難波常雄などの本学院友の著になる日本語教科書・日本語学習辞書を中心に日本語史・日本語学史・日本語教授法から分析して順次論考を纏めている。これらは、「日本語学と日本語教育学の双方に対応できる人材」の養成に効果を発揮する研究分野である。一方、③ことに留学生の日本語教育学の研究テーマとしては現代日本語や学習者中心の日本語教育学を本学に構築する必要がある、ビジネス日本語、ことにビジネス文書の研究に取り組んでいる。このビジネス文書は、留学生と日本人学生の双方にとって就職先や研究教育職を開拓できる極めて有望な研究分野であり今後、特に主力を置く方針である。

【職・氏名】准 教 授 山 岡 敬 和 (YAMAOKA Yoshikazu)
 【学 位】修士(日本文学)
 【生 年】昭和30(1955)年
 【本学就任】平成2(1990)年4月1日
 【略 歴】國學院大學文学部文学科卒業
 國學院大學大学院文学研究科日本文学専攻博士課程後期単位取得満期退学
 【専門分野】日本中世文学
 【受賞歴等】第二回長塚節文学賞小説部門大賞(平成10年)

【最近5年間の主な研究業績等】〔平成18～22年度〕（10点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	「歌徳説話——その発生に関する一考察——」	『國學院雑誌』第110巻第11号 國學院大學	全10p	平21. 11
論文	単	「貴種流離譚とは何か」	『國文學解釈と教材の研究』 第54巻4号 學燈社	全9p	平21. 3
論文	単	「隣の翁考—『宇治拾遺物語』を中心に—」	『國學院雑誌』第109巻第5号 國學院大學	全13p	平20. 5

【平成17年度以前の主な研究業績等】（5点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	「蛇考—蛇への変身—」	『國學院雑誌』第106巻第6号 國學院大學	全12p	平17. 6
論文	単	「文学の発生と貴種流離譚」	『國學院大學紀要』第43巻 國學院大學	全27p	平17. 2
論文	単	「蛇考—蛇との婚姻—」	『國學院雑誌』第104巻第2号 國學院大學	全60p中 pp.1-13	平15. 2
論文	単	「龍田山説話を考える—その2『伊勢物語』・『大和物語』の場合—」	『國學院雑誌』第102巻第10号 國學院大學	全48p中 pp.1-13	平13. 10
論文	単	「龍田山説話を考える—その1『古今和歌集』左注の場合—」	『國學院雑誌』第102巻第5号 國學院大學	全51p中 pp.1-13	平13. 5

【所属学会】説話文学会、日本文学協会、國學院大學國文學會

【最近の社会的活動等】

茨城県古河市古河文学館評議委員(平成12・13年度)、茨城県古河市博物館評議委員(平成14～17年)、
 茨城県古河市古河文学館古典講座担当(平成14年～現在)

【教育活動について】

日本文学、特に古典文学の世界に対して、どうすれば学生達が興味を持ち、面白いと感じてくれるかを常に心に掛けて、全ての授業及び指導に当たっている。文学概説では文学とは何かから始まり、各時代の作品などを通して、日本文学への理解と関心を深めることを目的としている。日本文学演習では自ら問題点を設定してその答えを探ることを通して、考察・探求する姿勢を身につけることを目的としている。日本時代文学史では幅広い文学的知識を身につけるとともに、時代毎に変化する文学の様相を知ることを目的としている。卒業論文指導では個別の関心に基づいた文学研究ができるようになることを目的として指導に当たっている。

【研究活動について】

従来から一貫して行ってきた説話の研究(「隣の翁考」「歌徳説話」参照)、及び折口信夫の学説の検証と継承(「貴種流離譚とは何か」参照)、さらに今年度から演習の授業で『徒然草』を扱うため、『徒然草』の研究を始めた。『徒然草』はあまりに著名であるが、その研究成果は不十分と言うしかなく、口語訳も間違ったものが多いことが判明したので、まずは全段を正しく口語訳することを目指して研究を進めている。

【職・氏名】准 教 授 吉 田 永 弘 (YOSHIDA Nagahiro)
【学 位】博士(文学)(平成13年3月 國學院大學 文甲第32号)
【生 年】昭和47(1972)年
【本学就任】平成19(2007)年4月1日
【略 歴】國學院大學大学院文学研究科日本文学専攻博士課程後期修了
愛知県立大学文学部講師
愛知県立大学文学部助教授
【専門分野】国語学

【最近5年間の主な研究業績等】 [平成18～22年度] (10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
調査・研究報告等	単	『『源平盛衰記』語彙研究の視点』	『文学における王権象徴の表現の研究 平成二十一年度國學院大學文学部共同研究報告』	全124p中 pp.113-117	平22. 3
学会発表等	単	「古代語のタメニ構文とその変遷」	中部日本・日本語学研究会(第54回)於:刈谷市産業振興センター		平21. 10
評論・書評等	単	「〔書評〕小川栄一著『延慶本平家物語の日本語史的研究』」	『日本語の研究』 5巻3号 日本語学会	全188p中 pp.112-117	平21. 7
論文	単	「国語学から見た延慶本平家物語」	栃木孝惟・松尾葦江編『延慶本平家物語の世界』 汲古書院	全264p中 pp.148-165	平21. 5
辞書・事典等	共	『暮らしのことば 新 語源辞典』	講談社		平20. 11
論文	単	「源氏物語の「御」―自体尊敬の存否―」	『國學院雑誌』 109巻10号 國學院大學	pp.122-133	平20. 10
その他	単	「猫も杓子も」	『國學院雑誌』 109巻8号 國學院大學	pp.28-29	平20. 8
論文	単	「接続助詞ニヨッテの源流」	『國學院雑誌』 第108巻第11号 國學院大學	pp.195-206	平19. 11
論文	単	「中世日本語の因果性接続助詞の消長 ―ニヨッテの接続助詞化を中心に―」	青木博史編『日本語の構造変化と文法化』 ひつじ書房	全276p中 pp.181-203	平19. 7
論文	単	「属性明示の存在表現―「にてあり」の用法と解釈―」	『日本語学』二〇〇六年四月臨時増刊号「新・古文読解」 25巻5号 明治書院	pp.62-70	平18. 4

【平成17年度以前の主な研究業績等】 (5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文	単	「体言承接のタリ」の位置づけ」	『日本語の研究』 2巻1号 日本語学会	pp.78-92	平18. 1
論文	単	「鬼のことば―宇治拾遺物語の自敬表現―」	『國學院大學栃木短期大學紀要』 39号 國學院大學栃木短期大學	pp.69-89	平17. 3
論文	単	「屋代本平家物語の語法覚書―書写年代推定の試み―」	『徳江元正退職記念鎌倉室町文学論纂』 三弥井書店	pp.197-218	平14. 5
論文	単	「ホドニ小史―原因理由を表す用法の成立―」	『国語学』 51巻3号 国語学会	pp.74-87	平12. 12
論文	単	「「仰せなりけるは」考」	『國學院雑誌』 第100巻第2号 國學院大學	pp.34-47	平11. 2

【所属学会】 日本語学会、日本語文法学会、國學院大學国語研究会

【最近の社会的活動等】

愛知県立大学公開講座「辞書―ことばの万華鏡―」「日本語」担当(平成17年10月29日)
國學院大學たまプラーザキャンパス狂言鑑賞会「狂言入門講座」担当(平成19年10月17日)

【教育活動について】

「日本語学概説」は毎時プリントを作成・配布している。あえて学生のレベルに合わせた講義はせずに、一定の水準を保つことに努めている。「基礎日本古典語」は問題を解く時間を毎時間設定し、基礎力の向上をはかっている。この科目に関連して、平成22年度の「特色ある教育研究」に採択され、問題集を作成した。「日本語学演習Ⅰ」では、K-SMAPYを活用し、発表者だけでなく聴講者も参加できる仕組みを工夫している。

【研究活動について】

前回の報告書で懸念していた通り、研究時間が大幅に減った。その結果、論文の生産力も落ちた。研究にじっくり取り組むことができない現状では、効率的に結果の出る研究を行わないといけないのだろう。

文 学 部

【中国文学科】

赤 井 益 久 教 授		29
浅 野 春 二 教 授		30
石 本 道 明 教 授		31
長谷川 清 貴 助 教		32
波戸岡 旭 教 授		33
牧 野 格 子 講 師		34
宮 内 克 浩 准 教 授		35

【職・氏名】教 授 赤 井 益 久 (AKAI Masuhisa)
 【学 位】博士(文学)(平成15年1月 國學院大學 文乙第177号)
 【生 年】昭和25(1950)年
 【本学就任】昭和60(1985)年4月1日
 【略 歴】早稲田大学第二文学部東洋文化専修卒業
 國學院大學大学院文学研究科博士課程後期単位取得満期退学
 【専門分野】中国古典文学、中国古典語法
 【受賞歴等】吹野博士記念賞(國學院大學、平成16年)

【最近5年間の主な研究業績等】[平成18～22年度](10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
著書	単	『中国山水詩の景観』	新公論社	全370p	平22. 3
論文	単	「中国古代の歌謡と祭礼、その復原の試み—松本雅明の詩経研究—」	『國學院雑誌』第111巻第11号 國學院大學	全468p中 pp.13-26	平21. 11
論文	単	「『杜子春伝』臆説」	『中国古典研究』53号 中国古典学会	全90p中 pp.1-21	平20. 12
編著	共	(文部科学省検定済)高等学校「古典」漢文編	三省堂	全152p	平20. 3
編著	共	(文部科学省検定済)高等学校国語「古典」(古文編)	三省堂	全132p	平20. 3
調査・研究報告等	共	「1997—2006年日本唐代文学研究概況」	『中国唐代学会会刊』第14期 中国唐代学会	全242p中 p119-140	平19. 11
論文	単	「『枕中記』校弁」	『中国古典研究』第51号 中国古典学会	全100p中 pp.1-20	平19. 2
論文	単	「中国における寄り合いの文学」	『和漢聯句の世界』アジア遊学95 勉誠社	pp.92-102	平19. 1

【平成17年度以前の主な研究業績等】(5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	「唐釋皎然の詩論について—中國詩学「景情交融」の主題に即して—」	『松浦友久博士追悼記念 中国古典文学論集』 研文出版	pp.570-586	平18. 3
著書	単	『中唐詩壇の研究』(東洋学叢書60)	創文社	全590p	平16. 10
その他	単	『日本中国學會報』第56集「学界展望」(文学)	日本中国學會	pp.344-382	平16. 10
評論・書評等	単	王毅著『園林与中国文化』(中国文化史叢書、上海人民出版社、1990年、全747p)	『白居易研究年報』第4号 勉誠社	pp.300-315	平15. 9
著書	単	『漢詩漢文解釈講座』第2巻(唐詩・上)	昌平社	全516p	平7. 5

【所属学会】東方学会、日本中国学会、中国唐代学会、中唐文学会、中国古典学会、日本高等教育学会、初年時教育学会

【最近の社会的活動等】私立大学連盟教学担当理事者会議運営委員(平成19年～現在)、
 独立行政法人大学評価・学位授与機構認証評価専門委員(平成21年～現在)

【教育活動について】

〈大学における教育活動〉平成19年・20年度の二年間、教育開発推進機構設置準備室委員長を拝命し、設置準備に当たった。平成21年に「教育開発推進機構」が発足し、機構長として運営に当たった。教育支援を主とする教育開発センター長・FD推進委員会委員長を兼務した。平成13年に実質化したFD事業は、第二ステージを迎え、学部ごとの活性化を促し、より教育の現場に還元できるような制度にすべく努力した。GP申請支援、学士課程教育における3ポリシーの策定支援、FD関連事業の推進、平成19年度・同20年度『授業評価アンケート分析報告書』の刊行、教育活動における教員評価の新方式により実施し、それらを大学教育改革の資とすべく、副学長としてさまざまな政策提言を大学及び理事会に対して行った。

〈授業における教育活動〉授業評価アンケートに基づく学生の志向や動向をできるだけ勘案し、授業の展開に導入・発展・整理(まとめ)を一連の流れの中で位置づけた。大人数の講義科目では、前週の確認・次週の予告はとくに効果的であったと考えられ、学習内容の確認と到達目標、及び修得能力の自己把握の点で、アンケートの効果が確認された。少人数の演習科目では、学生一人ひとりの学力を把握し、プレゼンテーション能力を高めるために事前にモデルを示し、作業・調査・発表を一連の活動として認識させ、実施させた。とくに「作業」→「試行」→「修正」といったサイクルを自覚させ、双方向授業を通して学生の到達度を把握することに努めた。

〈課外活動における教育活動〉課外活動としては、「唐代文学研究会」「モーターボート&水上スキー部」の部長として指導に当たり、研究会開催・学園祭参加・研究成果発表、インカレ出場・練習などを通して共同学習の意義や倫理規範の実践学習を促した。課外活動の意義は、異年齢間における人間関係の経験学習、集団における自己主張と協働意識の涵養等、正課にも相乗的な効果があると考え、学生には積極的に参加するよう指導している。

【研究活動について】

中国古典における唐代文学の研究に従事してきた。とくに中国文学史を記述するうえで、「中唐」がいかなる位置を占めるかを、さまざまな文学事象を通して研究し、著書『中唐詩壇の研究』(東洋学叢書60、平成16年)にまとめた。また、中国古典詩歌の重要なジャンルである山水詩について研究をまとめ、平成22年3月に著書『中国山水詩の景観』(新公論社刊)を刊行した。また、ライフワークである唐代伝奇小説の研究を継続的に進め、論文『『枕中記』校弁』(平成19年2月)、『『杜子春伝』臆説』(平成20年12月)等を発表した。後世における唐詩の受容についての研究公表は、平成22年8月に「和刻本に見る唐詩の受容」展(於:東京六本木ギャラリー「楓樹」)を開催した。

【職・氏名】教 授 浅 野 春 二 (ASANO Haruji)
 【学 位】博士(文学)(平成13年4月 國學院大學 文乙第161号)
 【生 年】昭和35(1960)年
 【本学就任】平成14(2002)年4月1日
 【略 歴】國學院大學文学部文学科卒業
 國學院大學大学院文学研究科日本文学専攻博士課程後期中途退学
 國學院短期大学国文科専任講師
 【専門分野】道教儀礼研究
 【受賞歴等】吹野博士記念賞(國學院大學、平成17年)

【最近5年間の主な研究業績等】〔平成18～22年度〕(10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文	単	「神虎堂中の陰陽二壇について(中)」	『國學院中國學會報』第56輯 國學院大學中國學會	pp.44-61	平22. 12
論文	単	「洞視法と神虎法—南宋期の靈寶齋の儀式書に見える修行法と召魂法とについて」	『東方宗教』第116号 日本道教学会	全162p中 pp.47-72	平22. 11
論文	単	「神虎堂中の陰陽二壇について (上)」	『國學院中國學會報』第55輯 國學院大學中國學會	全154p中 pp.57-75	平21. 12
論文	単	「神虎法による召魂儀礼の性格—魂覓ぎ・嘯・招魂歌の観点から」	『國學院中國學會報』第54輯 國學院大學中國學會	pp.99-116	平20. 12
論文	単	「儀礼文化から見た道教儀礼—台湾南部の調査から—」	『儀礼文化』第38号 儀礼文化学会	pp.7-37	平19. 2
論文	単	「台湾南部の慶成祈安醮における符—比較研究へ向けての現地調査から—」	『日本文化と神道』第3号(國學院大學21世紀COEプログラム「神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成」成果論文集) 國學院大學21世紀COEプログラム研究センター	pp.15-38	平18. 12
論文	単	「神虎法による招魂儀礼について」	『國學院中國學會報』第52輯 國學院大學中國學會	pp.64-74	平18. 12
論文	単	「道教儀礼の依頼者と道士—台湾南部の閩南系漢族社会から」	堀池信夫・砂山稔編 『道教研究の最先端 第一九回国際宗教学宗教史会議世界大会道教パネル論集』 大河書房	pp.133-163	平18. 8

【平成17年度以前の主な研究業績等】(5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
著書	単	『台湾における道教儀礼の研究』	笠間書院	全554p	平17. 11
論文	単	「道教の祭りと供物—現代台湾南部の事例から—」	國學院大學日本文化研究所編 『東アジアに見る食とこころ 中国・台湾・モンゴル・韓国・日本』 おうふう	pp.69-113	平16. 10
論文	単	「一九三〇年代以降の道士と道教儀礼をめぐるいくつかの変化—台湾南部台南地区の調査から—」	福井文雅責任編集『東方学の新視点』 五曜書房	pp.271-316	平15. 10
著書	単	『飛翔天界 道士の技法』(シリーズ道教の世界4)	春秋社	全234p	平15. 10
著書	共	『道教の教団と儀礼』(講座道教 第二巻)	雄山閣出版	全328p中 pp.116-143, 284, 298-312	平12. 5

【所属学会】儀礼文化学会、國學院大學国文学会、全国大学国語国文学会、國學院大學中国学会、日本文化人類学会、日本民俗学会、日本道教学会、道教文化研究会、「宗教と社会」学会、財団法人東方学会、無窮会、日本中国学会

【最近の社会的活動等】

浅草寺仏教文化講座「台湾の祭礼・喪礼に見る仏教と道教の文化」(平成14年8月)、
 台南市道教会顧問(平成16年～現在)、武蔵野大学日曜講演会「台湾における祭りについて」(平成16年12月)

【教育活動について】

講義科目においては、表面的な理解にとどまらないように、具体的な資料を提示して、その資料の読解を踏まえた上で議論を進めるように努めている。演習科目においては、基本的な資料の調べ方を身につけさせること、読解力の向上を図ることを目的として、毎回学生による調査・研究・発表を行っている。現代中国語の学修では、暗唱を重視して指導にあたっている。また、留学を推奨し、自身も度々学生を引率して中国に赴いている。平成19・20年度に実施したセメスター留学では学生を引率して中国天津市の南開大学に4ヶ月間滞在した。中国礼俗文化研究会においては、毎週の例会や夏期合宿に参加し、指導にあたっている。

【研究活動について】

台湾におけるフィールドワークと宋代の儀式書を通して道教儀礼の研究を行っている。現在は、道教儀礼における召魂法の具体的な方法の解明とそれを通して何うことのできる靈魂観の考察を行っている。これと関連して道教儀礼中で用いられる符についても研究している。また共同研究に参加し、ヤオ族の道教儀礼における招魂呪術についても研究を進めている。

【職・氏名】教 授 石 本 道 明 (ISHIMOTO Michiaki)
 【学 位】文学修士
 【生 年】昭和34(1959)年
 【本学就任】平成元(1989)年4月1日
 【略 歴】國學院大學文学部文学科卒業
 國學院大學大学院文学研究科博士課程前期修了
 國學院大學大学院文学研究科博士課程後期単位取得満期退学
 【専門分野】中国文学

【最近5年間の主な研究業績等】 [平成18～22年度] (10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文	単	「日本における宋代詩文受容の画期について―摺本珍重期を中心として―」	『國學院雑誌』 第112巻第1号 國學院大學	全15p	平23. 1
論文	単	「楊万里「天問天対解」初探」	『國學院雑誌』 第111巻第2号 國學院大學	全14p	平22. 2
論文	単	「顔之推「帰心篇」と楚辞「天問」と」	『國學院中國學會報』 第54輯 國學院大學中國學會	pp.1-13	平20. 12
著書	共	『孔子全書』第12巻『史記』(2)付:史記部分索引	明德出版社	全180p	平20. 11
著書	共	『孔子全書』第11巻『史記』(1)	明德出版社	全234p	平19. 6
論文	単	「楚辞「天問」整序研究管窺」	『國學院雑誌』 第107巻第8号 國學院大學	pp.1-21	平18. 8
著書	共	『孔子全書』第10巻『論語』(10)	明德出版社	全110p	平18. 5

【平成17年度以前の主な研究業績等】 (5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文	単	「江淹「遂古篇」と楚辞「天問」について―本文解説とその比較―」	『國學院大學紀要』 第42巻 國學院大學	pp.23-47	平16. 2
著書	共	『朱熹詩集伝全注釈』第9巻(付 総索引)	明德出版社	全284p	平11. 6
論文	単	「詩人白石小論―詩を論ずる前提となる諸問題―」	季刊『日本思想史』 No.46 ぺりかん社	全111p中 pp.63-75	平7. 12
論文	単	「黄州流謫時代の蘇東坡―「杜門」から「自新」へ―」	『國學院雑誌』 第93巻第1号 國學院大學	pp.1-12	平4. 1
論文	単	「陸游醉中吟初探」	『國學院雑誌』 第91巻第4号 國學院大學	pp.11-24	平2. 4

【所属学会】日本中国学会、中国社会文化学会、無窮会東洋文化研究所、宋代詩文研究会、國學院大學中國學會

【最近の社会的活動等】

実務ビジネス学会基調報告「論語を活かす―洪沢栄一『論語講義』―」(平成15年3月)
 千葉経済大学総合図書館講演会2008年度第1回「経世済民の『論語』」(平成20年7月)
 千葉経済大学総合図書館講演会2009年度第2回「『論語』と日本人―荻生徂徠の挑戦―」(平成21年11月)
 千葉経済大学総合図書館講演会2010年度第1回「怒れる孔子―『論語』を読む―」(平成22年7月)

【教育活動について】

大学院では、清朝考証学の大家・戴震の『屈原賦注』の訳注が日本には未だに発表されていないため、演習で精読に努めている。学部では、1年次必修の中国文学入門において、近年顕著な「基礎知識・学習力」の不足に鑑み、多様な教材・版本等実物の提示・図書館を使った実習の講習等、多角的アプローチを試みている。また、3年次では卒業論文Ⅰにおいて、研究方法と題目決定を段階的に指導し、5回に渉る課題提出とその添削を隔週で実施、また全専任教員のオムニバス形式も取り入れて、双方向の授業に努めている。

【研究活動について】

刊行中の『孔子全書』は、『論語』『史記』を終え、今年度から『孔子家語』に歩みを進めた。全22巻の計画の内、13巻目に当たる。また、2004年以降公表してきた楚辞「天問」と後代の展開に関する論考は、研究史1篇・発生論1篇・構成論1篇・六朝期2篇・宋代2篇となったが、より多様な論点から論じたいと準備を進めている。

【職・氏名】助 教 長 谷 川 清 貴 (HASEGAWA Kiyotaka)
 【学 位】修士(文学)
 【生 年】昭和45(1970)年
 【本学就任】平成20(2008)年4月1日
 【略 歴】國學院大學文学部文学科卒業
 國學院大學大学院文学研究科日本文学専攻(漢文学コース)博士課程後期単位取得退学
 暁星中学校・高等学校教諭(国語)
 【専門分野】中国思想

【最近5年間の主な研究業績等】 [平成18～22年度] (10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	「多能なる聖者——『論語』「太宰問於子貢」章小考」	『國學院中國學會報』第56輯 國學院大學中國學會	pp.19-30	平22. 12
論文	単	「荀悦における「復讐の義」	『國學院中國學會報』第55輯 國學院大學中國學會	全153p中 pp.19-31	平21. 12
論文	単	「荀悦『漢紀』における「春秋之筆法」—昌邑王廃位記事を中心に—」	『國學院雑誌』第110巻第10号 國學院大學	全54p中 pp.1-15	平21. 10
論文	単	「荀悦の災異観」	『國學院中國學會報』第54輯 國學院大學中國學會	全144p中 pp.22-43	平20. 12
論文	単	「「封人」考」	『國學院中國學會報』第52輯 國學院大學中國學會	pp.22-35	平18. 12

【平成17年度以前の主な研究業績等】 (5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	「「七諫」と東方朔」	『東洋文化』復刊第88号 無窮會	pp.26-39	平14. 3
論文	単	「東方朔の思想に関する一考察—士の諧謔と苦悩—」	『國學院大學大学院紀要』第33輯 國學院大學大学院	pp.283-300	平14. 3
論文	単	「災異説の前漢期における政治的活用—文帝期から昭帝期まで—」	『東洋文化』復刊第85号 無窮會	pp.24-34	平12. 9
論文	単	「董仲舒天論小考」	『國學院中國學會報』第45輯 國學院大學中國學會	pp.1-10	平11. 12

【所属学会】國學院大學中國學會、日本中國學會、財団法人無窮會

【最近の社会的活動等】

【教育活動について】

主に中国古典語の文法及び文献の読解・研究について担当する。使用教材はプリント作成が多いが、原典のコピーを用いることもある。教材・告知はK-SMAPYの活用に留意している。文献は漢文訓読による読解を中心とし、精密な訓読・解釈を教えることを重視している。

【研究活動について】

先秦～漢代の中国思想を中心に考究している。これまでの主な研究対象は、『論語』・董仲舒(天人相関論・『春秋繁露』等)・東方朔・荀悦(『漢紀』『申鑒』等)である。

【職・氏名】教 授 波 戸 岡 旭 (HATOOKA Akira)
 【学 位】文学博士(平成3年6月 國學院大學 乙文第97号)
 【生 年】昭和20(1945)年
 【本学就任】昭和54(1979)年4月1日
 【略 歴】國學院大學文学部文学科卒業
 國學院大學大学院文学研究科日本文学専攻博士課程単位取得満期退学
 【専門分野】日中比較文学、日本漢文学

【最近5年間の主な研究業績等】 [平成18～22年度] (10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	「菅原道真「秋湖賦」考一感は事に因りて発し、興は物に遇うて起る」	『國學院雑誌』111巻3号 國學院大學	全8p	平22. 3
論文	単	「白居易「閑適」詩と島田忠臣の詩境一島田忠臣詩に見える白居易詩境からの行禪の享受」	『白居易研究年報』第十号 白居易研究会	全360p中 pp.181-193	平21. 12
論文	単	「渤海使節と三勅撰漢詩文集一『文華秀麗集』と王孝廉・釈仁貞を中心に」	『水門一言葉と歴史』21 勉誠出版	全6p	平21. 4
著書	共	『『懷風藻』の自然描写一長屋王邸宅宴関連詩を中心に」	辰巳正明編『『懷風藻』一日本の自然観はどのように成立したか』 笠間書院	全241p中 pp.118-136	平20. 6
評論・書評等	単	書評:「谷口孝介氏著『菅原道真の詩と学問』」	『和漢比較文学』第39号 和漢比較文学会	全78p中 pp.42-52	平19. 8
論文	単	「嵯峨御製の梵門詩」	『東アジア比較文化研究』5 東アジア比較文化国際会議日本支部	全150p中 15p	平18. 8

【平成17年度以前の主な研究業績等】 (5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	「遣唐使人の文学」	『東アジアの古代文化』 2005春 123号 大和書房	全261p中 pp.95-109	平17. 5
著書	単	『宮廷詩人 菅原道真一『菅家文草』『菅家後集』の世界一』	笠間書院	全686p	平17. 2
論文	単	『『懷風藻』の自然描写一長屋王邸宅宴関連詩を中心に」	『『懷風藻』一日本の自然観はどのように成立したか一』辰巳正明編 所収 笠間書院	全240p中 pp.118-137	平12. 6
著書	単	『上代漢詩文と中国文学』	笠間書院	全354p	平1. 11
その他	単	『標註日本漢詩文選』	笠間書院	全172p	昭55. 5

【所属学会】東アジア比較文化国際会議、和漢比較文学会、財団法人無窮会、日本中国学会、上代文学会、儀礼文化学会、
國學院大學中國學會

【最近の社会的活動等】

俳句雑誌『天頂』の主宰として、社会人対象の俳句指導をしている(月3回俳句会指導、月刊誌『天頂』発行等)

【教育活動について】

毎授業時に、前回の講義及び演習した内容をレポート用紙に清書して提出させて、出席状況と合わせて、受講生の学習状況をチェックしている。

【研究活動について】

東アジア比較文化国際会議日本大会で基調講演。尾道市源氏絵祭り講演会で講演等。

【職・氏名】講 師 牧 野 格 子 (MAKINO Noriko)
 【学 位】博士(文学)(平成16年9月 関西大学 文甲第158号)
 【生 年】昭和48(1973)年
 【本学就任】平成19(2007)年4月1日
 【略 歴】立命館大学文学部文学科中国文学専攻卒業
 関西大学大学院文学研究科中国文学専攻博士後期課程修了
 関西大学非常勤講師
 【専門分野】中国近現代文学

【最近5年間の主な研究業績等】〔平成18～22年度〕（10点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文	単	「1936年広東省における民族主義文学運動と新生活運動の展開について—『時代文芸』、『新生路月刊』等の“民族英雄”の視点から—」	『立命館文学』 615号 立命館大学文学部人文学会	pp.794-804	平22. 2
論文	単	「謝冰心における「問題」と「主義」」	『國學院中國學會報』 第55輯 國學院大學中國學會	pp.89-101	平21. 12
学会発表等	単	「抗日戦争期「民族英雄」の成立について」	國學院大學中國學會第52回大会		平21. 6
論文	単	「雑誌『新生路月刊』概観—編集内容、文芸欄「新生園地」を中心に—」	『國學院雑誌』 第110巻第2号 國學院大學	pp.1-15	平21. 2
学会発表等	単	「雑誌『新生路』月刊に関する考察—文芸欄を中心に—」	國學院大學中國學會第一九〇回例会		平20. 11
翻訳・翻刻書	共	『家族への手紙——謝冰心の文革』	関西大学出版部	全129p	平20. 2
論文	単	「謝冰心と“蒋夫人獎金文学コンクール”」	『國學院中國學會報』 第53輯 國學院中國學會	pp.49-67	平19. 12
学会発表等	単	「抗日時期の謝冰心について」	國學院大學中國學會第50回大会		平19. 6
論文	単	「呉文藻の政治性」	『関西大学中国文学会紀要』 第28号	pp.A37-A52	平19. 2
学会発表等	単	「呉文藻、謝冰心夫妻の重慶時代——リベラル知識人の観点から——」	日本中国学会第58回大会(於 大東文化大学板橋キャンパス)		平18. 10

【平成17年度以前の主な研究業績等】（5点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文	単	「グレース・ボイントンについて——謝冰心、楊剛との交流を中心に」	『関西大学中国文学会紀要』 第27号 関西大学中国文学会	pp.111-130	平18. 3
論文	単	「謝冰心——アメリカ留学時期の研究」(博士論文)	関西大学	全153p	平16. 9
論文	単	「1923年アメリカ留学生の姿——『申報』等記事より」	『現代中国』 第75号 日本現代中国学会	pp.191-198	平13. 10
論文	単	「三島すみ江について——謝冰心の日本の友人」	『野草』 第68号 中国文芸研究会	pp.40-59	平13. 8
論文	単	「關於冰心赴美留学——出発前的情況」	『冰心論集』 海峡文芸出版社	pp.208-218	平12. 10

【所属学会】日本中国学会、中国冰心文学学会、日本現代中国学会

【最近の社会的活動等】

【教育活動について】

1年生対象の初級中国語の授業で、中国語の発音、文法の基礎理解を強化した。2年生対象の中級中国語の授業で、簡単なレベルの文章の講読力の養成に努めた。中国現代文学作品講読の講義では、文学作品の講読を行った。他にセメスター留学の引率を2年務め、現地で中国文学史、中国文学演習の講義を行った。

【研究活動について】

謝冰心という中国近現代文学を代表する女性作家のアメリカ留学時期の研究から出発し、その前後の時期の活動、文学にも視野を広げ、多角的な視点からの考察を行っている。さらに彼女と同時期の留学生である聞一多、梁実秋、呉文藻らの研究も行った。他には、1937年前後抗日戦争時期、広東における民族主義文芸、特に戯劇の研究を進めている。

【職・氏名】准 教 授 宮 内 克 浩 (MIYAUCHI Katsuhiro)
 【学 位】文学修士
 【生 年】昭和37(1962)年
 【本学就任】平成16(2004)年4月1日
 【略 歴】國學院大學文学部文学科卒業
 國學院大學大学院文学研究科博士課程後期単位取得満期退学
 暁星高等学校教諭
 【専門分野】中国古典文学

【最近5年間の主な研究業績等】〔平成18～22年度〕（10点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文	単	「後漢「北征頌」三首考」	『國學院雑誌』第109巻第9号 國學院大學	全15p	平20. 9

【平成17年度以前の主な研究業績等】（5点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文	単	「伝崔瑗「竇大將軍鼎銘」小考」	『國學院中國學會報』第50輯 國學院大學中國學會	pp.13-27	平16. 12
論文	単	「崔琦「外戚箴」小考」	『國學院雑誌』第105巻第2号 國學院大學	pp.45-57	平16. 2
論文	単	「張衡「応間」攷」	『國學院中國學會報』第48輯 國學院大學中國學會	pp.26-44	平14. 12

【所属学会】國學院大學中國學會、日本中国学会、無窮会

【最近の社会的活動等】

【教育活動について】

古典読解の養成をねらった導入期の演習の授業では、授業開始時に15分程度の素読を行っている。次回の授業開始時に学生が自身の未習熟箇所を発見し、学修し直すことができるよう、小テストを行っている。この小テストは、他の3・4年次に行われる演習の中でも、学生が、他者の発表を聞き流すのではなく、主体的に毎回のテーマに取り組むことを狙って常に授業開始時に行っている。

【研究活動について】

研究成果の報告として、年1回の口頭発表、および発表内容を研究論文として年1本投稿することを目指した。口頭発表に関しては、毎年行うことができたが、研究論文の投稿は平成18・19、21・22年度において実行できていない。

文 学 部

【外国語文化学科】

秋 吉 良 人 准 教 授		39
黒 澤 直 道 准 教 授		40
高 橋 昌一郎 教 授		41
橘 好 碩 教 授		42
野 呂 健 教 授		43
福 島 直 之 教 授		44
村 山 雅 人 教 授		45
ロバート・ロルフ 教 授		46

【職・氏名】准 教 授 秋 吉 良 人 (AKIYOSHI Yoshito)
 【学 位】博士(文学)(平成11年3月 東京大学 博人社第237号)
 【生 年】昭和36(1961)年
 【本学就任】平成12(2000)年4月1日
 【略 歴】和光大学人文学部人間関係学科卒業
 東京大学大学院人文社会系研究科欧米系文化研究専攻博士課程修了
 東京大学大学院人文社会系研究科研究員
 【専門分野】仏文学
 【受賞歴】第18回渋沢・クロード賞受賞(『サドにおける言葉と物』2001, 風間書房)

【最近5年間の主な研究業績等】 [平成18～22年度] (10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
著書	単	『サド―切断と衝突の哲学』	白水社	全285p	平19. 12

【平成17年度以前の主な研究業績等】 (5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
著書	単	『サドにおける言葉と物』	風間書房	全274p	平13. 2

【所属学会】

【最近の社会的活動等】

【教育活動について】

フランス語の授業では、最近とみに基礎能力・学力の差が目立ち、全員を一度に対象として進行することがしづらいことが多々ある。そこで基本的な説明の後には、練習問題を行って、各自に個別の指導をするようにしている。また試験も、試験類題を事前に授業で行い、皆が理解したうえで、試験に臨めるようにしている。

【研究活動について】

フロイトが19世紀末から20世紀初頭にかけて交際したW・フリースにあてて書いた書簡等を調査し、彼が精神分析を創出していった過程を明らかにする論考を準備している。

【職・氏名】准 教 授 黒 澤 直 道 (KUROSAWA Naomichi)
 【学 位】博士(学術)(平成15年3月 東京外国語大学 博甲第38号)
 【生 年】昭和45(1970)年
 【本学就任】平成16(2004)年4月1日
 【略 歴】東京外国語大学外国語学部中国語学科卒業
 東京外国語大学大学院地域文化研究科博士後期課程修了
 日本学術振興会特別研究員(PD)
 【専門分野】中国語、中国の文化と民族

【最近5年間の主な研究業績等】〔平成18～22年度〕（10点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	「ナシ(納西)語大研鎮方言の音韻体系―先行研究との比較を中心に」	『アジア・アフリカ言語文化研究』第77号 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	pp.63-81	平21. 10
論文	単	「ナシ族トンバ經典文字テキストの基礎的研究―出現頻度に基づいた「骨組み」の抽出」	『國學院雑誌』第110巻第3号 國學院大學	pp.1-17	平21. 3
論文	単	「ナシ(納西)語による出版物について」	『國學院大學紀要』第47号 國學院大學	pp.1-13	平21. 2
論文	単	「ナシ(納西)語熟語の基礎的研究―形容詞・その他の熟語編、および補編―」	『Walpurgis 2009』(國學院大學外国語研究室・外国語文化学科紀要) 國學院大學外国語研究室・外国語文化学科	pp.21-32	平21. 3
論文	単	「ナシ(納西)語熟語の基礎的研究―副詞熟語編―」	『Walpurgis 2008』(國學院大學外国語研究室・外国語文化学科紀要) 國學院大學外国語研究室・外国語文化学科	pp.35-50	平20. 3
論文	単	「ナシ(納西)族トンバ(東巴)教の現状について―2006年の調査から―」	『國學院雑誌』第108巻第6号 國學院大學	pp.1-10	平19. 6
論文	単	「ナシ(納西)語熟語の基礎的研究―動詞熟語編―」	『Walpurgis 2007』(國學院大學外国語研究室・外国語文化学科紀要) 國學院大學外国語研究室・外国語文化学科	pp.43-57	平19. 3
著書	単	『ナシ(納西)族宗教經典音声言語の研究:口頭伝承としての「トンバ(東巴)經典」』	雄山閣	全216p	平19. 2
論文	単	「中国少数民族宗教テキストの一研究―ナシ族のトンバ經典―」	『日本文化と神道』第3号(國學院大學21世紀COEプログラム「神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成」成果論文集) 國學院大學21世紀COEプログラム研究センター	pp.509-524	平18. 12
著書	単	『ツォゼルグの物語:トンバが語る雲南ナシ族の洪水神話』	雄山閣	全157p	平18. 6
【平成17年度以前の主な研究業績等】（5点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	「ナシ(納西)語における漢語・漢文化の影響」	『中国言語文化論叢』第7集 東京外国語大学中国言語文化研究会	pp.75-93	平17. 3
論文	単	「雲南省麗江におけるナシ(納西)語教育の現状」	『國學院雑誌』第106巻第8号 國學院大學	pp.1-11	平17. 8
論文	単	「中国少数民族口頭伝承の研究―ナシ(納西)語音声言語の検討によるトンバ(東巴)文化の再検討」	東京外国語大学地域文化研究科博士論文		平15. 3
論文	単	「ナシ(納西)語緊喉母音論争の意義―中甸県三壩郷白地方言に見られる音声現象からの考察」	『アジア・アフリカ言語文化研究』第61号 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	pp.241-250	平13. 3
論文	単	「形態から見た中国少数民族民話の比較研究―文化的背景との関連の有無」	『物語の発生学』第1号(共同研究プロジェクト「物語と民衆の認識世界:物語の発生学」成果報告書) 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	pp.1-39	平9. 3

【所属学会】日本中国学会、日本中国語学会、日本口承文芸学会、中国民話の会、東京外国語大学中国言語文化研究会、社会環境学会

【最近の社会的活動等】

【教育活動について】

毎学期末に実施されている学生による授業評価アンケートを活用し、講義内容について学生の理解度が上がるよう、授業の改善を試みている。このアンケートについては、全体の傾向はもちろんであるが、アンケートの自由記述欄に書かれた数値化されないコメントにも注意を払っている。また、少人数の授業では、毎回学生にコメントを書いてもらい、学生の理解を確認し、授業の改善に役立てている。中国語の授業においては、言語の土台となる文化的背景についても理解を深められるよう、中国で撮影してきたオリジナルの写真や映像を使用することを心がけている。また、他の中国語担当教員と共同で、中国語と中国文化について理解を深めるための副教材である『中国語学習の手引き』(國學院大學、平成21年3月)を執筆し、中国語の履修者に配布した。

【研究活動について】

現在の中国の複雑性を理解するためには、この地域の文化的な多様性に対する認識が不可欠であると考え、中国語や中国文化についての研究と平行して、中国の少数民族の研究を行っている。特に、雲南省に居住するナシ族については、90年代後半からその言語の学習を開始し、現在ではその文化を総合的に理解するべく、継続的なフィールドワークを行っている。また、現地で開かれる学会・研究会にも積極的に参加し、ナシ族出身の研究者との連携を図っている。

【職・氏名】教 授 高 橋 昌 一 郎 (TAKAHASHI Shoichiro)

【学 位】修士(哲学)

【生 年】昭和34(1959)年

【本学就任】平成8(1996)年4月1日

【略 歴】ウエスタンミシガン大学教養学部数学科・哲学科卒業

ミシガン大学大学院哲学研究科修士課程修了

東京大学教養学部研究生

城西国際大学人文学部助教授

【専門分野】論理学、哲学、認知科学

【受賞歴等】ロバート・フリードマン哲学賞(昭58. 12)、プレジデンシャル・スカラー賞(昭59. 4)

【最近5年間の主な研究業績等】 [平成18～22年度] (10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
著書	単	『東大生の論理』	筑摩書房(ちくま新書)	全208p	平22. 12
著書	単	『知性の限界』	講談社(現代新書)	全288p	平22. 4
その他	単	連続講演:「理性の限界を探る」	朝日カルチャーセンター		平21. 3
論文	単	「情報文化論の展望Ⅷ」	『情報文化論』第8巻 情報文化研究会	pp.59-63	平20. 12
解説・ 解題等	単	「人間原理とビッグバン解説」	『Journal of the Japan Skeptics』 第17巻第3号 JAPAN SKEPTICS	pp.16-17	平20. 10
辞書・ 事典等	共	『懐疑論者の事典』	楽工社	上巻全434p、 下巻全474p	平20. 10
著書	単	『理性の限界』	講談社(現代新書)	全274p	平20. 6
著書	単	『哲学ディベート』	日本放送出版協会 (NHKブックス)	全302p	平19. 11
翻訳・ 翻刻書	共	「スティーヴン・ワインバーグ他: 科学と教育宗教分離主義を擁護するための宣言」	『Journal of the Japan Skeptics』 第16巻 JAPAN SKEPTICS	pp.3-5	平19. 9
翻訳・ 翻刻書	単	「クルト・ゲーデル: 数学基礎論における幾つかの基本的定理とその帰結」	『現代思想』第35巻第3号 青土社	pp.8-24	平19. 2

【平成17年度以前の主な研究業績等】 (5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
翻訳・ 翻刻書	単	『天才スマリヤンのパラドックス人生』	講談社	全238p	平16. 11
著書	単	『科学哲学のすすめ』	丸善	全192p	平14. 1
著書	共	『環境と人間』	岩波書店	全314p	平12. 11
著書	共	『パラドックス』	日本評論社	全239p	平12. 7
著書	単	『ゲーデルの哲学』	講談社(現代新書)	全254p	平11. 8

【所属学会】米国記号論理学会(The Association for Symbolic Logic, USA)、日本哲学会、日本科学哲学会、日本認知科学会、JAPAN SKEPTICS、情報文化研究会、米国科学哲学会(The Philosophy of Science Association, USA)

【最近の社会的活動等】

日本英語検定協会文部省認定実用英語検定試験面接委員(昭和63～平成12年)、
伊藤忠商事株式会社新規事業開発室・コンサルタント(平成元～2年)、
INTERNATIONAL HORIZON株式会社 アカデミック・コンサルタント(平成7～8年)

【教育活動について】

情報を論理的に分析して本質を見極める姿勢と、自由な発想に基づくオリジナリティを重視している。学生各自の個性を尊重した教育活動を目指して設定している。

【研究活動について】

論理学を基盤としてコミュニケーション論・ディベート論・ゲーム論を展開し、理性・知性・感性の限界に関する諸問題を研究している。従来の学問的枠組みに留まらず、新たな学際的方法論を模索している。

【職・氏名】教 授 橘 好 碩 (TACHIBANA Yoshihiro)
 【学 位】文学修士
 【生 年】昭和17(1942)年
 【本学就任】昭和47(1972)年4月1日
 【略 歴】東京都立大学大学院人文科学研究科(ドイツ語学・言語学専攻)修士課程修了
 東京都立大学人文学部助手
 フランクフルト・ゲーテ大学講師
 【専門分野】ドイツ語学・言語学、ヨーロッパ言語文化論、言語教育

【最近5年間の主な研究業績等】 [平成18～22年度] (10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	「グローバリゼーションと言語のアイデンティティ」	『日本言語政策学会会報』第15号 日本言語政策学会	pp.1-2	平22. 5
論文	単	「ドイツ語教育—過去・現在・未来—」	『ドイツ語教育』11号 日本独文学会ドイツ語教育部会	pp.97-98	平18. 10
論文	単	「EUの言語問題—言語とアイデンティティの問題を考える—」	『國學院雑誌』第107巻第6号 國學院大學	pp.1-14	平18. 6
【平成17年度以前の主な研究業績等】 (5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	「言語の変遷にみる伝統文化の保持と変容—ドイツにおける言語政策としての国語浄化運動の歴史と新たな外来語の奔流—」	『國學院雑誌』第100巻第11号 國學院大學	pp.90-109	平11. 11
翻訳・翻刻書	単	『図説ドイツ語の歴史』	大修館書店	全255p	平11. 2
論文	単	Fremdsprachenunterricht im Zeitalter der Internationalisierung	日本独文学会教育部会 Dokumentation des 2. Didaktikseminars für Japanische Germanisten	pp.58-66	平7. 5
著書	共	『ドイツ言語学辞典』	紀伊國屋書店	全1527p	平6. 5
論文	単	「大学の外国語教育—未修外国語教育の視点から—」	『Walpurgis '94』(國學院大學外国語研究室紀要) 國學院大學外国語研究室紀要	pp.49-67	平6. 3

【所属学会】日本独文学会、ドイツ言語理論研究会、大学教育学会、日本言語政策学会、ドイツ文法理論研究会
 国際ゲルマニスト協会 (IVG: Internationale Vereinigung der Germanisten)

【最近の社会的活動等】

日本独文学会理事(平成13～17年)、同教育部会ドイツ語教育問題研究会実行委員長(昭和59～平成7年)、
 日本独文学会関東支部支部長(平成7～11年)、同関東支部ドイツ語教育研究会実行委員長(平成7～15年)、
 日本独文学会教育部会幹事(昭和53～平成13年)、日本言語政策学会理事・副会長(平成11年～現在)、
 ドイツ語学文学振興会協議員(平成6年～現在)

【教育活動について】

21世紀・地球化時代は様々な分野でのグローバリゼーションの進展にも顕現しているように、地球社会がこれまで以上に一本化の度合いを強めていく総合化の時代であると同時に、個々の民族・文化がその独自性と自立性の主張を強めていく個別化・相対化の時代でもある。このような状況の中で、文化衝突とでも言うべき摩擦や紛争が絶え間なく生起する可能性がある。そうした事態を防止し新しい時代に相応しい国際社会を構築していくためにも、異なった民族・文化間の相互理解、すなわち「コミュニケーション」ということが一段と重要度を増してこよう。こうした流れの中で、今日「真の国際コミュニケーション能力」の養成は緊要の課題となっている。学内外の教育活動は、これを中心課題としている。情報技術(IT)革命の進展と軌を一にして、21世紀には、いまや地球語(=ニュートラルな言語)となりつつある「英語」が、グローバルコミュニケーション言語として、これまでにない重要な役割を担っていくと思われる。21世紀・地球時代の最大の課題は「異文化理解」と「自国文化の発信」であるが、異文化を理解しようとするとき、英語を通してだけでは表層的理解に止まってしまう恐れがある。深層の理解を得るためには、言語と文化はコインの表裏のように不可分の関係にあるが故に、そのための言語スキルを身につける必要がある。それ故、地球語としての「英語」プラスアルファの外国語実用能力の養成は不可欠となる。この観点から、文法・訳読中心の19世紀受信型の外国語教育を廃し、学会・研究会活動を通じてコミュニケイティブな発信型に転換していくよう教育方法の改善を進めることに努力している。

【研究活動について】

21世紀・地球時代(グローバリゼーション時代)における社会環境の変化と新しい社会的ニーズ(多様性・国際性・実用性)に対応して、今こそ“真の国際化”が求められているという認識のもとに、これまでのような受信型の国際化ではなく、グローバルな視点で「日本とは何か、日本文化とは何か」という問いに積極的に答えていくことのできる“発信型の国際化”を実践できる人材を養成するという観点から、目下の緊要の課題である「国際コミュニケーション能力」を有する人材の養成を主眼に(とくに外国語文化学科の学生を対象として)、広く学会・研究会活動を通じて、「異文化理解」と「自国文化の発信」のための様々な研究活動を行っている。

【職・氏名】教 授 野 呂 健 (NORO Ken)
 【学 位】文学修士
 【生 年】昭和25(1950)年
 【本学就任】平成3(1991)年4月1日
 【略 歴】上智大学外国語学部英語学科卒業
 ブラウン大学人類学科客員研究員
 防衛医科大学校助教授
 【専門分野】英語学、言語学、語用論

【最近5年間の主な研究業績等】 [平成18～22年度] (10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	「英語シンタクスにおける交替現象再考」	『Walpurgis 2010』(國學院大學外国語研究室・外国語文化学科紀要) 國學院大學外国語研究室・外国語文化学科	pp.1-16	平23. 3
論文	単	We, the Multi-code Users	『Walpurgis 2009』(國學院大學外国語研究室・外国語文化学科紀要) 國學院大學外国語研究室・外国語文化学科	全125p中 pp.57-77	平21. 3
論文	単	「転移修飾 (Transferred Epithet) とその周辺」	『Walpurgis 2008』(國學院大學外国語研究室・外国語文化学科紀要) 國學院大學外国語研究室・外国語文化学科	全144p中 pp.1-21	平20. 3
論文	単	Indirect Speech Acts as Metonymy	『Walpurgis 2007』(國學院大學外国語研究室・外国語文化学科紀要) 國學院大學外国語研究室・外国語文化学科	pp.59-75	平19. 2

【平成17年度以前の主な研究業績等】 (5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	「メタファー能力(Metaphoric Competence)について」	『Walpurgis 2006』(國學院大學外国語研究室・外国語文化学科紀要) 國學院大學外国語研究室・外国語文化学科	pp.19-40	平18. 3
論文	単	「欧州における英語の拡大」	『國學院大學紀要』 第42巻 國學院大學	全377p中 pp.97-119	平16. 2
論文	単	日英比較マルティリンガリズムに向けて	『國學院雑誌』 第103巻第7号 國學院大學	全73p中 pp.1-13	平14. 7
論文	単	「矛盾を超えて: 撞着語法 (oxymoron) の研究」	『Walpurgis 2001』(國學院大學外国語研究室・外国語文化学科紀要) 國學院大學外国語研究室・外国語文化学科	pp.1-21	平13. 3
論文	単	‘Clashes’	Studies in English Linguistics 大修館	全1285p中 pp.768-780	平9. 7

【所属学会】日本語用論学会

【最近の社会的活動等】大学基準協会評価委員(平成19～21年)

【教育活動について】

学力格差が顕著で、勉学に対する基本的態度が未成熟な現代の学生、また、興味・関心は多様でありながら個性に乏しい学生たち、必ずしも地道な訓練を好まない現代の学生たちに、教室という制約のある場所でいかに必須事項を習得するように方向付けるかに腐心している。教師が一方的に教えるのではなく、学生自身が「自ら物事を行う」積極的な姿勢を涵養する工夫を行っている。こまめにペーパーを書かせているのもそのためである。また、語学の演習も学生自身が、読み、書き、話すことを原則としている。留学したのとまったく同じ状況を作り出すために、平成22年度には、英米現代事情において、「教材はすべて英語、授業は英語で行い、レポート・試験すべて英語で提出」という試みを行った。大半の学生は、必死になって食らいついてきて好感が持てた。また別の演習では、学生による発表のあとえ、必ず自らコメントを述べさせて、適切な自己分析が行えるように方向づけを行った。特にコミュニケーションの原理にかかわる授業が多いので、学生の自主性が開発されるように配慮した。学生自らが行動するということを念頭に置いている。

【研究活動について】

これまでは、語用論という現実場面での言語の使い方に関する研究分野で、ミクロとマクロの両方の視点から、研究を続けてきた。ここ数年は、人間の認知活動により則した観点から言語を考察する認知言語学に研究基盤をシフトさせてきている。言語と言語外世界をつなぐものとしての人間の認知・知覚にこそ。言語活動の本質が集約されていると考えているからである。最近では、さらに進んで生態心理学の「アフォーダンス理論」や、脳神経学における発見である「ミラーニューロン」などの視点も加えて、より多角的で重層的なアプローチを取り入れている。具体的な成果が出るにやもう少し時間がかかりそうであるが、学際性を重視したいと考えている。もうひとつの取り組みは、交差文化語用論で、語用論と異文化コミュニケーションを有機的に結合して、普遍性と個性性の両方を網羅する形で体系化したいと考えている。この種の知識・情報こそグローバルな時代において有益になるはずである。この視点が研究と教育をつなげると考えている。

【職・氏名】教 授 福 島 直 之 (FUKUSHIMA Naoyuki)
 【学 位】文学修士
 【生 年】昭和23(1948)年
 【本学就任】昭和63(1988)年4月1日
 【略 歴】東京大学教養学部教養学科卒業
 東京都立大学大学院人文科学研究科英文学専攻修士課程修了
 横浜国立大学教育学部助教授
 【専門分野】英語学、音韻論、言語学

【最近5年間の主な研究業績等】 [平成18～22年度] (10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	「最適性理論とダーウィニズム」	『國學院雑誌』第111巻第11号 國學院大學	pp.306-312	平22. 11
論文	単	「RPの概要」	『Warpurgis 2007』(國學院大學外国語研究室・外国語文化学科紀要) 國學院大學外国語研究室・外国語文化学科	pp.23-42	平19. 3

【平成17年度以前の主な研究業績等】 (5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
翻訳・翻刻書	共	「日本の守り札に見られるメカニズムとプロセス」	H15～17年度 科学研究費補助金 研究成果報告書 「護符の文化的・社会的意味に関する基礎的研究」 國學院大學	全134p中 pp.13-16	平18. 3
論文	単	「イントネーションとピッチ曲線」	『Walpurgis 2003』(國學院大學外国語研究室・外国語文化学科紀要) 國學院大學外国語研究室・外国語文化学科	pp.37-53	平15. 3
論文	単	「Perl言語で音韻理論を検証する」	『音韻研究』 音韻論研究会	pp.195-200	平8. 11
論文	単	「生成文法とプラトンの問題」	『Walpurgis '93』(國學院大學外國語研究室紀要) 國學院大學外国語研究室	pp.1-18	平5. 3
論文	単	Annotations of Kunihiro's Sense Relations in Polysemy	Studies in English Philology and Linguistics in Honour of Dr.Tamotsu Matsunami, 秀文インターナショナル	pp.436-447	昭59. 3

【所属学会】日本音韻論学会、日本音声学会、日本英語学会

【最近の社会的活動等】

【教育活動について】

学生への授業への取り組みを高めるために次の工夫を行った。

- (1)教材の作成。英文の解釈を要するテキストについては、語彙集、質問集を作成した。また、学生の独習作業の効率を高めるため全訳原稿を作成した。
- (2)演習の授業では学生の担当する課題については相当の時間をかけて行う作業を課した。その結果熱心に取り組む姿勢が見て取れた。
- (3)K-SMAPYを十分に利用して、学生との連絡を密にとれるようにし、かつ必要な資料が簡単に手に入るように工夫した。通年の演習科目では前期と後期の履修により段階的に学習が進むように教材の選び方に配慮をした。

【研究活動について】

(1)音韻論では現在広く採用されている「最適性理論」についてその理論的背景について考察した。音韻論の固有の方法であるという認識から始まったが、研究を進めていくとその方法論が様々な領域で採用されていることが判明。さらにその思想的背景にダーウィニズムがあることもつきとめることができた。

(2)史的資料の翻訳。19世紀にイギリス人が書いた手紙を翻訳した。原文が手書きの原稿であったため、テキストの確定に難航した。しかし、最終的には文字から復元するより、コンテキスト内の連語的知識、意味の流れなどを利用して原文を復元するのがよいという知識に至り、完全な復元ができた。また、内容的には、多言語・文化的要素が混入していたため多くの人の協力を得た。

【職・氏名】教 授 村 山 雅 人 (MURAYAMA Masato)
 【学 位】文学博士(Ph.D.)(昭和54年12月 ウィーン大学大学院)
 【生 年】昭和21(1946)年
 【本学就任】昭和61(1986)年4月1日
 【略 歴】上智大学文学部ドイツ文学科卒業
 ウィーン大学大学院ドイツ文学専攻博士課程修了
 山梨医科大学助教授
 【専門分野】オーストリア文学、ウィーン文化史、ウィーンのユダヤ人問題

【最近5年間の主な研究業績等】 [平成18～22年度] (10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	「マルティン・ブーバーと文化的シオニズム」	『Walpurgis2011』(國學院大學外国語研究室・外国語文化学科紀要) 國學院大學外国語研究室・外国語文化学科	pp.57-71	平23. 3
論文	単	「政治的シオニズムの発生と展開——モーゼス・ヘス、レオン・ピンズカー、ナタン・ビルンバウム、テオドール・ヘルツル」	『Walpurgis 2010』(國學院大學外国語研究室・外国語文化学科紀要) 國學院大學外国語研究室・外国語文化学科	pp.1-19	平22. 3
論文	単	「テオドール・ヘルツル『ユダヤ人国家』成立の過程」	『Walpurgis 2008』(國學院大學外国語研究室・外国語文化学科紀要) 國學院大學外国語研究室・外国語文化学科	pp.39-60	平20. 3
論文	単	「長編『自由への道』—アルトゥール・シュニッツラーとユダヤ人問題—」	『國學院大學紀要』 第46巻 國學院大學	pp.235-261	平20. 2
論文	単	「テオドール・ヘルツルの戯曲『新しいゲットー』—同化思想の破綻の記録」	『Walpurgis 2007』(國學院大學外国語研究室・外国語文化学科紀要) 國學院大學外国語研究室・外国語文化学科	pp.1-19	平19. 3

【平成17年度以前の主な研究業績等】 (5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	「テオドール・ヘルツルとドレフュス裁判—シオニスト転向への一つの転換点」	『Walpurgis 2006』(國學院大學外国語研究室・外国語文化学科紀要) 國學院大學外国語研究室・外国語文化学科	pp.1-19	平18. 3
論文	単	「カール・クラウスとユダヤ人問題」	『Walpurgis 2005』(國學院大學外国語研究室・外国語文化学科紀要) 國學院大學外国語研究室・外国語文化学科	pp.37-52	平17. 3
翻訳・翻刻書	単	『ドラゴン—反社会の怪物』	青土社	全341p	平8. 12
著書	単	『反ユダヤ主義』	講談社	全262p	平7. 8
論文	単	『「ユダヤ人のいない町」—フーゴー・ベッタウアーの政治的反ユダヤ主義に対する挑戦』	『Walpurgis '92』(國學院大學外国語研究室紀要) 國學院大學外国語研究室紀要	pp.17-32	平4. 3

【所属学会】日本独文学会、日本オーストリア文学会、オーストリア独文学会、ウィーン・グリルパルツァー協会

【最近の社会的活動等】

東京新聞「世界の文学」コラムニスト(平成9～10年)、
 「世紀末ウィーン」(7回連続)JALシニアアカデミー(於NHK文化センター青山教室、平成17年9月～11月)、
 「ドイツ・オーストリアの歴史遺産(ウィーン歴史地区)」朝日カルチャーセンター立川(平成17年11月)

【教育活動について】

毎学期末に大学全体で実施されている学生による授業評価アンケート結果を参考にして授業の改善に努力している。担当授業の中で大きな比重を占めるドイツ語の授業では、履修学生の学習意欲を高め、また、学習したことの定着を図るために、各学期複数回の試験を実施して成績を評価している。

【研究活動について】

1870年代以降のウィーン社会や文化に及ぼしたユダヤ系オーストリア人の影響力は非常に大きかった。このことに起因して、ウィーンで激しいユダヤ人排斥運動が起こった。19世紀末から20世紀初頭にかけてのウィーンにおけるユダヤ人問題が、10数年前から研究テーマの中心を成している。すでに『反ユダヤ主義』の標題で著書を上梓しており、現在、ウィーンの作家テオドール・ヘルツルによって実質的に始められた「政治的シオニズム運動」や反政治的シオニズムを標榜する文化的シオニズムの研究、および、シュニッツラーやクラウス等のウィーンのユダヤ系作家が作品の中でどのようにユダヤ人問題を扱っているかの研究に取り組んでいる。

【職・氏名】教 授 Robert T. Rolf
 【学 位】文学博士(Ph.D.) (昭和50年5月 ハワイ大学)
 【生 年】昭和18(1943)年
 【本学就任】平成8(1996)年4月1日
 【略 歴】ハワイ大学文学部東アジア文学科博士号取得
 デューク大学(ノース・カロライナ州) 助教授
 駒澤大学文学部教授
 【専門分野】比較文学・文化

【最近5年間の主な研究業績等】 [平成18～22年度] (10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
著書	単	『カントリー音楽のアメリカ:家族、階層、国、社会』	南雲堂フェニックス	全278p	平20. 7

【平成17年度以前の主な研究業績等】 (5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文	単	A Japanese Glengarry Glen Ross	David Mamet's Glengarry Glen Ross: Text and Performance, Garland Pub. (New York)	pp.227-243	平8. 10
論文	単	The Short Stories of Hisaye Yamamoto, Japanese American Writer	Seventeen Syllables (Women Writers: Texts and Contexts), Rutgers Univ. Press	pp.89-108	平6. 3
著書	共	“Alternative Japanese Drama”: Ten Plays.	University of Hawaii Press	全364p	平4. 9
論文	単	Japanese Theatre from the 1980s: The Ludic Conspiracy	Modern Drama, Vol.35 No.1 トロント大学	pp.127-136	平4. 3
論文	単	Out of the Sixties, Shimizu Kunio and Betsuyaku Minoru.	Journal of the Yokohama National University, Sec. II, No.35 横浜国立大学	pp.77-114	昭63. 10

【所属学会】 Association for Asian Studies, Modern Language Association, The Association of Literary Scholars and Critics

【最近の社会的活動等】 講演:『家族とカントリー音楽』(日光市国際交流協会主催 平成22年2月6日(土) 日光市中央公民館にて)

【教育活動について】

「ことば」を教える場合:一つの授業に常に、大きく分けて次の3つのレベルの学生が混交している。1)かなり流暢に英語を使えるやる気のあるグループ、2)英語をほとんど使えないグループ、3)その中間に位置する学生たち、である。それぞれのレベルを公平に教育上効果的に結びつける必要があるが、どのグループのレベルで教えるか決めるのは容易ではない。充実した内容の教科書に沿って、授業を進めていく。

「文化」を教える場合:学生は授業開始時に、これから学んでいく国の文化や国民について既に様々な知識があると思い込んでいるが、その「知識」の多くは自分の実体験に基づくものではなく、又偏ったものである事も稀ではない。それを直すのは容易ではないが、広く、書籍・映画・インターネットなどから資料を求め、学生に他文化に直接触れさせ、刺激を与えていきたい。他文化に対する正確な知識からこそ尊重が生じる。

【研究活動について】

簡単に言えば、学生時代から1980年頃まで、主に小説を研究して来た。学部、大学院時代、又教師としても日本文学・アメリカ文学に関心を持ち続けてきた。1980年代から1990年代後半に入り、演劇の研究を行った。その結果、日本現代演劇(特に小劇場運動)や日本とアメリカ演劇の比較研究に関する論文を多く著した。又、日本の戯曲(別役実、太田省吾等)を数多く英訳し出版した。アメリカ映画の一ジャンルであるフィルム・ノワールに関する論文も著した。2002年に、アメリカ人の社会観とカントリー音楽の関係について論文を書いたが、同テーマで更に枠を広げた執筆に向け、2004年度の海外派遣を活用し、テネシー、ケンタッキー、テキサスなどで広く資料収集をする事が出来た。2004年11月から執筆を始め、その日本語訳、『カントリー音楽のアメリカ:家族、階層、国、社会』が2008年7月に、東京の南雲堂フェニックスより出版された。

文 学 部

【史学科】

上 山 和 雄 教 授		49
大久保 桂 子 教 授		50
金 子 修 一 教 授		51
佐 藤 長 門 教 授		52
柴 田 紳 一 准 教 授		53
鈴 木 靖 民 教 授		54
谷 口 康 浩 准 教 授		55
千々和 到 教 授		56
根 岸 茂 夫 教 授		57
林 和 生 教 授		58
樋 口 秀 実 准 教 授		59
古 山 正 人 教 授		60
柳 田 康 雄 教 授		61
矢 部 健太郎 准 教 授		62
吉 岡 孝 准 教 授		63
吉 田 恵 二 教 授		64
吉 田 敏 弘 教 授		65

【職・氏名】教 授 上 山 和 雄 (UEYAMA Kazuo)
 【学 位】博士(文学)(平成17年10月 東京大学 乙第16357号)
 【生 年】昭和21(1946)年
 【本学就任】昭和59(1984)年4月1日
 【略 歴】信州大学文理学部人文科学科卒業
 東京大学大学院人文科学研究科国史学専攻博士課程単位取得満期退学
 城西大学経済学部助教授
 【専門分野】日本近代史

【最近5年間の主な研究業績等】 [平成18～22年度] (10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	「渋谷の魅力、その歴史的成り立ち」	『國學院雑誌』第111巻第3号 國學院大学	pp.1-15	平22. 3
論文	単	「下伊那の営業製糸喬木館の経営」	『横浜開港資料館紀要』第28号 横浜開港資料館	pp.24-78	平22. 3
論文	単	「東京オリンピックと渋谷、東京」	老川慶喜編『東京オリンピックの社会経済史』日本経済評論社	pp.39-74	平21. 11
論文	単	「野田町の石工・杉崎弥八―その3―」	『野田市史研究』第20号	pp.91-130	平21. 3
学会発表等	共	パネル報告「在米日系企業接収文書の研究」	経営史学会大会		平20. 10
評論・書評等	単	「回顧と展望―近現代―総論」	『史学雑誌』第117巻-第5号 史学会	pp.148-150	平20. 5
論文	単	「野田町の石工・杉崎弥八―その2―」	『野田市史研究』第19号 野田市史編さん委員会	全30p	平20. 3
評論・書評等	単	書評:「宇田正著『鉄道日本文化史考』」	『鉄道史学』25号 鉄道史学会	pp.97-100	平20. 3
編著	共	『いとなむはたらく 飯田のあゆみ』	飯田市歴史研究所	全262p	平19. 12
解説・解題等	共	『みるよむまなぶ 飯田・下伊那の歴史』	飯田市歴史研究所	pp.64-69	平19. 11
【平成17年度以前の主な研究業績等】 (5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
著書	単	『北米における総合商社の活動―1896～1941年の三井物産―』	日本経済評論社	全564p	平17. 5
編著	単	『占領下の横須賀―連合軍の上陸とその時代―』	横須賀市	全102p	平17. 3
編著	共	『ニュースは語る二〇世紀の藤沢 1901～1955年』	藤沢市史編さん委員会、藤沢市文書館	全301p	平17. 3
編著	共	『帝都と軍隊―地域と民衆の視点から―』	日本経済評論社	全376p	平14. 1
論文	単	「蚕糸業の発達と地方鉄道」	『地方産業と社会基盤』ミネルヴァ書房	pp.197-224	平9. 12

【所属学会】史学会、社会経済史学会、土地制度史学会、国史学会、鉄道史学会、首都圏形成史研究会

【最近の社会的活動等】

野田市史編集委員(平成3年～現在)、藤沢市文書館運営委員・藤沢市史編さん委員長(平成7～16年)、横須賀市史編さん委員(平成13年～現在)、横浜市文化財保護審議委員(平成14年～現在)、飯田市歴史研究所顧問研究員(平成15年～現在)、教科用図書検定調査審議会臨時委員(平成18年～現在)、横浜市開港資料館委託研究会代表・横浜市史編集委員(昭和60～平成15年)

【教育活動について】

1年次から4年次までの演習と大学院の演習、それに教養総合の渋谷学のコーディネーターをしている。1年生は導入教育と活字史料の読み方、2年生前半は日本漢文の読みと書下し、後半は資料を基にした調査と発表、3年生前半はしっかりした論文の理解と内容紹介、そしてそれを基にした卒論テーマの設定を行い、3年後半から4年生にかけて卒論作成に入る。4年生と大学院生は、夏季に合宿する。渋谷学は多くの方にお願ひしており、あまり負担にならないよう継続してゆきたい。

【研究活動について】

科研費を取っていた接収企業資料の研究会は、他機関に受け皿を移管し、現在も継続している。横須賀の仕事から発展し、軍港史研究会を組織し、4軍港・要港部の研究を進めつつある。また地元では手賀の湖と陸の歴史を学ぶ会をつくり、地元の人たちと柏飛行場や牧の研究を楽しんでいる。それ以外に、従来からの蚕糸業、石工、水運の研究も続けている。

【職・氏名】教 授 大 久 保 桂 子 (OKUBO Keiko)
 【学 位】文学修士
 【生 年】昭和30(1955)年
 【本学就任】平成2(1990)年4月1日
 【略 歴】東京女子大学文理学部史学科卒業
 東京女子大学大学院文学研究科修士課程修了
 慶應義塾大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学
 千葉大学教養部助教授
 【専門分野】イギリス近代史

【最近5年間の主な研究業績等】〔平成18～22年度〕（10点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
著書	共	『ヨーロッパ近世の開花』	中公文庫	全601p中 pp.11-19, 71-109, 151-244, 340-385, 581-586	平21. 1

【平成17年度以前の主な研究業績等】（5点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文	単	「奨学金制度の課題－私立大学の視点から」	『大学と学生』 第7号(通巻481号) 日本学生支援機構	全62p中 pp.6-14	平16. 10
翻訳・ 翻刻書	単	ジョン・ブリュア『財政=軍事国家の衝撃－戦争・カネ・イギリス国家 1688-1783』	名古屋大学出版会	全271p+43p	平15. 7
論文	単	「戦争と女性・女性と軍隊」	『岩波講座 世界歴史25』 岩波書店	全21p	平9. 12
論文	単	「ヨーロッパ「軍事革命」論の射程」	『思想』 岩波書店	全25p	平9. 10
著書	共	『ヨーロッパ近世の開花』(中公『世界の歴史』17)	中央公論社	全510p中 pp.9-16, 62-95, 131-212, 296-336	平9. 3

【所属学会】西洋史学会、日本18世紀学会

【最近の社会的活動等】

NHK教育テレビ「高校世界史」講師(平成12年度～現在)、日本学生支援機構奨学事業運営協議会委員(平成20年度～現在)、東都大学野球連盟理事(平成17年～現在)

【教育活動について】

学部教育では、学生の基礎学力の向上と、将来のキャリアへの展望を見据えた授業展開を心掛けている。特に英語力と日本語の表現力向上のために、個別指導に時間を割いている。
 大学院教育では、研究史把握の必要性を認識させる授業目標を立てている。学生の課外活動支援の一環として、硬式野球部長をつとめ、部員の学修支援を実践している。

【研究活動について】

近世ヨーロッパの軍事力編成と国家形成史との関係の解明を中心に、この主題にかかわる諸問題の研究状況の把握をおこなっている。

【職・氏名】教 授 金 子 修 一 (KANEKO Shuuichi)

【学 位】文学修士

【生 年】昭和24(1949)年

【本学就任】平成17(2005)年10月1日

【略 歴】東京大学文学部東洋史学科卒業

東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了

山梨大学教育人間科学部教授

【専門分野】中国古代史

【最近5年間の主な研究業績等】 [平成18～22年度] (10点まで)

種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文	共	「大唐元陵儀注試釈(終章)」	『國學院大學大学院紀要—文学研究科—』第41輯	pp.21-53	平22. 3
編著	共	『世界史史料3 東アジア・内陸アジア・東南アジア 10世紀まで』	岩波書店	全428p	平21. 12
論文	単	「唐代詔敕文中の則天武後の評価について」	『東洋史研究』第68巻第2号	pp.219-249	平21. 9
論文	単	「則天武后と杜嗣先墓誌—栗田真人の遣唐使と関連して—」	『国史学』第197号	pp.1-20	平21. 2
論文	共	「大唐元陵儀注附祭註釈」	『國學院大學紀要』第47巻 國學院大學	pp.79-107	平21. 2
論文	共	「《大唐元陵儀注》概説」	『文史』2008年第4輯(第85輯) 中華書局	pp.153-167	平20. 11
論文	共	「大唐元陵儀注試釈(8)」	『國學院大學大学院紀要—文学研究科—』第39輯 國學院大學大学院	pp.25-41	平20. 3
論文	共	「大唐元陵儀注試釈(7)」	『シンポジウム東アジア世界における 王権の態様—陵墓・王権儀礼の視 点から 報告集』 國學院大學文学部古代王権研究会	全130p中 pp.1-19	平19. 3
論文	単	『「宋書」夷蛮伝に関する覚書』	『國學院雑誌』第108巻第3号 國學院大學	pp.1-15	平19. 3
著書	単	『中国古代皇帝祭祀の研究』	岩波書店	全622p	平18. 4

【平成17年度以前の主な研究業績等】 (5点まで)

種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
著書	単	『隋唐の国際秩序と東アジア』	名著刊行会	全390p	平13. 1
著書	単	『古代中国と皇帝祭祀』	汲古書院	全328p	平13. 1
著書	共	『新版世界各国史3 中国史』	山川出版社	全578p中 pp.111-175	平10. 6
編著	共	『王権のコスモロジー』	弘文堂	全342p	平10. 4
著書	共	『世界歴史大系 中国史2—三国～唐—』	山川出版社	全662p中 pp.364-413, pp.486-515	平8. 7

【所属学会】史学会、歴史学研究会、東洋史研究会、高知海南史学会、中国社会文化学会、唐代史研究会、中国史学会、
東方学会、唐史研究会(中国)、中国史研究会(韓国)、アジア史学会、日本中国考古学会

【最近の社会的活動等】

「日本と渤海の古代史」朝日カルチャーセンター・東京 講師(平成16年)、
「魏志倭人伝の世界」新視点・日本の歴史(9)―7世紀後編―朝日カルチャーセンター・横浜 講師(平成16年)、
社団法人金鶏会日本歴史講座「いま明かされる古代ⅩⅠ」(平成16年)「いま明かされる古代ⅩⅢ」(平成17年)講師、
「ヤマタイ国とヒミコ」中日文化センター(名古屋・栄)講師(平成19年)

【教育活動について】

ここ数年、歴史に関心を持つ高校生以上を対象とした史料集の編集に従事し、前近代のアジアを対象とする歴史学研究会編『世界史史料3』(2009年)、『同4』(2010年)を上梓した。特に、古典漢文を多く史料とする第3巻では、判り易い漢文の表現を工夫した。入門や概説的な授業では教科書を学生諸君に読ませ、古典的な漢語の理解力や中国史に対する基礎知識を確認した上で、説明を展開するよう心がけている。中国古代史では、卒論に向けて過去の論文(研究史)を理解する上でも、漢文の読解力の向上は必須である。したがって演習では、文章表現に定評があり扱う歴史事象も豊富な『資治通鑑』をテキストとし、註釈も含めて読むことで考証学的方法も会得できるよう心がけている。また、原文に関連した論文もできるだけ紹介するように努め、学生が一見難解な史料から歴史の面白さを感じ取れるように心がけている。

【研究活動について】

十年来、研究会で活動してきた唐の代宗の喪葬儀礼の記録である「大唐元陵儀注」の読解及び、日本一渤海の国書の読解の研究がひとまず終了したので、いずれもこれまでの参加者の報告を書物に纏めて公にできるよう、諸氏と準備中である。ことに前者については、唐や明など中国の主要な王朝の皇帝陵をできるだけ実際に見て回り、そうした見聞も授業や論文などに反映できるように努力している。また、1年に1回は中国を訪れるように努め、若い研究者との交流の機会を増やすよう心がけている。

【職・氏名】教 授 佐 藤 長 門 (SATO Nagato)
 【学 位】博士(歴史学)(平成20年7月 國學院大學 文乙第237号)
 【生 年】昭和34(1959)年
 【本学就任】平成10(1998)年4月1日
 【略 歴】國學院大學文学部史学科卒業
 國學院大學大学院文学研究科日本史学専攻博士課程後期単位取得満期退学
 駒場学園高等学校教諭
 【専門分野】日本古代史、古代王権・国家の権力構造論

【最近5年間の主な研究業績等】〔平成18～22年度〕（10点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文	単	「円珍の入唐動機に関する学説史的検討」	『椋山林継先生古希記念論集 日本基層文化論叢』 雄山閣	全647p中 pp.357-372	平22. 8
論文	単	「日本古代讓位論一九世紀の事例を中心として」	『国史学』200 国史学会	全287p中 pp.5-51	平22. 4
論文	単	「用明・崇峻期の政変と蘇我氏―飛鳥寺建立前夜の倭王権―」	『古代東アジアの仏教と王権― 王興寺から飛鳥寺へ―』 勉誠出版	全398p中 pp.371-393	平22. 3
調査・研究報告等	単	「円仁の足跡を訪ねて(IV)―江蘇省―」	『栃木史学』23 國學院大學栃木短期大学史学会	全204p中 pp.84-115	平21. 3
著書	単	『日本古代王権の構造と展開』	吉川弘文館	全383p	平21. 2
論文	単	「円仁と遣唐使・留学生」	『円仁とその時代』 高志書院	全300p中 pp.191-215	平21. 2
論文	単	「古墳時代の大王と地域首長の服属関係」	『國學院雑誌』第109巻第11号 國學院大學	pp.54-68	平20. 11
評論・書評等	単	荒木敏夫著『日本古代王権の研究』	『歴史学研究』836 歴史学研究会	全64p中 pp.40-43	平20. 1

【平成17年度以前の主な研究業績等】（5点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文	単	『日本霊異記』における天皇像」	『歴史評論』668 校倉書房	pp.66-73	平17. 12
論文	単	「有銘刀剣の下賜・顕彰」	『文字と古代日本1 文配と文字』 吉川弘文館	pp.25-42	平16. 12
論文	単	「加耶地域の権力構造」	『東アジアの古代文化』90 大和書房	pp.64-73	平9. 2
論文	単	「阿倍氏と王権儀礼」	『日本歴史』540 日本歴史学会	pp.22-38	平5. 5
論文	単	「太元帥法の請来とその展開」	『史学研究集録』16 國學院大學大学院史学専攻大学院会	pp.1-14	平3. 3

【所属学会】歴史学研究会、木簡学会、歴史科学協議会、日本史研究会、大阪歴史学会、続日本紀研究会、史学会、國學院大學国史学会

【最近の社会的活動等】

北海道新聞・ぶんぶん講座講師(平成20・22年)、中日新聞・栄中日文化センター講師(平成21年～現在)
朝日カルチャー横浜講師(平成21・22年)

【教育活動について】

8世紀から10世紀までの古代天皇制の変遷を考える講義科目(日本時代史Ⅰ・Ⅱ)では、毎回レジュメを配布するとともに、その内容をパワーポイントで映し出し、学生の理解が進むよう可視的な授業運営に努めている。また授業終了10分前にコメントペーパーを配布し、その日の授業で学んだことや疑問に思ったことを記入してもらい、それを提出させている。これは学生の出席を確認するとともに、学生の授業理解がどの程度なのか、学生の関心がどこに集中しているのか等々を把握するためのものである。また前期・後期とも、数冊の課題図書を指定し、その内容を論評するレポートを学生に課している。各自のレポートには必ず目を通し、数行のコメントを付して返却している。かかる行為は、教員にとってもかなりの負担であるが、毎回「課題図書を読んだおかげで、授業の理解度が進んだ」という感想を聞くと、できるだけ続けたいと考えている。演習科目では、発表をおこなう学生に対して、必ず事前にレジュメを持ってこさせ、その内容を点検するとともに、質問に答える態勢をとっている。さらに少人数授業の利点を活かして、年に数回、学生を引率して外部の博物館や資料館などに出かけ、本物の史資料に触れる機会を作っている。

【研究活動について】

日本古代王権・国家の権力構造解明に、引き続き取り組んでいる。2009年にそれまでの研究をまとめて『日本古代王権の構造と展開』を上梓したが、いまだに解明すべき課題は数多く残っている。近年では王権論の立場からみた古代氏族の動向や、古代讓位制の変遷等に関する論考を発表しており、今後も史料に即した王権論の構築を続けていくつもりである。また円仁や円珍など、入唐した渡来僧の研究も、サブテーマとして持ち続けていきたい。

【職・氏名】准 教 授 柴 田 紳 一 (SHIBATA Shin'ichi)
 【学 位】文学士
 【生 年】昭和33(1958)年
 【本学就任】平成8(1996)年4月1日
 【略 歴】國學院大學文学部史学科 卒業
 國學院大學日本文化研究所助教授
 【専門分野】日本近代史
 【受賞歴等】＜(財)吉田茂記念事業財団＞吉田茂賞(昭63. 3)

【最近5年間の主な研究業績等】 [平成18～22年度] (10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
著書	共	『歴史としての吉田時代』	中央公論新社	全182p中 pp.39-51	平21. 9
著書	単	『日本近代史研究余録 —人物・史料・書物・読書—』	渡辺出版	全302p	平21. 9
論文	単	「重臣岡田啓介の対米終戦工作」	『政治経済史学』 第500号 政治経済史学会	全350p中 pp.303-315	平20. 4
論文	単	「陸相阿南惟幾の登場」	『國學院大學日本文化研究所紀要』 第99輯 國學院大學日本文化研究所	全444p中 pp.1-14	平19. 3
論文	単	「東条英機首相兼陸相の参謀総長兼任」	『國學院大學日本文化研究所紀要』 第98輯 國學院大學日本文化研究所	全340p中 pp.39-52	平18. 9

【平成17年度以前の主な研究業績等】 (5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
著書	共	『開戦と終戦』	情報文化研究所	全248p	平10. 10
著書	単	『昭和期の皇室と政治外交』	原書房	全290p	平7. 8
著書	共	藤波家文書研究会編『大中臣祭主藤波家の歴史』	続群書類従完成会	全374p	平5. 3
著書	共	梧陰文庫研究会編『明治国家形成と井上毅』	木鐸社	全752p	平4. 6
著書	共	吉田茂記念事業財団編『人間 吉田茂』	中央公論社	全694p	平3. 8

【所属学会】日本歴史学会、日本国際政治学会、軍事史学会、国史学会、政治経済史学会

【最近の社会的活動等】

【教育活動について】

教科書は使用せず、参考書については授業の内容に即して毎回適宜、紹介・推奨している。授業の資料としては、史料のコピーを配布し、歴史の当事者の意図を通して歴史を内在的に理解できるよう考慮している。更に学生の自己表現力・思考力の向上を主眼とし、特に文章力(読み・書き)の充実を目指している。

【研究活動について】

授業方法とも関連するが、「史料をして語らしめること」を基本と考えている。通説化・定説化された事象につき、新たな史実を発見し提示することに努め、代表的な歴史辞典の誤りをも指摘した。

【職・氏名】教 授 鈴 木 靖 民 (SUZUKI Yasutami)
 【学 位】文学博士(昭和62年7月 國學院大學 文乙第83号)
 【生 年】昭和16(1941)年
 【本学就任】昭和48(1973)年4月1日
 【略 歴】國學院大學文学部史学科卒業
 國學院大學大学院文学研究科日本史学専攻博士課程単位取得満期退学
 【専門分野】日本古代史、東北アジア古代史
 【受賞歴等】佐藤謙三賞(昭和61年、國學院大學)

【最近5年間の主な研究業績等】〔平成18～22年度〕（10点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文	単	「日本の首長制社会と国家的産生」	『世界歴史』2010年3期 中国社会科学院世界史研究所	pp.12-18	平22. 6
編著	単	『古代東アジアの仏教と王権』	勉誠出版	全398p	平22. 3
その他	共	監修:『図解 古事記・日本書紀』	永岡書店	全239p	平21. 11
論文	単	「7世紀の百済と倭国の交流」	『百済佐官貸食記の世界』 韓国・扶余博物館	pp.7-77	平21. 5
論文	単	「遣隋使と礼制・仏教」	『国立歴史民俗博物館研究報告』 152号	pp.315-327	平21. 3
編著	共	『円仁とその時代』	古志書院	全300p	平21. 2
論文	単	「日本律令の成立と新羅」	『日唐律令比較研究の新段階』 山川出版	全277p中 pp.240-256	平20. 11
論文	単	「城久遺跡群と古代南島社会」	『古代中世の境界領域』 古志書院	全308p中 pp.17-48	平20. 3
編著	単	『古代日本の異文化交流』	勉誠出版	全660p	平20. 2
【平成17年度以前の主な研究業績等】（5点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文	単	「中国西安的日本遣唐使墓誌と墓主井真成」	『周秦漢唐文化研究』4 三秦出版社(中国西安)	全354p中 pp.294-311	平18. 3
論文	単	「東北アジア史のなかの渤海の国家と交流」	『古代日本と渤海』 大巧社	全360p中 pp.45-66	平17. 7
論文	単	「遣唐留学生井真成とその出自」	『遣唐使の見た中国と日本』 朝日新聞社	全355p中 pp.60-79	平17. 7
論文	単	「平安後期北奥の祭祀・交易・経営拠点と交流」	『東アジアの古代文化』121 大和書房	pp.15-33	平16. 11
著書	単	『古代対外関係史の研究』	吉川弘文館	全665p	昭60. 12

【所属学会】歴史学研究会、日本史研究会、朝鮮史研究会、朝鮮学会、唐代史研究会、国史学会、日本歴史学会、
 木簡学会、神奈川地域史研究会、古代交通研究会

【最近の社会的活動等】

厚木市史編集委員(平成18年～現在)
 日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員、国際事業委員会書面審査員(平成18年8月～平成21年7月)

【教育活動について】

史学科必須科目の「史学基礎演習」を担当し、新入生が歴史学を学ぶ第一歩について、歴史研究の基礎となる史料(資料)の読解、平易な専門論文の読み方、レポートの書き方の習得ができるよう努めている。「史学展開演習」「史学応用演習」を担当し、卒業制作とも称すべき卒業論文の完成を目標に、専門論文、史料、歴史認識等の向上、啓発を目標にして進めている。

【研究活動について】

これ迄の神奈川地域史研究会代表委員のほか、新たに平成22年より国史学会会長、古代交通研究会会長となり、自らの研究だけでなく、学会の責任者として研究の推進、方向付けを考え、実施に努めている。

【職・氏名】准 教 授 谷 口 康 浩 (TANIGUCHI Yasuhiro)
 【学 位】博士(歴史学)(平成17年7月 國學院大學 文乙第211号)
 【生 年】昭和35(1960)年
 【本学就任】平成19(2007)年4月1日
 【略 歴】國學院大學大学院文学研究科日本史学専攻博士課程後期中退
 國學院大學文学部助手(専任)
 國學院大學文学部兼任講師
 【専門分野】日本先史考古学
 【受賞歴等】第6回尖石縄文文化賞受賞(平成17年)

【最近5年間の主な研究業績等】 [平成18～22年度] (10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	「縄文時代の竪穴家屋にみる空間分節とシンボリズム」	『國學院大學伝統文化リサーチセンター研究紀要』2号 國學院大學研究開発推進機構伝統文化リサーチセンター	全11p	平22. 3
論文	単	「縄文時代概念の基本的問題」	『縄文時代の考古学1 縄文文化の輪郭』 同成社	全29p	平22. 6
学会発表等	単	The Social and Cultural Contexts for the Development of Spirituality and Rituals in the Jomon Period	The Archaeology of Jomon Ritual and Religion The Society of Antiquaries of London		平21. 11
論文	単	Beginning of Pottery Technology in Japan: The Dating and Function of Incipient Jomon Pottery	The Emergence of Pottery in West Asia: The Search for the Origin of Pyrotechnology Department of Archaeology, University of Tsukuba	全6p	平21. 11
論文	単	「縄文時代の生活空間―「集落論」から「景観の考古学」へ―」	『縄文時代の考古学8 生活空間』 同成社	全22p	平21. 3
論文	単	「縄文時代の環状集落と集団関係」	『考古学研究』第55巻第3号 考古学研究会	全16p	平20. 12
論文	単	「縄文時代の祖先祭祀と社会階層化―儀礼祭祀と特殊生産の関係―」	『國學院雑誌』第109巻第11号 國學院大學	全14p	平20. 11
論文	共	「土器型式情報の伝達と変容―属性分析からみた加曽利E式土器の多様性―」	『縄文時代の考古学7 土器を読み取る―縄文土器の情報―』 同成社	全20p	平20. 8
論文	単	「階層化原理としての『出自』」	『國學院大學考古学資料館紀要』第23輯 國學院大學考古学資料館	全24p	平19. 3
論文	単	「財としての神子柴型石斧」	『長野県考古学会誌』118号 長野県考古学会	全28p	平18. 11

【平成17年度以前の主な研究業績等】 (5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	Dating and Function of the Oldest Pottery in Japan	Current Research in the Pleistocene, vol.23	pp.33-35	平18
著書	単	『環状集落と縄文社会構造』(博士論文)	学生社	全303p	平17. 3
論文	共	Understanding the Beginnings of Pottery Technology in Japan and Neighboring East Asia.	The Review of Archaeology, 24(2)	pp.3-14	平15. 12
論文	単	「縄文時代中期における拠点集落の分布と領域モデル」	『考古学研究』49巻4号 考古学研究会	pp.39-58	平15. 3
論文	共	「長者久保・神子柴文化期における土器出現の14C年代・校正暦年代」	『第四紀研究』40巻6号 日本第四紀学会	pp.485-498	平13. 12

【所属学会】日本考古学協会、考古学研究会、日本第四紀学会

【最近の社会的活動等】日本学術振興会特別研究員審査会専門委員・国際事業委員会書面審査員(平成22年～現在)

【教育活動について】

考古学概論などの講義科目では、パワーポイントを使用して写真・実測図などの画像資料をできるだけ示し、教材はK-SMAPYを利用して毎回PDFファイルを受講生に配布している。ゼミおよび卒論指導では、正規の授業以外に、夏季休暇を利用したゼミ合宿を行って遺跡や博物館を見学する機会を設けている。また、自主参加のサブゼミを開いて、学年を超えた自由な議論の場を設けている。

【研究活動について】

科学研究費補助金による基盤研究(B)「新潟県卯ノ木泥炭層遺跡の発掘調査による縄文文化形成期の古環境と生業の研究」に研究代表として取り組んでいるほか、学術資料館の研究プロジェクト「縄文時代の大形石棒」、伝統文化リサーチセンターの研究プロジェクト「祭祀遺跡にみるモノと心」の一環として、シンポジウムや英国・ロンドンでのワークショップなどを主催している。

【職・氏名】教 授 千々和 到 (CHIJIWA Itaru)
 【学 位】文学修士
 【生 年】昭和22(1947)年
 【本学就任】平成5(1993)年4月1日
 【略 歴】東京大学文学部国史学科卒業
 東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了
 東京大学史料編纂所 助手、助教授、教授
 【専門分野】日本中世史

【最近5年間の主な研究業績等】〔平成18～22年度〕（10点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文	単	「上田市の中世における信仰と史料―塩田平の石造物と生島足島神社起請文を中心に―」	『向学の燈花―新上田自由大学歴史学教室開創30周年記念誌―』 新上田自由大学歴史学教室	全239p中 pp.23-60	平22. 11
編著	共	『日本の護符文化』	弘文堂	全350p	平22. 7
論文	単	『『上野国板碑集録』の成立事情』	『近藤義雄先生卒寿記念論集』 群馬県文化事業振興会	全970p中 pp.787-804	平22. 1
論文	共	「蓮田市馬込の真仏報恩板碑」	『高田学報』 96 高田学会	全133p中 pp.1-12	平20. 3
著書	単	『板碑と石塔の祈り』	山川出版社	全104p	平19. 8
論文	共	「護符・起請文の調査と研究」	『神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成 研究報告Ⅱ』 國學院大學21世紀COEプログラム研究センター	全490p中 pp.79-225	平19. 1
論文	単	「日本の金石文研究 現況」	『大東文化研究』 第55号 (韓国)成均館大学校大東文化研究院	全434p中 pp.137-165	平18. 9
論文	単	「中世の誓約の作法―戦国期の東国を中心として―」	二木謙一編『戦国織豊期の社会と儀礼』 吉川弘文館	pp.163-187	平18. 4

【平成17年度以前の主な研究業績等】（5点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文	単	「中世日本の人びとと音」	『歴史学研究』 691 歴史学研究会	pp.51-59	平8. 11
著書	単	『板碑とその時代』	平凡社選書	全285p	昭63. 3
論文	単	「仕草と作法 ―死と往生をめぐる―」	『日本の社会史』8 岩波書店	pp.139-168	昭62. 3
論文	単	「『誓約の場』の再発見」	『日本歴史』 422 日本歴史学会	pp.1-16	昭58. 7
論文	単	「東国における仏教の中世的展開」	『史学雑誌』 第82編2,3号 史学会	pp.1-32, 34-56	昭48. 2

【所属学会】東国文化研究会、歴史学研究会、日本歴史学会、史学会、地方史研究協議会、日本古文書学会、茶の湯文化学会、六浦文化研究所

【最近の社会的活動等】

町田市立博物館資料収集委員会委員(平成8～19年)、東京都大田区文化財保護審議会委員(昭和62～平成15年)、大分県六郷山寺院遺構調査委員会委員(平成4～15年)、山梨県中世石造物調査責任者(平成6～15年)、大学基準協会専門評価分科会主査(平成21～22年)

【教育活動について】

学部・大学院での教育活動としては、日本中世前期を中心に、講義・演習と卒論・修論・博士論文の作成指導をしている。卒論では、330人を超えるこれまでの指導学生の99％が期日を守って提出しており、これは誇っても良いことかと思う。また研究指導の上では、一点の史・資料をていねいに読み込むことから、どれほど豊かな情報が引き出せるか、そうした情報を引き出すことが、どれほど楽しい作業なのかを、伝えたいと考えている。そのために書籍や印刷物だけではなく、原史料に触れ、見るのが重要であり、様々な制約はあるが、学外の博物館等の見学に連れ出す苦心をしている。また、大学に入る前には、辞書類をひいた経験をほとんど持っていない学生が増えた。そこで1年生用の「史学基礎演習」では、図書館で各種の辞書・事典等の道具類に実地にあたる訓練をし、それらを使って予習することができるよう、指導している。だが、それが1コマでは足りないのではないか、「手取り、足取り」の時間をもっと増やす必要があるのではないかと、思うようになった。

【研究活動について】

研究活動としては、中世に生きたひとびとの心性や生活を復原することを目指している。具体的には起請文という誓約の文書や石造物などのあまり注目されてこなかった史・資料を検討することによって、主として文献史料から構想された歴史像を読み直す作業をしているつもりである。その研究の推進のため、2002～2005年には「護符の文化的・社会的意味に関する基礎的研究」、2007～2010年には「日本における護符文化の解明」(ともに科学研究費基盤研究(B))の研究代表者として、研究を組織してきている。

【職・氏名】教 授 根 岸 茂 夫 (NEGISHI Shigeo)
 【学 位】博士(歴史学)(平成12年3月 國學院大學 文乙第155号)
 【生 年】昭和26(1951)年
 【本学就任】昭和63(1988)年4月1日
 【略 歴】國學院大學文学部史学科卒業
 國學院大學大学院文学研究科日本史学専攻博士課程後期単位取得満期退学
 埼玉県学芸員(県史編さん室勤務)
 【専門分野】日本近世史

【最近5年間の主な研究業績等】[平成18～22年度](10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
編著	共	『近世の環境と開発』	思文閣出版	全362p中 pp.3-26	平22. 12
調査・研究報告等	共	『荷田春満 和書真偽考 享保八年 羽倉信名日記』	平成21年度國學院大學文学部共同研究「近世における前期国学の史的研究」成果報告書 國學院大學文学部	全61p	平22. 3
翻訳・翻刻書	共	『名主伊兵衛絵入道中記』	利根川歴史研究会	全411p中 pp.1-4	平22. 1
著書	単	『大名行列を解剖する』	吉川弘文館	全214p	平21. 11
調査・研究報告等	共	『荷田春満門人一覧稿 宝永四年荷田春満日次記 享保十年羽倉信名日記』	平成20年度國學院大學特別推進研究「近世における前期国学の総合的研究」成果報告書 國學院大學文学部	全73p	平21. 3
編著	共	『新編荷田春満全集』第八巻 職原抄	おうふう	全534p中 pp.509-519	平20. 6
論文	単	「寛文三年徳川家綱日光社参の行列と政治的意義」	『国史学』195号 国史学会	全25p	平20. 4
調査・研究報告等	共	『荷田春満年譜稿・寛文十一年羽倉信詮日記』	平成19年度國學院大學特別推進研究「近世における前期国学の総合的研究」成果報告書 國學院大學文学部	全82p	平20. 3
論文	単	「学習院大学図書館蔵「諸大名登城之図」について」	『学習院大学史料館紀要』第14号 学習院大学史料館	全333p中 pp.41-75	平19. 3
論文	単	「江戸幕府の祭祀と東照宮」	『國學院大學21世紀COEプログラム「神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成」研究報告Ⅱ』 國學院大學21世紀COEプログラム研究センター	全489p中 pp.277-300	平19. 1

【平成17年度以前の主な研究業績等】(5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
編著	共	『新編古文書解説字典』	柏書房	全580p	平5. 5
著書	共	『近世社会と知行制』	思文閣出版	全370p中 pp.87-125	平11. 5
著書	単	『近世武家社会の形成と構造』	吉川弘文館	全356p	平12. 2
編著	共	『江戸版本解説大字典』	柏書房	全1141p	平12. 9
著書	共	『金沢城下町 —社寺信仰と都市のにぎわい—』	北国新聞社	全278p	平16. 6

【所属学会】国史学会、日本史研究会、地方史研究協議会、関東近世史研究会

【最近の社会的活動等】

三鷹市文化財専門委員会委員(平成2～19年)、新座市文化財審議委員会委員(平成4年～現在)、
 清瀬市文化財審議委員会委員(平成5年～現在)、埼玉県新出重要文書編集委員(平成7年～現在)、
 東村山市文化財審議委員会委員(平成8年～現在)、学習院大学史料館客員研究員(平成10年～現在)、
 日本歴史学協会国立公文書館・史料保存特別委員会委員(平成12年～現在)、武蔵村山市史編集委員(平成4～17年)、
 東村山市史編集委員(平成4～16年)、埼玉県小川町史編集委員(平成4～17年)、
 埼玉県文化財保護審議会委員(平成14年～現在)、東村山市文化財審議委員会会長(平成18年～現在)、
 三鷹市文化財審議委員会会長(平成19年～21年)、行田市史編集委員(平成18年～現在)、
 埼玉県史料叢書企画編集委員(平成17年～現在)、小金井市史編集委員(平成19年～現在)

【教育活動について】

担当科目の授業内容を毎年改定しながら、最新の研究成果を盛り込むことを心がけている。講義科目にはすべてパワーポイントを使用し、レジュメの用紙を統一して最初からページを統一的に打ち整理しやすいように工夫し、内容を受講生に分かりやすく正確に伝えるように心がけている。またしばしばアンケートをとって、学生の志向を授業に反映させるように工夫している。演習科目では受講生が現物の古文書に接する機会を多く持つよう心がけ、授業以外にも史料の現地調査や史料輪読の研究会を設けて、学生を指導している。

【研究活動について】

近世武家社会の構造を行列の姿から解明しようと研究を行っている。また近世国学の形成期の諸問題を荷田春満を中心に検討しており、大学の若手研究者とともに研究会を続けている。かつ各地の近世史料調査を心がけ常に史料に触れ、新たな近世社会像を形成したいと考えている。

【職・氏名】教 授 林 和 生 (HAYASHI Kazuo)
 【学 位】文学修士
 【生 年】昭和28(1953)年
 【本学就任】平成8(1996)年4月1日
 【略 歴】京都大学文学部史学科人文地理学専攻卒業
 京都大学大学院文学研究科地理学専攻修士課程修了
 福井大学教育学部助教授
 【専門分野】歴史地理学、地域研究(中国)

【最近5年間の主な研究業績等】〔平成18～22年度〕（10点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文 学会発表 等	単	「内陸工業都市綿陽の変貌」	『変わり行く 四川』 ナカニシヤ出版	全208p中 pp.27-50	平22. 2
	単	「中国江南の水郷古鎮」	国史学会12月例会		平19. 12
	単	「中国近世における水陸交通の展開」	『領域と移動 アジアの歴史地理1』 朝倉書店	全341p中 pp.213-229	平19. 6
	共	「県の性格(福井県)」	『中部圏 日本の地誌7』 朝倉書店	全672p中 pp.600-611	平19. 4
	単	「福井(坂井)平野とその周辺」	『中部圏 日本の地誌7』 朝倉書店	全672p中 pp.621-633	平19. 4

【平成17年度以前の主な研究業績等】（5点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文	単	「経済改革下の郷鎮企業の発展方向」	『内陸中国の変貌 改革開放下の河南省鄭州市域』 ナカニシヤ出版	pp.97-153	平15. 11
論文	単	「経済改革下における広西チワン族自治区の墟市」	石原潤編『農村空間の研究 下』 大明堂	pp.177-194	平15. 3
論文	単	「現代中国における郷鎮工業の発展について－上海市郊県を事例として－」	『福井大学教育学部紀要』第Ⅲ部(社会科学) 第46号 福井大学教育学部	pp.45-72	平5. 7
論文	単	『一統路程圖記』と中国近世の商業路について」	『人文地理学の視園』 大明堂	pp.399-410	昭61. 4
論文	単	「中国近世における地方都市の発達－太湖平原烏青鎮の場合－」	『中国近世の都市と文化』 京都大学人文科学研究所	pp.419-454	昭59. 3

【所属学会】日本地理学会、人文地理学会、歴史地理学会、市場史研究会、東洋史研究会、国史学会、日本国際地図学会

【最近の社会的活動等】

【教育活動について】

担当する講義科目ではPOWER POINTやDVDを用いるなど教材の視聴覚化を進めて、教育効果を高める努力を行っている。また市販の教科書を用いずに、視角を通して講義内容を理解できるように図表を数多く添付して授業内容の骨子をまとめたプリントを毎時間配布して学生の理解が深まるように工夫している。成績の評価においては、学生が自ら問題意識を持って取り組めるような課題をレポートとして課して、授業が単なる専門知識の取得に終わらないような工夫もしている。授業時の学生の理解状況や授業評価の結果をもとに、毎年より効果的な授業ができるように努力を続けている。演習科目における学生に対する研究指導では、様々な歴史的景観の復元や現代に残存する伝統的な町並みや村落景観の考察を通して過去の名もなき人々の生き様や考え方を再構成できるように指導している。指導学生には文献による調査研究だけでなく、緻密な現地調査や聞き取り調査を行わせて「現場百回主義」を徹底させるように努力している。そのために休日を利用した日帰りのエクスカージョンや夏季休暇を利用したゼミ合宿を実施して、実際に学生に地表面に残存する過去の痕跡を調査して、そこから過去の地域の歴史を再構成していく研究方法などを指導している。

【研究活動について】

近世の中国を対象とした宋代以降の鎮市・墟市・集市など地方中心集落の発達と商品流通システムの展開に関する歴史地理学研究和、現代中国を対象とした江南地方の小城鎮の発展と伝統的な水郷鎮の歴史景観の保存と活用についての研究を進めている。また、渋谷学研究会に参加し、地形や河流などの自然環境が渋谷の個性ある街並み景観の形成や変貌に果たした役割や渋谷の街路網の特色などについて調査研究を続けている。

【職・氏名】准 教 授 樋 口 秀 実 (HIGUCHI Hidemi)
 【学 位】博士(歴史学)(平成15年1月 國學院大學 文乙第176号)
 【生 年】昭和42(1967)年
 【本学就任】平成16(2004)年4月1日
 【略 歴】國學院大学文学部史学科卒業
 國學院大学大学院文学研究科日本史学専攻博士課程後期単位取得満期退学
 國學院大学兼任講師
 【専門分野】中国近代史、日中関係史

【最近5年間の主な研究業績等】〔平成18～22年度〕（10点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文	単	満洲国皇帝制度の成立と皇帝即位儀礼	『国史学』第200号 国史学会	全288p中 pp.147-196	平22. 4
論文	単	満洲事変勃発後の「宣統帝ヲ頭首トスル支那政権案」について	『史学研究集録』第35号 國學院大学大学院史学専攻 大学院会	全110p中 pp.1-10	平22. 3
論文	単	「袁世凱帝政運動をめぐる日中関係」	『國學院雑誌』第108巻第1号 國學院大學	全15p	平19. 9
編著	共	『戦間期の東アジア国際政治』	中央大学出版部	全613p	平19. 6
編著	共	『国境を越える歴史認識－日中対話の試み－』	東京大学出版会	全381p中 pp.111-136	平18. 5

【平成17年度以前の主な研究業績等】（5点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文	単	「東三省政権をめぐる東アジア国際政治と楊宇霆」	『史学雑誌』第113編7号 史学会	pp.37-70	平16. 7
著書	単	『日本海軍から見た日中関係史研究』	芙蓉書房出版	全308p	平14. 5
論文	単	「汪兆銘工作をめぐる日米関係と日本海軍」	『国際政治』第126号 日本国際政治学会	pp.185-198	平13. 4
論文	単	「日中戦争下の日本の華僑工作」	『アジア経済』第41巻4号 日本貿易振興機構アジア経済 研究所研究支援部	pp.2-16	平12. 4
論文	単	「日本海軍の大陸政策の一側面－1906～21年－」	『国史学』第147号 国史学会	pp.63-91	平4. 5

【所属学会】国史学会、日本国際政治学会、軍事史学会、史学会

【最近の社会的活動等】

【教育活動について】

「就職氷河期」といわれる近年の社会情勢に鑑み、教育活動では、プレゼンテーション能力の向上に重きを置いて授業を進めている。私の所属する文学部史学科は、残念ながら、内向的で、自分を表現することが不得手な学生が多い。しかし、それでは、就職活動において自分をアピールすることができない。そこで、授業においては、報告回数を増やすとともに、一人の学生を報告者に対するコメンテーターに指名し、討論形式で授業を進めるようにしている。また、1年生に「自分形成史」を書かせるなどの工夫をすることで、学生たちが自分の長所をできるだけ早く見つけられるように努めている。

【研究活動について】

近年は、近代日本の対中政策の形成・遂行と同時期の中国の政治・社会的変動との相互規定性を分析する研究を継続している。従来の日中関係史研究は、日本を「加害者」、中国を「被害者」とし、日本の中国侵略と中国の対応とを分析するものだった。私はこれに対し、清末から中華人民共和国成立後に至る政治・社会的変動の実態とそれに与えた日本の影響に着目し、東アジア全体における旧新秩序の崩壊・移行・形成・確立を分析したうえで、従来の日中関係史像を相対化しようと努めている。日中双方の規定性を探るうえで鍵となるのが、中国政界で重きをなしながら、対日宥和政策をとる「親日派」「漢奸」である。そこで、上記の研究を進めるにあたり、袁世凱、段祺瑞、張作霖、楊宇霆、愛新覺羅溥儀、汪兆銘らの人物に具体的に着目している。今後も、以上のような方向性で研究を進めていきたい。

【職・氏名】教 授 古 山 正 人 (FURUYAMA Masato)
 【学 位】文学修士
 【生 年】昭和24(1949)年
 【本学就任】平成7(1995)年4月1日
 【略 歴】新潟大学人文学部史学科卒業
 東京大学大学院人文科学研究科西洋史学専攻博士課程単位取得満期退学
 電気通信大学助教授
 【専門分野】古代ギリシア史

【最近5年間の主な研究業績等】 [平成18～22年度] (10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文	単	「スパルタとペリオイコイの法的軍事的関係」	『國學院雑誌』第111巻第6号 國學院大學	全16p	平22. 6
著書	単	「スパルタの国家構造の再検討 ―ペリオイコイ研究の 視角から―」	科学研究費補助金 (基盤研究(C)課題番号18520571) 研究成果報告書		平21. 3
論文	単	古代ギリシアのポリスと手工業	『國學院雑誌』第109巻第11号 國學院大學	全20p	平20. 11
論文	単	「キュテラとキュテロディケス」	『國學院雑誌』第109巻第6号 國學院大學	全10p	平20. 6
論文	単	「メッセニアにおけるペリオイコイ集落の状況」	『國學院大學大学院紀要―文学研究 科―』第39輯 國學院大學大学院文学研究科	全27p	平20. 3
論文	単	「西欧のアミュレットについて―古代ギリシア・ローマを中 心に―」	『國學院大學紀要』第46巻 國學院大學	全25p	平20. 2
論文	単	「ラコニア南部地域ペリオイコイ共同体の動向」	『國學院大學大学院紀要―文学研究 科―』第38輯 國學院大學大学院文学研究科	pp.171-194	平19. 3

【平成17年度以前の主な研究業績等】 (5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文	単	「Herodotos 1.82 と Pausanias 2.24.7―ヒュシアイとテュ レアティスの帰属をめぐって―」	『國學院大學大学院紀要―文学研究 科―』第34輯 國學院大學大学院文学研究科	pp.173-194	平15. 3
著書	共	『岩波講座世界歴史4 地中海世界と古代文明』	岩波書店	全342p	平10. 6
論文	単	“Minor Social Groups in Sparta-Mothakes, Trophimoi, Nothoi of Spartiatiai”	Kodai.Journal of Ancient History 2	pp.1-20	平3. 7
論文	単	「アギスとクレオメネスの改革―前三世紀後半のスパルタ の諸階層と改革の結果」	『史学雑誌』91-8 財団法人史学会	pp.1-31	昭57. 8
論文	単	「前580/79年の10人のアルコン―ソロン改革後のアテナ イ」	弓削達・伊藤貞夫編 『古典古代の社会と国家』 東京大学出版会	pp.33-68	昭52. 6

【所属学会】史学会、日本西洋古典学会、日本西洋史学会、地中海学会、古代世界研究会、西洋史研究会

【最近の社会的活動等】

Associate Editor of Kodai. Journal of Ancient History(平成5～15年)、NHK文化センター青山教室講師(平成14年・17年)

【教育活動について】

歴史学は特定の時空で展開した人間の営みを理解する学問であること学生が理解するように努めてきた。授業においては知識偏重教育に偏らぬよう、史料とレジュメを配布し、講義内容を学生が自ら検証することを可能な形にし、学生の調査・思考力を高めようと努力している。演習科目に関しては、学生の研究報告を重視し、彼らの調査(資料収集・分析)能力を高めつつ、プレゼンテーション・ディスカッションの力を涵養するようにしている。また、西洋史コースでは外国語文献の読解能力を高めることも、質の高い卒業論文作成の前提である。そのために、英文講読を実施し、毎回訳文を提出させ添削し、夏期休暇中に学生各自のテーマに即した英文の翻訳を課題とし、これも一部添削している。西洋古代史の概説的講義の理解を深めるために、同学の研究者とともに史料集を刊行している(古山他『西洋古代史料集「第2版」』東京大学出版会)。

【研究活動について】

従来からスパルタ史研究を進めている。近年は科学研究費の助成を受けて、ペリオイコイ研究を推進し、2011年3月刊行予定の論文を含め8編の論文を公表している。また本学の千々和教授の護符研究に協力し、古代ギリシア・ローマのアミュレット研究、コース・タブレット研究の実態を紹介し、我が国の西洋古代史研究ではほとんど注目されることのなかった分野に鉾を入れた。スパルタ史研究では、近年の欧米におけるエフォロイ制度研究の活況を受けて、エフォロイ制度、ひいてはスパルタの国制史の全面的再検討に着手し、手始めにM. I. Finleyの”スパルタ前6世紀革命説”の再検討を行い、10月22・23日に韓国のソウル市で開催されたThe 9th Korea-Japan China Symposium on Ancient History of EuropeにおいてThe Politics and Culture in the Sixth Century Sparta. A Reappraisal of M.I.Finley’s Sixth-Century Revolutionと題した口頭報告を行った。

【職・氏名】教 授 柳 田 康 雄 (YANAGIDA Yasuo)
 【学 位】博士(歴史学)(平成15年3月 國學院大學 文乙183号)
 【生 年】昭和18(1943)年
 【本学就任】平成20(2008)年4月1日
 【略 歴】國學院大學文学部史学科卒業
 福岡県教育庁文化財保護課長
 九州歴史資料館副館長
 【専門分野】考古学

【最近5年間の主な研究業績等】〔平成18～22年度〕(10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	「日本出土青銅製把頭飾と銅剣」	『坪井清足先生卒寿記念論文集』 坪井清足先生の卒寿をお祝いする会	pp.702-712	平22. 11
論文	単	「弥生王権の東漸」	『日本基層文化論 梶山林継先生 古稀記念論集』 雄山閣	pp.58-68	平22. 8
論文	単	「弥生時代青銅器土製鋳型研究序論」	『國學院雑誌』第110巻第6号 國學院大學	pp.1-19	平21. 6
論文	単	「中国式銅剣と磨製石剣」	『國學院大學大学院紀要—文学 研究科—』第40輯 國學院大學大学院文学研究科	pp.159-188	平21. 3
論文	単	「銅戈の型式分類と生産・流通」	『古代学研究』180 古代学研究会	pp.65-83	平20. 11
論文	単	「弥生時代の手工業生産と王権」	『國學院雑誌』第109巻第11号 國學院大學	pp.3-19	平20. 11
論文	単	「青銅武器・武器形青銅祭器の使用痕」	『橿原考古学研究所論集』第15 八木書店	pp.43-71	平20. 9
論文	単	「弥生ガラスの考古学」	『九州と東アジアの考古学—九州 大学考古学研究室50周年記念論 文集—』	pp.254-274	平20. 5
論文	単	「銅剣鋳型と製品」	『考古学雑誌』第91巻第1号 日本考古学会	全104p中 pp.1-43	平19. 1
論文	単	「中国地方の青銅武器」	『喜谷美宣先生古希記念論集』 喜谷美宣先生古稀記念論集刊行会	pp.61-71	平18. 6
【平成17年度以前の主な研究業績等】(5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	「日本・朝鮮半島の中国式銅剣と実年代論」	『九州歴史資料館研究論集』29 九州歴史資料館	pp.1-48	平16. 3
論文	単	「摩滅鏡と踏返し鏡」	『九州歴史資料館研究論集』27 九州歴史資料館	pp.1-69	平14. 3
論文	単	『短身銅矛論』	『橿原考古学研究所論集』第14 八木書店	pp.91-123	平15. 11
著書	単	『九州弥生文化の研究』	学生社	全301p	平14. 3
著書	単	『伊都国を掘る』	大和書房	全230p	平12. 12

【所属学会】九州考古学会、日本考古学会、古代学研究会、考古学研究会、日本考古学協会、日本遺跡学会

【最近の社会的活動等】

奈良県立橿原考古学研究所共同研究員(平成13年～現在)、國學院大學日本文化研究所共同研究員(平成16～18年)、
 NPO法人 文化財匠塾理事長(平成16～18年)

【教育活動について】

論文の「九州弥生文化の研究」、「摩滅鏡と踏返し鏡」、「日本・朝鮮半島の中国式銅剣と実年代論」、「銅剣鋳型と製品」、「銅戈の型式分類と生産・流通」、「青銅武器・武器形青銅祭器の使用痕」、「弥生ガラスの考古学」、「弥生時代の手工業生産と王権」などで実践してきた実大実測図や画像資料を教材とすることによって、考古学は実際の遺跡と遺物を見極め、研究することが基本であること。考古学の基礎的技術を習得してから、基本資料の検証と分析方法を身につけるためには、テーマの選択と研究法、資料の問題点の所在と分析法を指導し、各自の発表を通じて考古学の基本的研究法を習得できるようにする。したがって授業評価は、出席することを第一にして、授業内容に即した各自の発表と他人の評価内容を重視する。平成22年は、「女王卑弥呼の国を探る in 桜井」『平成遷都1300年記念事業 2010年桜井市歴史観光フォーラム』では「イト国から」からヤマト王権へを、長野県「佐久考古学会」記念講演(2010年)では「北部九州と東日本の青銅器文化」を、福岡県糸島市「深江歴史大学」では2回に分けて「三雲遺跡・平原遺跡の諸問題」を講演するなど、年に4・5回の講演依頼がある。

【研究活動について】

近年では、「弥生時代青銅器土製鋳型研究序論」、「弥生王権の東漸」、「日本出土青銅製把頭飾と銅剣」、「佐賀県中原遺跡青銅器鋳型の実態」など、年に2・3の論文を発表している。平成21年度から大学院特定課題研究費によって、「東日本における弥生時代青銅器祭祀をテーマに青銅器とその模倣石器の実測と観察実習を学生と共に実践しており、これを平成23年度に共著で出版する予定。卒業論文・修士論文・博士論文を目指している学生には、日常の論文指導とは別に、希望するテーマに沿った遺跡・遺物の現地見学や実物実測・写真撮影などの研修を実施している。

【職・氏名】准教授 矢部 健太郎 (YABE Kentaro)
 【学 位】博士(歴史学)(平成16年3月 國學院大學 文甲第60号)
 【生 年】昭和47(1972)年
 【本学就任】平成19(2007)年4月1日
 【略 歴】國學院大學文学部史学科卒業
 國學院大學大学院文学研究科日本史学専攻博士課程後期修了
 防衛大学校人文社会科学群人間文化学科講師
 【専門分野】室町・戦国・織豊期の政治史・公武関係史

【最近5年間の主な研究業績等】〔平成18～22年度〕（10点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	「秀吉の小田原出兵と『清華成』大名」	『國學院大學紀要』第49巻 國學院大學		平23. 2
学会発表等	単	『源姓』徳川家への『豊臣姓』下賜一秀忠の叙任関係文書の検討から一	日本古文書学会大会 日本古文書学会		平22. 9
論文	単	「中世武家権力の秩序形成と朝廷～近衛府の任官状況をめぐって～」	『国史学』200号 国史学会	pp.53-102	平22. 4
学会発表等	単	「中世武家権力の秩序形成と朝廷～近衛府の任官状況をめぐって～」	国史学会 百周年シンポジウム 国史学会		平21. 6
論文	単	「天下人と茶の湯」	堀新編『「信長公記」を読む』 吉川弘文館	pp.221-239	平21. 2
論文	単	「小早川家の『清華成』と豊臣政権」	『国史学』196号 国史学会	全160p中 pp.63-98	平20. 12
学会発表等	単	「小早川家の『清華成』と豊臣政権」	国史学会		平19. 7

【平成17年度以前の主な研究業績等】（5点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	「東国『惣無事』政策の展開と家康・景勝—『私戦』の禁止と『公戦』の遂行—」	『日本史研究』509号 日本史研究会	pp.34-57	平17. 1
論文	単	『豊臣政権の支配秩序と朝廷』（國學院大學学位論文）			平16. 3
論文	単	「太閤秀吉の政権構想と大名の序列」	『歴史評論』640号 校倉書房	pp.42-54	平15. 7
論文	単	「豊臣『公儀』の確立と諸大名」	『史学研究集録』26号 國學院大學大学院史学専攻大学院会	pp.17-39	平13. 3
論文	単	「豊臣『武家清華家』の創出」	『歴史学研究』第746号 歴史学研究会	pp.17-31	平13. 2

【所属学会】国史学会、戦国史研究会、歴史学研究会、日本史研究会、日本古文書学会、織豊期研究会

【最近の社会的活動等】

全日本剣道連盟東日本資料小委員会委員(平成12～17年)、全日本剣道連盟東日本資料小委員会幹事(平成17年～現在)

【教育活動について】

演習の人数が多い傾向にあるので、学生の発表の機会をいかに充実したものにするかが大きな課題である。1回の報告時間を短くし、集中した討論を行うことで、半期に各自最低2回は研究報告を行う機会を設けている。また、レジュメの作成や発表の方法、史料操作や立論の仕方を理解させる機会として、教員自らが研究報告を行うことにしている。その内容は、これまでの研究の焼き直しではなく現在の研究課題そのものであり、私自身にとっても、学生にとっても意義のある機会にできればと思っている。2010年度は夏合宿でその機会を設けたが、2011年度以降は、毎年7月に予定している3・4年生合同の卒業論文指導会でこれを行い、約1ヶ月後の夏合宿の事前指導として、学生の発表技術向上の一助にしたい。

【研究活動について】

2011年の大きな課題の1つに、博士学位論文『豊臣政権の支配秩序と朝廷』を出版することがある。加えて、現在3本の依頼論文があり、それぞれのメ切りが2011年1月・5月・10月なので、日々の調査研究・執筆活動が重要である。この3本は、豊臣政権の一大変革期である文禄年間の秀次切腹事件に関連するものであるが、この一件をめぐる血判起請文・「掟書」の総合的な研究は、今後の研究活動の1つの柱といえるだろう。また、2010年古文書学会大会での研究報告についても、早期の活字化を目指さなければならない。課題は山積しているが、鋭意努力していきたい。

【職・氏名】准 教 授 吉 岡 孝 (YOSHIOKA Takashi)
 【学 位】文学修士
 【生 年】昭和37(1962)年
 【本学就任】平成18(2006)年4月1日
 【略 歴】國學院大學文学部史学科卒業
 法政大学大学院人文科学研究科日本史学専攻修士課程修了
 法政大学大学院人文科学研究科日本史学専攻博士課程単位取得満期退学
 【専門分野】日本近世史

【最近5年間の主な研究業績等】 [平成18～22年度] (10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文	単	「ある開発批判言説の同時代認識と世界観－武蔵野の開発をめぐる－」	根岸茂夫・大友一雄・佐藤孝之・末岡照啓編『近世の環境と開発』 思文閣出版	全359p中 pp.29-48	平22. 12
評論・ 書評等	単	大石学編『十九世紀の政権交代と社会変動－社会・外交・国家－』	『地方史研究』第345号 地方史研究協議会	全130p中 pp.120-122	平22. 6
論文	単	「吉宗政権における古式復興と儀礼」	『国史学』第200号 国史学会	全287p中 pp.103-145	平22. 4
解説・ 解題等	単	「大谷貞夫氏の江戸幕府牧の研究継承のために」	『江戸幕府の直営牧』 岩田書院	全335p中 pp.303-312	平21. 11
学会発表 等	単	「吉宗政権における古式復興と儀礼」	国史学会大会 (於國學院大學)		平21. 6
編著	単	『新編荷田春満全集』第10巻「国史」	おうふう	全484p	平21. 1
評論・ 書評等	単	酒井耕造著『近世会津の村と社会』	『地方史研究』 第57巻第6号 地方史研究協議会	全94p中 pp.85-86	平19. 12
評論・ 書評等	単	「関東取締出役研究会編『関東取締出役』」	『関東近世史研究』 61号 関東近世史研究会	全74p中 pp.38-42	平19. 3
論文	単	「八王子千人頭からみた日光の儀礼的空間」	『日本文化と神道』第3号(國學院大學21世紀COEプログラム「神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成」成果論文集) 國學院大學21世紀COEプログラム研究センター	全532p中 pp.197-218	平18. 12
論文	単	「享保期和学御用の再検討」	『國學院雑誌』 第107巻第11号 國學院大學	全395p中 pp.346-358	平18. 11

【平成17年度以前の主な研究業績等】 (5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文	単	「天保弘化期幕府勘定所の『御人減』と『御増人』」	『國學院雑誌』 第107巻第1巻 國學院大學	pp.17-31	平18. 1
著書	共	『高尾山薬王院文書を紐とく』	ふこく出版	全231p中 pp.117-123, 189-192	平17. 6
著書	単	『江戸のバガボンドたち』	ぶんか社	全366p	平15. 12
著書	単	『八王子千人同心』	同成社	全206p	平14. 12
論文	単	「関東取締出役成立についての再検討」	『日本歴史』 第631号 日本歴史学会	pp.54-70	平12. 12

【所属学会】日本史研究会、地方史研究協議会、国史学会、日本古文書学会、歴史学研究会、史学会

【最近の社会的活動等】

江戸川区文化財保護審議会委員(平成22年10月～現在)

【教育活動について】

講義中に小テストとともに、学生に講義に関する感想を書かせ、理解度を探り、講義に活かしている。またFD委員会が実施している「授業評価」の成果も同様に活用している。 少人数の場合はできるだけ話をしながら、学生の志向性を活かし指導するよう心懸けている。

【研究活動について】

八王子を中心に分布していた江戸幕府の下級奉公人である八王子千人同心に関する研究を中心に、吉宗政権の儀礼政策から徳川王権の性格を追求する研究や、江戸時代の渋谷地域の研究などを行なっている。

【職・氏名】教 授 吉 田 恵 二 (YOSHIDA Eiji)
 【学 位】文学士
 【生 年】昭和22(1947)年
 【本学就任】昭和55(1980)年4月1日
 【略 歴】京都大学文学部史学科卒業
 奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部(文部技官)
 【専門分野】日本古代及び中国古代の考古学

【最近5年間の主な研究業績等】〔平成18～22年度〕（10点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文	単	「日本古代の手工業生産と組織」	『國學院雑誌』 第109巻第11号 國學院大學	全323p中 pp.98-104	平20. 11
辞書・ 事典等	共	「東アジア考古学辞典」	東京堂出版		平19. 5
論文	単	「日本古代の儀礼と祭祀」	『國學院大學21世紀COEプログラム「神道と 日本文化の国学的研究発信の拠点形成」全 体報告書』 國學院大學21世紀COEプログラム研究セン ター	全15p	平19. 3
論文	単	「神の器、人の器」	『國學院大學考古学資料館紀要』 第23輯 國學院大學考古学資料館	全7p	平19. 3
【平成17年度以前の主な研究業績等】（5点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
論文	単	「中国古代俗信遺物と我が国への波及」	『日本文化と神道』第2号(國學院大學21世紀 COEプログラム「神道と日本文化の国学的研 究発信の拠点形成」成果論文集) 國學院大學21世紀COEプログラム研究セン ター	全35p	平18. 2
論文	単	「中国古代筆墨考」	『國學院雑誌』 第103巻第10号 國學院大學	全50p中 pp.1-17	平14. 10
論文	単	「漢長方形板石硯考」	『論苑考古学』 天山舎	pp.781-816	平5. 4
論文	単	「中国古代に於ける円形硯の成立と展開」	『國學院大學紀要』 第30巻 國學院大學	pp.155-201	平4. 3
著書	共	『平城宮発掘報告VI』	奈良国立文化財研究所	全212p	昭50. 1

【所属学会】日本考古学協会、日本中国考古学会、日本遺跡学会

【最近の社会的活動等】

多摩市文化財保護審議委員会委員(平成元年～現在)、考古学研究会全国委員、NPO法人文化財保護活用機構理事、
中国社会科学院考古研究所海外研究員(平成12年～現在)

【教育活動について】

①授業では教科書は使わず、独自に作成したプリントを配布している。特に考古学では図や写真を多用するので、プリントは遺跡や遺物の図・写真・表を中心とし、白黒の印刷では分からない遺跡の土層や遺物の材質・色調についてはスライドその他映像資料を用いて理解に努めている。また、博物館では見ることしかできない遺物については、私物に限って実物を手にとりて重さや質感・大きさが実感できるように努めている。②高校用の日本史B教科書に旧石器時代から古墳時代までを執筆し、歴史の理解に努めている。③測量から発掘まで様々な技術と方法を必要とする考古学では、実際の発掘経験が大事になるため、夏期休暇に発掘実習を行ない、その成果を國學院大學考古学実習報告という形で出版し、報告書作成のノウハウを覚えてもらい、卒業後の専門職としての業務と研究能力を養っている。

【研究活動について】

日本文化の源流の一つとなった中国・朝鮮の古代文化を主たる研究テーマとしているため、大学からの在外研究派遣とは別に、機会を設けて私費で出かけている。特に指導学生の留学先には積極的に出かけ、留学先での利便に努めている。

【職・氏名】教 授 吉 田 敏 弘 (YOSHIDA Toshihiro)
 【学 位】文学修士
 【生 年】昭和30(1955)年
 【本学就任】平成4(1992)年4月1日
 【略 歴】京都大学文学部史学科(人文地理学専攻)卒業
 京都大学大学院文学研究科(地理学専攻)修士課程修了
 京都大学文学部助手(地理学教室)
 大阪学院大学教養部助教授(地理学担当)
 【専門分野】人文地理学、歴史地理学、地図史

【最近5年間の主な研究業績等】 [平成18～22年度] (10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	中世農業の展開と集村化現象	近藤成一/小路田泰直/ローベ ルト・ホレス/デトレフ・タランチェ フスキ編『中世 西欧と日本—多 極と分権の時代』 吉川弘文館	pp.111-124	平21. 8
調査・研 究報告等	単	「世界遺産候補・骨寺村の景観—荘園絵図を読み解 く」	『古地図文化ぎふ』9 岐阜県古地図文化研究会	全16p中 pp.2-11	平21. 7
著書	共	『近江八幡市史』第4巻「自治の伝統」	近江八幡市	全293p	平20. 3
著書	単	『絵図と景観が語る骨寺村の歴史—中世の風景が残る 村とその魅力』	本の森	全142p	平20. 10
論文	単	「文化景観保全と地理学」	『地理月報』499号	pp.1-4	平19. 5
論文	単	「一関市本寺地区の農村景観—その意義と保全にむ けての提言」	『ヒストリア』202号	pp.79-92	平18. 11

【平成17年度以前の主な研究業績等】 (5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
著書	共	『歴史地理調査ハンドブック』	古今書院	pp.1-16, 152-156	平13. 5
論文	単	「中世地図史料と絵図」	石井正敏ほか編『今日の古文書 学 第3巻中世』 雄山閣出版	pp.288-309	平12. 1
著書	共	『中世荘園絵図大成』	河出書房新社	pp.39-50, 106-114, 115-120, 157-161, 162-171, 31-48	平9. 5
論文	単	「中世絵図のランゲージ研究にむけて—その空間表 現を中心に」	水津一朗先生退官記念事業会 編『人文地理学の視園』 大明堂	pp.233-244	昭61. 4
論文	単	「中世村落の構造とその変容過程—「小村＝散居型村 落」論の歴史地理学的再検討」	『史林』66巻3号	pp.80-146	昭58. 5

【所属学会】人文地理学会、日本地理学会、歴史地理学会、史学研究会(京都)、国史学会、日本国際地図学会

【最近の社会的活動等】

近江八幡市史執筆委員(平成19年4月～20年3月)、中世骨寺村荘園遺跡指導委員(平成12年10月～20年3月)

【教育活動について】

歴史地理学分野の基礎知識・方法論・研究法の指導とともに、学生に伝統的景観・生態系保全活動の意義を理解させ、これに積極的に参加できる人材の育成に努めている。平成22年度から岩手県一関市本寺地区(国重要文化的景観)の伝統的な小区画水田のうち、耕作放棄されている地筆を復元し、無農薬無化学肥料によるイネの栽培に取り組んでいる。さらに地理情報システムを用いた伝統的景観の復元作業を歴史地理調査法で指導し、伝統的景観に対する理解を深めさせるとともに、GISの業務用エンジンの取り扱いに習熟させ、学生たちのスキルアップの向上を図っている。一関市をフィールドとするこれらの取り組みでは、平成22年度岩手県ふる水事業の選定を受け、成果報告書を岩手県に提出、学生たちからの今後の景観保全の在り方に対する提言は高い評価を受けた。ただし、一関市までの旅費は学生の負担が大きく、繰り返し現地を訪問させることは困難であり、学生の負担の軽減化が課題である。

【研究活動について】

これまで取り組んできた一関市本寺地区の伝統的農村景観調査に関する成果報告をいくつかの論文に分割し、執筆を進めている。さらに、調査域を拡充して、一関市磐井川流域における伝統的用水路網と穴山堰の産業遺産にかかわる基礎調査に従事し、この地域における水田開発史と伝統的水田景観の在り方の究明を進めている。これとともに、東北日本における在来農法や明治農法の展開過程の研究に着手し、近代以降の水田景観の変容に関するメカニズムの解明を目指している。

文 学 部

【哲学科】

栗 田 義 彦 教 授		69
池 上 英 洋 准 教 授		70
木 原 志 乃 准 教 授		71
谷 川 渥 教 授		72
千 田 義 光 教 授		73
宮 元 啓 一 教 授		74

【職・氏名】教 授 栗 田 義 彦 (AWATA Yoshihiko)

【学 位】文学修士

【生 年】昭和20(1945)年

【本学就任】平成10(1998)年4月1日

【略 歴】國學院大學文学部哲学科卒業
 東京都立大学大学院人文科学研究科哲学専攻博士課程単位取得満期退学
 國學院女子短期大学(現・國學院大學北海道短期大学部)助教授
 山村女子短期大学教授

【専門分野】哲学、倫理学

【最近5年間の主な研究業績等】 [平成18～22年度] (10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	「カント倫理学における道徳法則の妥当性」	『國學院雑誌』 第111巻第11号 國學院大學	pp.282-291	平22. 11
論文	単	「尊厳死における「滑りやすい坂道」」	『國學院雑誌』 第110巻第3号 國學院大學	pp.1-11	平21. 3
論文	単	「臓器移植法改正の再考」	『國學院雑誌』 第108巻12号 國學院大學	pp.1-13	平19. 12

【平成17年度以前の主な研究業績等】 (5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	「臓器移植法の改正に関する一提言」	『國學院雑誌』 第105巻第6号 國學院大學	全70p中 pp.1-16	平16. 6
論文	単	「カントにおける概念の感性的直観への対応」	『國學院雑誌』 第100巻第5号 國學院大學	全70p中 pp.1-15	平11. 5
論文	単	「脳死と内的意識」	『國學院雑誌』 第92巻第11号 (哲学特集号) 國學院大學	全296p中 pp.253-265	平3. 11
著書	共	『ドイツ観念論哲学の原理』	高文堂出版社	全198p中 pp.9-70	昭58. 4
著書	単	『習俗と倫理』	高文堂出版社	全189p	昭57. 2

【所属学会】日本哲学会、日本倫理学会、エーゲ海学会、日本生命倫理学会、國學院大學哲学会

【最近の社会的活動等】

【教育活動について】

授業は、演習科目(2年生対象科目と3・4年生対象科目)と講義科目を担当しており、各々私なりの工夫をしている。2年生対象の演習では、哲学・倫理学の基礎的能力を培うことを目的としている。そのためにオーソドックスな古典をテキストに取り上げ、学生自身にその内容の発表・討論等をさせている。3・4年生対象の演習の一つ(倫理学系)では、日本生命倫理学会の機関紙に掲載されている現今の学術論文毎週一篇取り上げ、それを学生に発表させつつ討論している。また他の演習(哲学系)では、かなり難解な古典(最も哲学的な著作)をテキストとして選び、本物の哲学に触れてもらうようにしている。講義科目では、市販の教科書の類は用いず、自らのオリジナルな内容を講じている。

【研究活動について】

生命倫理に関する研究に力を入れている。これは極めて今日的な研究分野であるが、生命倫理と言われながら、所謂オーソドックスな倫理学を専門とする研究者による研究は意外と少ないのである。私は哲学・倫理学的知識等を礎として、この分野の諸問題に検討を加えている。この成果は、言うまでもなく学生への授業に積極的に生かされる。

【職・氏名】准 教 授 池 上 英 洋 (IKEGAMI Hidehiro)
 【学 位】修士(芸術学)
 【生 年】昭和42(1967)年
 【本学就任】平成22(2010)年4月1日
 【略 歴】東京藝術大学大学院美術研究科修士課程(西洋美術史専攻)修了
 ボローニャ大学諸芸術研究科(DAMS)研究生
 恵泉女学園大学人文学部文化学科准教授
 【専門分野】西洋美術史・文化史

【最近5年間の主な研究業績等】[平成18～22年度] (10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
著書	単	『ラファエッロ 生涯と作品』 (もっと知りたいシリーズ)	東京美術	全80p	平21. 11
編著	共	『ダ・ヴィンチ 全作品・全解剖』	阪急コミュニケーションズ	全112p	平21. 7
編著	共	『イメージとパトロン—美術史を学ぶための23章』	ブリュッケ	全400p	平21. 6
著書	単	『恋する西洋美術史』	光文社	全312p	平20. 12
著書	単	『血みどろの西洋史』	河出書房新社	全217p	平19. 10
編著	共	『レオナルド・ダ・ヴィンチの世界 —All about Leonardo』	東京堂出版	全464p	平19. 5
著書	共	『レオナルド・ダ・ヴィンチと受胎告知』	平凡社	全236p中 pp.137-236	平19. 4
編著	共	『イメージとテキスト—美術史を学ぶための13章』	ブリュッケ	全312p	平19. 4
編著	共	『レオナルド・ダ・ヴィンチ—天才の実像』	朝日新聞社、NHK、NHKプロ モーション	全220p	平19. 3
著書	単	『レオナルド・ダ・ヴィンチ——西洋絵画の巨匠』	小学館	全128p	平19. 1

【平成17年度以前の主な研究業績等】 (5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
著書	単	Due volti dell'Anamorfosi-Prospettiva e 'Vanitas': Niceron, Pozzo, Holbein e Descartes-	CLUEB (Cooperativa Libreria Universitaria Editrice Bologna:叢 書<Lexis Idee delle arti>), Bologna, ITALY	全135p	平12. 9
著書	共	『イタリア・ルネサンス美術論』	東京堂出版	全253p中 pp.136-150, pp.201-214	平12. 6
論文	単	「アナモルフォーズ・ヴァニタス・'cogito」	『美学』 198 美学会	pp.25-36	平11. 9
著書	単	Sviluppo sommerso-Pecorialita' della teoria prospettica di Andrea Pozzo-	CLUEB (Cooperativa Libreria Universitaria Editrice Bologna), Bologna, ITALY	全60p	平10. 3
論文	単	「アンドレア・ポッツォの遠近作図法 —その特質と 意義—」	『美術史』 138 美術史学会	pp.200-219	平7. 3

【所属学会】美術史学会、美学会、日仏美術史学会、地中海学会、西洋中世学会

【最近の社会的活動等】

文部科学大臣賞選考委員(二紀会)、世界遺産検定委員(イタリア地域監修)(平成20年～現在)

「レオナルド・ダ・ヴィンチ—天才の実像展」日本側監修(平成18年10月～平成19年4月)□

「特別展 レオナルド・ダ・ヴィンチ」日本側監修(平成22年9月～平成23年3月)

【教育活動について】

美学美術史という分野の特性上、モザイクやフレスコといった技法を実際に体験する必要があるため、同コースの演習科目を履修している学生向けに実技の時間を組み入れている。加えて、同分野では欧語の読解力が重要となるため、演習科目の一部に欧語のみによる時間を設けている。また、同コースの学生の進路として希望が多い、著述・編集・広告の世界に進むためにも、演習科目では一年間かけて学生自主制作による雑誌を制作する授業を採り入れている。

【研究活動について】

レオナルド・ダ・ヴィンチ以降、ヴィニョーラを経て、ポッツォらイエズス会派を中心とするハイ・バロック期へといった、遠近法の展開とその背景となる思想を一貫して追っている。日々の教育活動のあいまに同テーマの研究を進め、時おり成果を活字として継続的に発表している。

【職・氏名】准教授 木原志乃 (KIHARA Shino)
 【学 位】博士(文学)(平成15年7月 京都大学 第257号)
 【生 年】昭和44(1969)年
 【本学就任】平成17(2005)年4月1日
 【略 歴】関西大学文学部哲学科卒業
 京都大学大学院文学研究科修士課程哲学専攻(西洋哲学史)修了
 京都大学大学院文学研究科博士後期課程思想文化学専攻(西洋哲学史)研究指導認定退学
 【専門分野】西洋古代哲学、古代ギリシア医学思想史

【最近5年間の主な研究業績等】 [平成18～22年度] (10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	「ヘラクレイトスのダイモーンと魂」	『國學院雑誌』 第111巻第11号 國學院大學	pp.76-89	平22. 12
著書	単	『流転のロゴス——ヘラクレイトスとギリシア医学』	昭和堂	全312p	平22. 3
翻訳・翻刻書	共	D.セドレー著『古代ギリシア・ローマの哲学 ケンブリッジ・コンパニオン』	京都大学学術出版	全546p中 pp.389-428	平21. 6
その他	共	「初期ギリシア哲学の文献事情」	『哲学の歴史』 第1巻[古代] 中央公論新社		平20. 2
論文	単	「Melancholicoiにおける魂の運動と知性—アリストテレスとペリパトス派によるメランコリア概念の位置づけ—」	『古代哲学研究』 第40号 古代哲学会	pp.23-44	平20. 5
学会発表等	単	「Melancholicoiにおける魂の運動と知性」	古代哲学フォーラム(イリソス会)		平19. 3
論文	単	「古代ギリシアにおけるメランコリア—ヒポクラテス派からペリパトス派への医学史的展開」	『國學院雑誌』 第107巻第12号 國學院大學	全40+11p中 pp.1-14	平18. 12
翻訳・翻刻書	共	G.S.カーク, J.E.レイヴン, M.スコフィールド共著『ソクラテス以前の哲学者たち』	京都大学学術出版会	全628p中 pp.237-278	平18. 11

【平成17年度以前の主な研究業績等】 (5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
翻訳・翻刻書	共	ガレノス著『ヒポクラテスとプラトンの学説 1』	京都大学学術出版会(西洋古典叢書)	全321p中 pp.114-317	平17. 10
論文	単	「安楽死問題とヒポクラテスの『誓い』」	『古代哲学研究室紀要』 第13号 京都大学西洋古代哲学史研究室	pp.19-43	平16. 3
論文	単	「初期ギリシア医学理論とヘラクレイトス—クラーシス説における対立物の均衡関係について—」	『立命館哲学』 第14号 立命館哲学会	pp.77-96	平15. 3
論文	単	「エリュクシマコスのエロース論—ヘラクレイトスの「対立の一致」説との関連について—」	『古代哲学研究』 第34号 古代哲学会	pp.29-41	平14. 5
論文	単	「ヘラクレイトスの魂論—断片36における魂概念の生理学的解釈をめぐる—」	『西洋古典学研究』 第50号 日本西洋古典学会	pp.12-23	平14. 3

【所属学会】古代哲学会、日本西洋古典学会、関西哲学会、日本科学史学会、精神医学史学会、ギリシャ哲学セミナー

【最近の社会的活動等】

【教育活動について】

西洋古代哲学・古典学に関するこれまでの教育の実践において心がけてきたのは、しっかりとした原典研究や文献学に重きを置きつつも、狭隘な歴史学習や語学学習にとどまることがないように、様々な文化的・社会的背景との繋がり、および現代的な諸問題との繋がりに配慮しながら、古代ギリシアの思想家たちによる根本洞察のあり方を読み解くということである。そのような哲学研究を通して、現代社会が抱える環境倫理や生命倫理などの深刻な問題をより根源的、鳥瞰的に洞察する力を学生が養っていけるような教育を実践することを目標とし、生きた知の在り方を学ぶ教育の展開に力を注ぎたいと考えている。教育活動における具体的な工夫としては、学生が各自関心を持った問題をじっくり振り返って検討できるように、また豊富な資料に基づいて理解できるように、そのつど自作のプリントを配布してそれに即して講義を進めるように努め、さらにレポート添削など学生の個々の理解度に応じてインタラクティブな授業形式を取り入れ、特に改善すべき点などに関しては学生の声には真摯に耳を傾けるように努めていきたい。

【研究活動について】

私はこれまで初期ギリシア哲学を主たる研究領域とし、ヘラクレイトスの宇宙論・生命論がギリシア思想においていかに独自性を持っていたかを明らかにするとともに、それが同時代の医学理論へと継承されたことの意義について考察してきた。「ソクラテス以前」の自然哲学研究を基盤としながらも、さらにヘレニズム期およびローマ期にまで研究領域を広げて、プラトン、アリストテレス、ストア派の生命観を、ヒポクラテスやガレノスらの医学思想と対比させながら、魂と身体の関係がどのような思想的展開をたどったかを明らかにすることを研究テーマとしている。

【職・氏名】教 授 谷 川 渥 (TANIGAWA Atsushi)
 【学 位】博士(文学)(平成21年12月 大阪大学 第23434号)
 【生 年】昭和23(1948)年
 【本学就任】平成元(1989)年4月1日
 【略 歴】東京大学文学部美学芸術学科卒業
 東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得満期退学
 【専門分野】美学

【最近5年間の主な研究業績等】[平成18～22年度](10点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
著書	単	『肉体の迷宮』	東京書籍	全278p	平21. 4
著書	単	『シュルレアリスムのアメリカ』	みすず書房	全278p	平21. 1
編著	共	『絵画の制作学』	日本文教出版	全407p	平19. 10
著書	単	『美のバロキスム』	武蔵野美術大学出版局	全291p	平18. 12

【平成17年度以前の主な研究業績等】(5点まで)					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
著書	単	『鏡と皮膚』	ポーラ文化研究所	全213p	平6. 4
著書	単	『美学の逆説』	勁草書房	全189p	平5. 10
著書	単	『表象の迷宮』	ありな書房	全219p	平4. 6
著書	共	『記号の劇場』	昭和堂	全263p	昭63. 5
著書	単	『形象と時間』	白水社	全246p	昭61. 6

【所属学会】

【最近の社会的活動等】

【教育活動について】

美学・芸術学という理論的かつ実証的側面を併せ持つディシプリンを理解させるべく、さまざまな切り口、多様な資料、そして何よりアクチュアルな接近方法を提示することで、授業を活性化するように努めている。なお、多くの講演、集中講義などを通して、全国的・多面的に活動が続けている。

【研究活動について】

近現代芸術思潮に関する理論的著作をこれまでに数多く上梓してきたが、現在は特に近代日本に焦点を据えて、西洋芸術思潮と対峙しつつ形成された日本的「美意識」についての研究を進めているところである。

【職・氏名】教 授 千 田 義 光 (CHIDA Yoshiteru)
 【学 位】人文修士
 【生 年】昭和18(1943)年
 【本学就任】昭和46(1971)年4月1日
 【略 歴】東京大学文学部哲学科卒業
 東京大学大学院人文科学研究科哲学専攻博士課程中退
 東京大学文学部助手
 【専門分野】現代西洋哲学、現象学

【最近5年間の主な研究業績等】〔平成18～22年度〕（10点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
解説・ 解題等	単	「渡邊二郎著作集第5巻」	筑摩書房	全606p中 pp.589-601	平22. 12
翻訳・ 翻刻書	共	E. フッサール『イデーニⅢ』	みすず書房	全198p中 pp.54-198	平22. 11
論文	単	「他者の存在。ハイデガーとレヴィナスを巡って」	『國學院雑誌』 第111巻第11号 國學院大學	全363p中 pp.1-12	平22. 11
評論・ 書評等	単	「書評:宮元啓一「インド哲学への招待」(全5巻)」	『國學院雑誌』 第111巻第4号 國學院大學	pp.40-45	平22. 4
論文	単	「他者の存在の存在論的意味」	『國學院雑誌』 第111巻第1号 國學院大學	全70p中 pp.1-13	平22. 1
評論・ 書評等	単	「書評:『高坂正顕－京都学派と歴史哲学』」	『國學院雑誌』 第110号第3巻 國學院大學	全54p中 pp.19-23	平21. 3
解説・ 解題等	単	「編者あとがき」	講座『近・現代ドイツ哲学』別館『ハイ デッガーの「第二の主著」』『哲学への 寄与試論集』研究覚え書き』 理想社	pp.381-383	平20. 5
論文	単	「志向的価値としての自然の本質的価値」	『國學院雑誌』 第108巻第7号 國學院大學	pp.1-12	平19. 7
論文	単	「近代日本における認識論の展開」	『國學院雑誌』 第107巻第7号 國學院大學	pp.62-76	平18. 7
論文	単	Leben, Ent-lebung und phaenomenologisches Sehen bei Heidegger	Hans Rainer Sepp und Ichiro Yamaguchi(hrsg.): Leben als Phaenomen. Die Freiburger Phaenomenologie im Ost-West- Dialog. Verlag Koenigshausen & Neumann GmbH Koenigshausen & Neumann	pp.84-94	平18. 4

【平成17年度以前の主な研究業績等】（5点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または該当ページ	発行年月
論文	単	「生物多様性と倫理学」	『國學院雑誌』 第107巻第1号 國學院大學	pp.74-86	平18. 1
著書	単	Sein des Phaenomenologisierens und Sein der Welt bei Eugen Fink	Anselm Boehmer (Hrsg.): Eugen Fink. Verlag Koenigshausen & Neumann GmbH Verlag Koenigshausen & Neumann	全352p中 pp.220-227	平18
著書	単	「フッサールと主観性の哲学」	千田・久保・高山編『近・現代ドイツ哲 学Ⅱ』 理想社	全282p中 pp.199-225	平18. 1
著書	単	『現象学の基礎』	放送大学教育振興会	全195p	平16. 3
著書	単	『現象学入門』	放送大学教育振興会	全176p	平12. 3

【所属学会】日本哲学会、日本倫理学会、日本現象学会、日本現象学・社会科学会

【最近の社会的活動等】

【教育活動について】

受講者に哲学的な思考の特質を提示し、それに対して受講者が批判的に自己の思考を展開することができることを目標としている。哲
学史の講義においてはできるかぎり正確かつ的確に各々の内容を理解できるようにし、演習においては参加者が自ら考えるよう努めて
いる。

【研究活動について】

従来から行っている現象学の研究を広く現代的な問題関心と重ねながら行っている。また、それと関係して環境哲学の研究を進めて
いく。

【職・氏名】教 授 宮 元 啓 一 (MIYAMOTO Keiichi)
【学 位】博士(文学)(平成9年9月8日 東京大学 第13488号)
【生 年】昭和23(1948)年
【本学就任】昭和61(1986)年4月1日
【略 歴】東京大学文学部印度哲学印度文学科卒業
東京大学大学院人文科学研究科印度哲学専攻課程博士課程単位取得満期退学
日本学術振興会奨励研究員
【専門分野】インド哲学、仏教学、武士道研究
【受賞歴等】日本印度学仏教学会賞(昭和58年6月)

【最近5年間の主な研究業績等】〔平成18～22年度〕（10点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
著書	単	『ブッダのことば』	春秋社	全232p	平21. 10
著書	単	『ヴァイシェーシカ・スートラ』	臨川書店	全260p	平21. 7
論文	単	「saccakiriyaとpāramitā」	『國學院雑誌』 第110巻第6号 國學院大學	pp.1-6	平21. 6
論文	単	「tathagataとsugataの原義」	『國學院雑誌』 第109巻5号 國學院大學	全5p	平20. 5
著書	単	『インド哲学の教室---哲学することの試み』	春秋社	全190p	平20. 6
著書	単	『インドの「多元論哲学」を読む----プラシャスタパーダ 『バダールタダルマ・サングラハ』』	春秋社	全214p	平20. 5
著書	単	『インドの「二元論哲学」を読む----イーシュヴァラクリ シュナ『サーンキヤ・カーリカー』』	春秋社	全203p	平20. 4
著書	単	『インドの「一元論哲学」を読む----シャンカラ『ウパ デーシャサーハスリー』散文篇』	春秋社	全204p	平20. 3
著書	単	『インド人の考えたこと----インド哲学思想史講義』	春秋社	全234p	平20. 2
著書	単	Dasapadārthi – An ancient Indian Literature of Thoroughly Metaphysical Realism	Rinsen Book Co.	全129p	平19. 7

【平成17年度以前の主な研究業績等】（5点まで）					
種類	区分	著書・論文名等	掲載誌・発行所等	総頁数または 該当ページ	発行年月
著書	単	『仏教かく始まりきーバリー仏典『大品』を読む』	春秋社	全230p	平17. 11
論文	単	「自己と世界ーインド哲学の視点より」	『國學院雑誌』 第106巻第7号 國學院大學	pp.1-11	平17. 7
著書	単	『仏教の謎を解く』	鈴木出版	全197p	平17. 6
論文	単	「デーヴァター(devata)について」	『國學院雑誌』 第106巻第3号 國學院大學	pp.1-13	平17. 3
著書	単	『ブッダが考えたこと』	春秋社	全232p	平16. 11

【所属学会】日本印度学仏教学会、インド思想史学会、北海道印度哲学仏教学会、日本仏教学会、仏教思想学会、
南アジア学会
【最近の社会的活動等】
朝日カルチャーセンター講師(平成10～12年)、東方学院講師(～平成11年)、相模原市民大学講師(平成11～12年)、
大倉山文化会議会員(平成元年～12年)
【教育活動について】
インド哲学と仏教を西洋哲学と対比させつつ学生を教育している。

【研究活動について】
ヴァイシェーシカ哲学とヤージュニヤヴァルキヤの哲学の研究を中心にしている。